沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第24集

基地内文化財Ⅲ

－基地内埋蔵文化財分布調査概要（平成14・15年度）－

２００４年（平成１６）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は平成14・15年度にかけて、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した基地内埋蔵文化財分布調査の概要をまとめたものであります。本調査は、沖縄県内に所在する米軍基地および自衛隊基地の埋蔵文化財の分布状況を把握するために、文化庁の補助を受け、平成９年度から実施している継続事業であります。

現在まで、平成９年度は普天間飛行場およびキャンプ瑞慶覧、両米軍基地の過去の調査データをまとめた『基地内文化財Ⅰ』、平成13年度には平成10～13年度の両基地における試掘調査の概要をまとめた『基地内文化財Ⅱ』の２冊の概要報告書を刊行しています。

本調査は、平成13年度から普天間飛行場を中心に調査を実施しています。すなわち、今回の報告である平成14・15年度においても、普天間飛行場内での試掘調査の成果を掲載しています。

さて、平成14年度からの普天間基地内の試掘調査は、木々が深く生い茂り立入が困難な地区においても実施することになりました。その結果、この地区は戦前以前の原地形が良好に残されていることが分り、また埋蔵文化財も良好に保存されていることが改めて確認されました。その成果としては、貝塚時代中期の集落跡が幾つかの地点で見られたこと、また合わせてグスク時代の集落跡等、今まで宜野湾市教育委員会の地道な調査である程度推定されていたものの、よりその分布・性格が少しずつ明らかになってきました。

さらに普天間飛行場内の遺跡の性格・範囲を詳細にするためには、より大きな規模の範囲確認調査を行う必要があります。しかし、平成13年９月11日にアメリカ合衆国で起きた同時多発テロの影響により、普天間飛行場を含む在沖米軍基地内への立入についてはやはり厳しく、試掘調査より期間がかかる範囲確認調査の実施は未だ目処がつかない状況です。

本書で扱った試掘調査の概要は、今回初めて行った普天間飛行場内の戦前の原地形が残されている地区の調査成果であることは、基地内の文化財分布調査の一指針および跡地利用にさいしての事前資料として、埋蔵文化財の保存と活用につながれば幸いです。

最後になりましたが、様々な指導・ご助言・御協力を頂いた諸機関各位に対し、心から感謝申し上げます。

2004年（平成16）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所 長　　安 里　嗣 淳

巻頭図版 1　在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場

Ⅰ区全景

Ⅱ区全景

巻頭図版 2

Ⅰ区71－Ｂ６－サ東壁

Ⅰ区78－Ｂ１－ウ東壁

巻頭図版３

Ⅰ区72－Ｆ２－テ西壁

Ⅰ区62－Ｇ10－ウ西壁

巻頭図版４

Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡平面（南から）

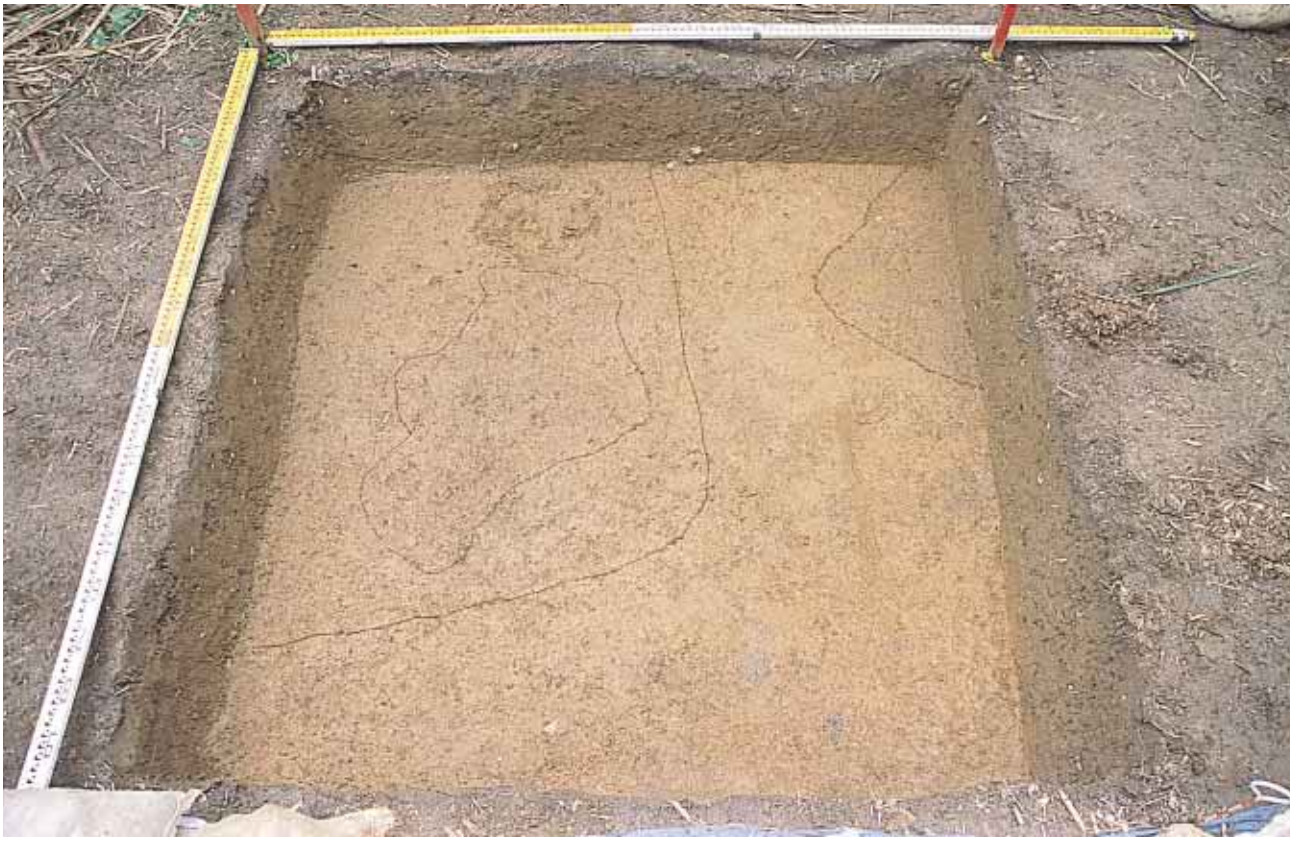
Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡１南東断面

巻頭図版５

Ⅰ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡北西断面

Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡１・２の切り合い

巻頭図版６



Ⅱ区15－Ｊ７－オ焼土遺構平面

Ⅱ区26－Ｅ３－ア№層石器出土状況

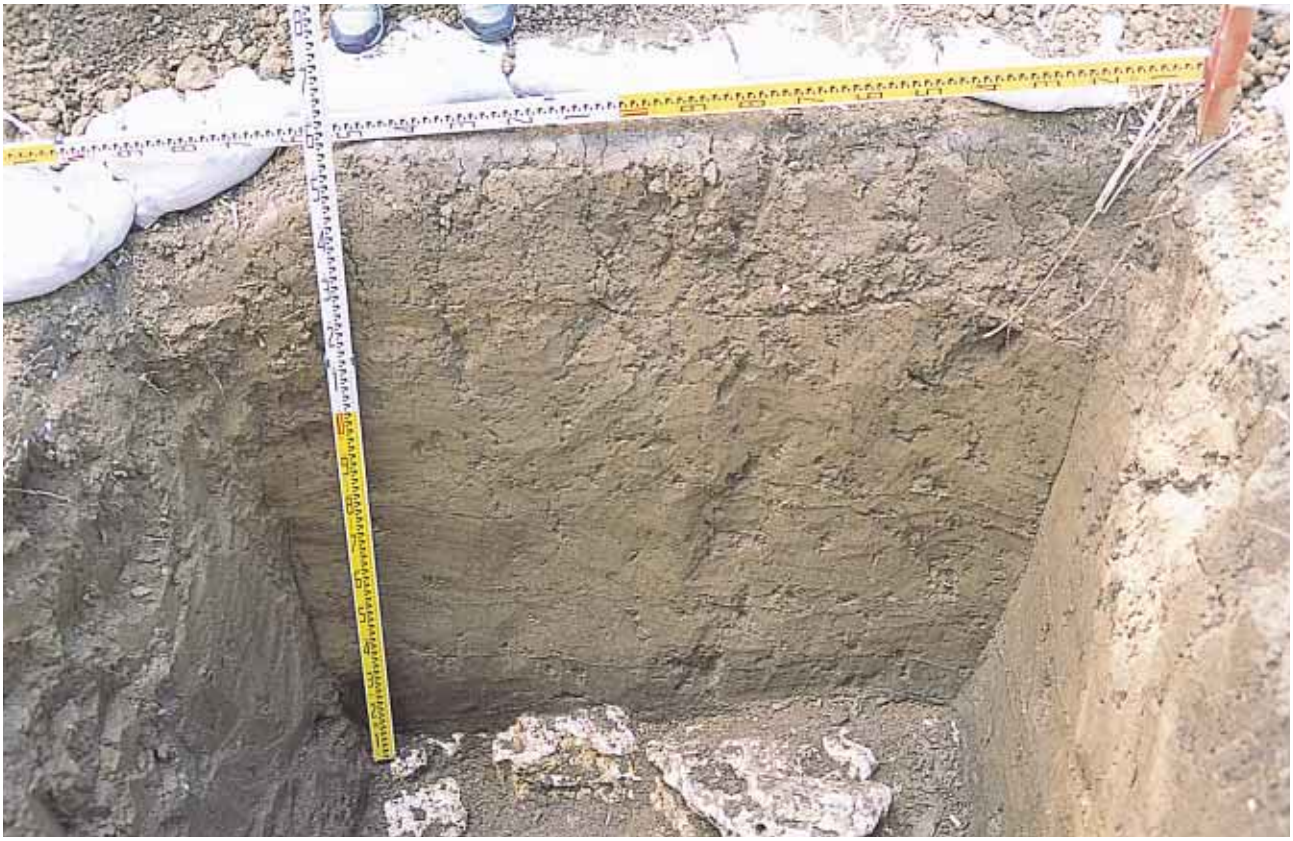
巻頭図版７

Ⅱ区16－15－ア Ⅴ層（マージ）内骨出土状況（骨は中央空洞部で出土）

Ⅱ区26－Ｄ１－ノ南壁

巻頭図版８

Ⅱ区26－Ｂ４－ナ南壁Ⅲ層（貝塚時代後期土器包含層）



Ⅱ区16－Ｊ２－オ西壁

巻頭図版９

Ⅱ区８－Ｊ１－スグスク時代柱穴群検出状況（北から）

Ⅱ区15－Ｇ８－オグスク時代柱穴断面

巻頭図版10

例　言

1．本報告書は平成９年度から文化庁の補助受け、沖縄県教育委員会（沖縄県立埋蔵文化財センター）が実施している県内の軍事施設内（基地内）の埋蔵文化財分布調査の報告として、宜野湾市にある普天間飛行場にて行った平成14・15年度の試掘調査を中心とした現地調査の概要を記したものである。

2．現地調査にあたっては、在沖米軍海兵隊と宜野湾市教育委員会の協力を得た。

3．本書に掲載した地形図は、基本的に国土地理院発行１/2,500を使用している。一部平成13年度に大地測量設計に委託した地形測量図を使用している。

4．本書に掲載した地形図および試掘地点の座標軸は国土座標軸（第ＸＶ座標系）を使用した。

5．本書の執筆は、別に記した以外は瀬戸哲也・片桐千亜紀・仲宗根瑞香が行った。第６章第１節を古環境研究所、第６章第２節をパリノ・サーヴェイ株式会社が、それぞれ委託した分析の結果について掲載している。また、編集は瀬戸が行った。

6．現地調査で得られた遺物および実測図・写真・画像データ等の記録は、すべて沖縄県立埋蔵文化財センターに保管している。

7．分布調査・資料整理などの調査体制については、第１章第２節に記した。

8．本書では便宜的に、沖縄考古学会作成の現行編年（沖縄考古学会編『石器時代の沖縄』1978）を使用している。また、今回頻繁に使用する貝塚時代中期という用語は、高宮暫定編年の前Ｖ期を中心とする時期に相当する。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きちないぶんかざい
書 名	基地内文化財Ⅲ
副 書 名	基地内埋蔵文化財分布調査概要（平成14・15年度）
巻 次	－
シ リ ー ズ 名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第24集
編 著 者 名	瀬戸哲也、片桐千亜紀、仲宗根瑞香、古環境研究所、パリノ・サーヴェイ株式会社
発 行 機 関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の７
発 行 年 月 日	2004年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
普天間飛行場内所在遺跡の分布調査	沖縄県宜野湾市字宜野湾・佐真下・大山・伊佐・喜友名	宜野湾市		26° 15～17'	127° 44～47'	2002.8.1 ～ 2003.2.27	3,692㎡	普天間飛行場に所在する遺跡の分布状況把握のための試掘調査 （370ヶ所）

所収遺跡名	種 類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伊佐上原遺跡群	集落跡	貝塚中期・グスク時代	竪穴住居跡・柱穴群	貝塚中期土器・貝塚後期土器・グスク土器・青磁・褐釉陶器・類須恵器・染付・石器・石材	試掘調査であるため、今後の調査で遺跡名およびその範囲の変更する可能性がある。
喜友名前原第二遺跡	集落跡	貝塚中期・グスク時代	竪穴住居跡・掘建柱建物群		
大山岳之佐久原第一遺跡	集落跡	貝塚中期・グスク時代	柱穴群		
大山宇久保原第一遺跡	遺物包含層	貝塚中期～後期			

目　次

序
巻頭図版
例言
報告書抄録

第１章　調査に至る経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 2
　第３節　調査経過 …… 3

第２章　位置と環境 …… 5

第３章　基本層序 …… 8

第４章　Ⅰ区 …… 9
　第１節　層序 …… 9
　第２節　ブロックの概要 …… 9
　第３節　小結 …… 17

第５章　Ⅱ区 …… 19
　第１節　層序 …… 19
　第２節　ブロックの概要 …… 19
　第３節　出土遺物 …… 31
　第４節　小結 …… 32

第６章　自然科学分析の成果 …… 70
　第１節　平成14年度Ⅰ・Ⅱ区における火山灰および花粉、植物珪酸体分析 …… 70
　第２節　15－Ｄ９－ア検出遺構における放射性炭素年代測定・炭化材同定・植物珪酸体分析 …… 85

第７章　結語 …… 90

図　目　次

第１図　沖縄本島の位置　……４
第２図　普天間飛行場区画割り　……６
第３図　平成14・15年度調査範囲および周辺遺跡
……７
第４図　Ⅰ区全体図　……10
第５図　Ⅰ区ブロック１・２平面・断面図　……11
第６図　Ⅰ区ブロック２断面図　……12
第７図　Ⅰ区ブロック３・４・５平面図　……13
第８図　Ⅰ区ブロック３・４・５断面図　……14
第９図　Ⅰ区ブロック６平面・断面図　……15
第10図　Ⅰ区ブロック７平面・断面図　……16
第11図　Ⅰ区ブロック７断面図　……18
第12図　Ⅱ区全体図　……20
第13図　Ⅱ区縦断面図　……21
第14図　Ⅱ区ブロック２平面・断面図　……23
第15図　Ⅱ区ブロック３検出竪穴住居跡平面・断
面図　……24
第16図　Ⅱ区ブロック５・６・７平面・断面図
……25
第17図　Ⅱ区ブロック６・７断面図……26
第18図　Ⅱ区ブロック８・９平面・断面図（１）
……27
第19図　Ⅱ区ブロック８・９平面・断面図（２）
……28
第20図　Ⅱ区ブロック10平面・断面図……29
第21図　竪穴住居跡１・２……34
第22図　８－Ｊ４－ナ・７－Ｊ９－１・16－Ａ１
－ア・16－Ｆ２－ア　……35
第23図　普天間飛行場内（14・15年度Ⅰ区）テフ
ラ分析柱状断面図……74
第24図　花粉ダイアグラム……79
第25図　植物珪酸体分析結果……84

図版目次

巻頭図版１　在沖米軍海兵隊基地普天間飛行場
巻頭図版２　上：Ⅰ区全景　下：Ⅱ区全景
巻頭図版３　上：Ⅰ区71－Ｂ６－サ東壁　下：Ⅰ区78－Ｂ１－ウ東壁
巻頭図版４　上：Ⅰ区72－Ｆ２－テ西壁　下：Ⅰ区62－G10－ウ西壁
巻頭図版５　上：Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡１平面（南から）
下：Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡１南東断面
巻頭図版６　上：Ⅰ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡北西断面　下：Ⅱ区15－Ｄ９－ア竪穴住居跡１・２の切り合い
巻頭図版７　上：Ⅱ区15－Ｊ７－オ焼土遺構平面　下：Ⅱ区26－Ｅ３－アⅣ層石器出土状況
巻頭図版８　上：Ⅱ区16－Ⅰ５－アⅤ層（マージ）内骨出土状況（骨は中央空洞部で出土）
下：Ⅱ区26－Ｄ１－ノ南壁
巻頭図版９　上：Ⅱ区26－Ｂ４－ナ南壁Ⅲ層（貝塚時代後期土器包含層）　下：Ⅱ区16－Ｊ２－オ西壁
巻頭図版10　上：Ⅱ区８－Ｊ１－スグスク時代柱穴群検出状況（北から）
下：Ⅱ区15－Ｇ８－オグスク時代柱穴断面

図版１　土器・石器１　……36
図版２　土器・石器２　……37
図版３　花粉・胞子　……80
図版４　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕
微鏡写真……84
図版５　炭化材・植物珪酸体プレパラートの状況
……89

表　目　次

第１表　試掘データ（Ⅰ区）　……38
第２表　試掘データ（Ⅱ区）　……47
第３表　花粉分析結果　……78
第４表　植物珪酸体分析結果　……83
第５表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果
……88
第６表　暦年較正結果……89

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

基地内埋蔵文化財分布調査は、県内に所在する在沖米軍基地および自衛隊基地内に所在する埋蔵文化財について実態を把握し、分布図などの基礎資料を作成することを目的として、平成９年度から文化庁の補助を得て、実施している事業である。平成９年度は、基地内の文化財分布の現状を把握し、『基地内文化財Ⅰ』にその概要をまとめた。平成10～13年度は、キャンプ瑞慶覧および普天間飛行場において試掘調査を行い、『基地内文化財Ⅱ』にその概要をまとめた。

当事業における試掘調査の方法は、前概要である『基地内文化財Ⅱ』にまとめられているので、ここでは簡潔に述べておく。普天間飛行場内の試掘坑の設定は、平成13年度からは座標(旧)値Ｘ＝31000、Ｙ＝26500を基準として、第Ⅰ区分を300m、第Ⅱ区分を30m、第Ⅲ区分を６ｍごとの方形区画に従って行っている(第２図)。この区分により、『フテ４６－Ａ３－ア』などと表記することにしている。本報告では、試掘グリッド名を記すときには、『フテ』を略している。

試掘坑の規模は、重機による場合は４m四方、人力のみは２m四方で行っている。この深度であるが、この飛行場内一帯は石灰岩丘陵地帯であるので、基本的には岩盤が確認されるまで掘削する。本調査は、遺構・遺物包含層の有無を確認することが目的であるので、遺構については将来検討が出来るように全面掘削は行っていない。これらの方法は、普天間飛行場内で試掘・確認調査を実施している当埋蔵文化財センターおよび宜野湾市教育委員会と将来の調査に向けてお互いの調査データを共有するために統一しているものである。

さて、平成14･15年度は、引き続き普天間飛行場内で今まで未調査地域であった範囲において、試掘調査を行った。この調査範囲であるが、便宜的に飛行場内南東側をⅠ区、同北西側をⅡ区として呼称する（第３図)。今回の調査により普天間飛行場内においては、滑走路等のフライトゾーンや在沖米軍側の許可が得られない地区を除き、現状で調査可能な範囲のほとんどは試掘調査を行ったことになり、おおよその文化財の分布状況は明確になってきたと言える。しかしながら、この試掘調査では非常に狭い面積でしか調査することが出来ず、具体的な性格把握まで出来ているとは言えない。

Ⅰ区は、飛行場南東側に位置するが、基地側にとって通信上重要なケーブルが埋設されていたり、アンテナが設置されていたこともあって、調査に際して在沖米軍側のそれぞれの担当職員と対応しなければならないことも多々あった。この地区は掘削した即日に埋め戻しを行なわなければならないことが、前年と同様に調査において最大の制約であった。

Ⅱ区は、飛行場北西側に位置するが、Ⅰ区とは異なり、現状では森林・ブッシュ地帯となっている。平成13年時の在沖米軍側との調整では、森林を大きく改変するような伐開をしないという条件で、調査の許可を得ていた。そこで、伐採が可能な範囲は今までと同様に重機で行う方法を採り、森林地帯に関しては人力のみよる方法で行うことにした。しかしながら、平成14年度に入り、実際に調査を行う寸前の７月に、在沖米軍環境保全課から、再度この地区の植生について専門家に確認して具体的にどの木が有用な木かどうかを正確に提示する必要があるという指摘を受けた。これを受け急遽、宮城邦治沖縄国際大学総合文化学部教授に植生調査を依頼し、調査範囲を環境保全課の植生専門職員と共に踏査を行った。その結果、ギンネムやススキについては、基本的に伐採することはこの植生自体に悪影響を与えることはないが、アカギやガジュマル等では戦前よりも古い植生のものもあるので、太い幹を持つ木々は伐採しないほうが良いというご指摘を受けた。この植生調査の結果、やっとⅡ区の調査を行うことが可能となった。

平成15年度には、先述した普天間飛行場内Ⅱ区の試掘・確認調査を継続するとともに、飛行場に隣接する大山貝塚周辺遺跡の範囲確認調査も合わせて行った。この調査は、大山貝塚に隣接する大山富盛原第２遺跡および同第３遺跡の飛行場のフェンスに隣接する範囲で行った。その理由としては、これらの遺跡が飛行場内にもその範囲が及んでいる可能性はあるが、平成15年現在飛行場内のこの範囲の調査許可が得られていないこと、調査が複数日にわたる範囲確認調査の許可も出ていないことから、民間地ではあるが、この範囲を調査することになった。

今回の概要は、平成14・15年度に行った試掘調査の成果を掲載しており、平成15年度の大山貝塚周辺遺跡範囲確認調査については、次回の概要で報告する予定である。

第２節　調査体制

試掘・確認調査および資料整理は、沖縄県立埋蔵文化財センターが、沖縄県教育委員会の指導のもとに平成14・15年度を通して行った。その体制は以下のとおりである。

2002年度（平成14）の調査体制

調査主体　沖縄県教育委員会

津嘉山朝祥（教育長）

日越国昭（文化課課長）・大城　慧（文化課課長補佐）・島袋　洋（文化課記念物係長）・金城亀信(文化課文化企画班主任専門員)

調査所管　沖縄県立埋蔵文化財センター

安里嗣淳（所長）

調 査 事 務　　安冨祖英紀（副所長兼庶務課課長）・西江幸枝（庶務課主任）・城間千賀（同主事）

調 査 総 括　　盛本　勲（調査課課長）

調　査　員　　瀬戸哲也・片桐千亜紀（調査課専門員）

調査補助員　　天久朝海・喜多亮輔・松永洋平・仲宗根瑞香（文化財調査嘱託員）

発掘調査作業員

塩部行弘・佐和田恵太・吉田正志・古波蔵均・伊計絵美理・高江洲朝三・松本義光・金城　洋・城間俊雄・友利成徳・城間　明・玉城勝雄・熊谷敏幸・新川　貢・宇根美智子・比嘉享枝・宮城利枝子・前田和枝・伊波静枝・比嘉守貢・津堅尚子・城間正昌・安里仁男・親川守人・城間幸子・城間盛安

資料整理作業員

与那嶺麻子・石原　学・岡村綾子・城間千鶴子・仲宗根三枝子・瑞慶覧尚美・金城克子・金城敬子・小濱かおり・松浦美果・比嘉孝子・新垣利津子・伊集ゆきの・崎原美智子・上原美穂子・玉城恵美利・池原直美・玉寄智恵子・金城恵子

2003年度（平成15）

調査主体　　沖縄県教育委員会

山内　彰（県教育長）

日越国昭（文化課課長）・大城　慧（文化課課長補佐）・島袋　洋（文化課記念物係長）・金城亀信(文化課記念物係主任専門員)

調査所管　　沖縄県立埋蔵文化財センター

安里嗣淳（所長）

調 査 事 務　　安冨祖英紀（副所長兼庶務課課長)、比嘉美佐子（庶務課主査)、西江幸枝（同主任）

調 査 総 括　　盛本　勲（調査課課長）

調　査　員　　瀬戸哲也・山本正昭（調査課専門員)、仲宗根瑞香・崎原恒寿（同臨時的任用専門員）

調査補助員　　喜多亮輔・伊波直樹・山田浩久・金城　達（文化財調査嘱託員）

発掘調査作業員

吉田正志・高江洲朝三・松本義光・金城　洋・玉城勝雄・新川　貢・宇根美智子・比嘉享枝・宮城利枝子・前田和枝・伊波静枝・津堅尚子・城間正昌・安里仁男・親川守人・城間幸子・島本克彦・真栄城　勝・安里　剛・川上益子・浦崎京子・宮城サダ子・島仲恵子・長濱眞一・大城孝仁・石垣浩充・仲里一宏・仲田　均・佐和田　孝・比嘉　智・金城重昭・上江洲由昇・島袋篤司・喜友名秀直・仲地トヨ子・安里信子・上江洲恵美子・松田典子・佐久真喜美・與古田由美子・徳留由里・我如古みどり・具志堅　護・知念良真・比嘉好孝・金城　覚・知念真衣

資料整理作業員

我那覇悠子・友利映子・金城敬子・阿部直子・城間五百子・石嶺敏子・砂辺枝里子・与古田　愛・宮城利恵子・宮里なつ子

資料整理協力者

比嘉優子・上原園子・又吉純子・荻堂さやか・比嘉登美子・平良貴子・比嘉孝子・新垣利津代・譜久

村泰子・米須あさみ

調査指導および調査協力者

坂井秀弥・禰宜田佳男（文化庁記念物課)、呉屋義勝・仲村　健・城間　肇・豊里友哉（宜野湾市教育委員会)、金城　貢・与那覇政之・エリックウイリアムズ・杉山巳次（在沖米軍海兵隊環境保全課)、中村　愿・東門研治（北谷町教育委員会)、上原　靜・宮城邦治（沖縄国際大学)、仲宗根　求（読谷村教育委員会)、當間嗣夫・與儀孝永（沖縄県教育庁施設課)

第３節　調査経過

今回の調査は、平成11年度から行っている普天間基地内の試掘・確認調査の継続分である。

平成14年度

調査は、平成14年８月１日から平成15年３月31日にわたって行った。

当初の計画としては、Ⅰ区とした範囲を重機による試掘調査から行う予定であったが、基地内の手続き上の問題で、調査地設定のため測量を終え、９月末になって初めて調査が行えた。それまでは、11月から本格的に実施する予定であった手掘地区であるⅡ区の踏査および試掘調査を行った。

Ⅰ区の試掘調査は、９月30日から11月20日まで行い、103ヶ所の試掘グリッドの調査を行った。この地区では、基地造成により厚い盛土が覆われている地点が多かったが、岩盤までは３m以上にも及ぶ堆積が見られる地点もあった。ピット・土坑など顕著な遺構および、遺物が大量に出土する包含層などの存在は確認できなかったが、層位の関係から近世およびグスク時代に遡ると思われる暗褐色土層が幾つかの地点で確認できた。この層は、詳細は不明だが、花粉分析等の結果を合わせると、何らかの耕作に伴う可能性が示唆された。

Ⅱ区の試掘調査は、人力のみと重機による方法を併用し、11月１日から翌年の３月31日まで、合計204ヶ所の試掘グリッドの調査を行った。先述したように、この地域は戦前以前の植生が残されている可能性があると在沖米軍環境保全課からの指摘があったため、重機による調査の許可が降りなかったのである。しかしながら、明らかに改変を受けている場所については重機による試掘調査を行った。その結果、従来宜野湾市文化財情報図により把握されていた遺跡範囲および時期についてより具体的にすることができた。遺構・遺物包含層が全体では10ブロックで確認できたこと、内容的には貝塚時代中期の竪穴住居跡、グスク時代の柱穴群など、かなり良好に遺跡が保存されていることが分った。

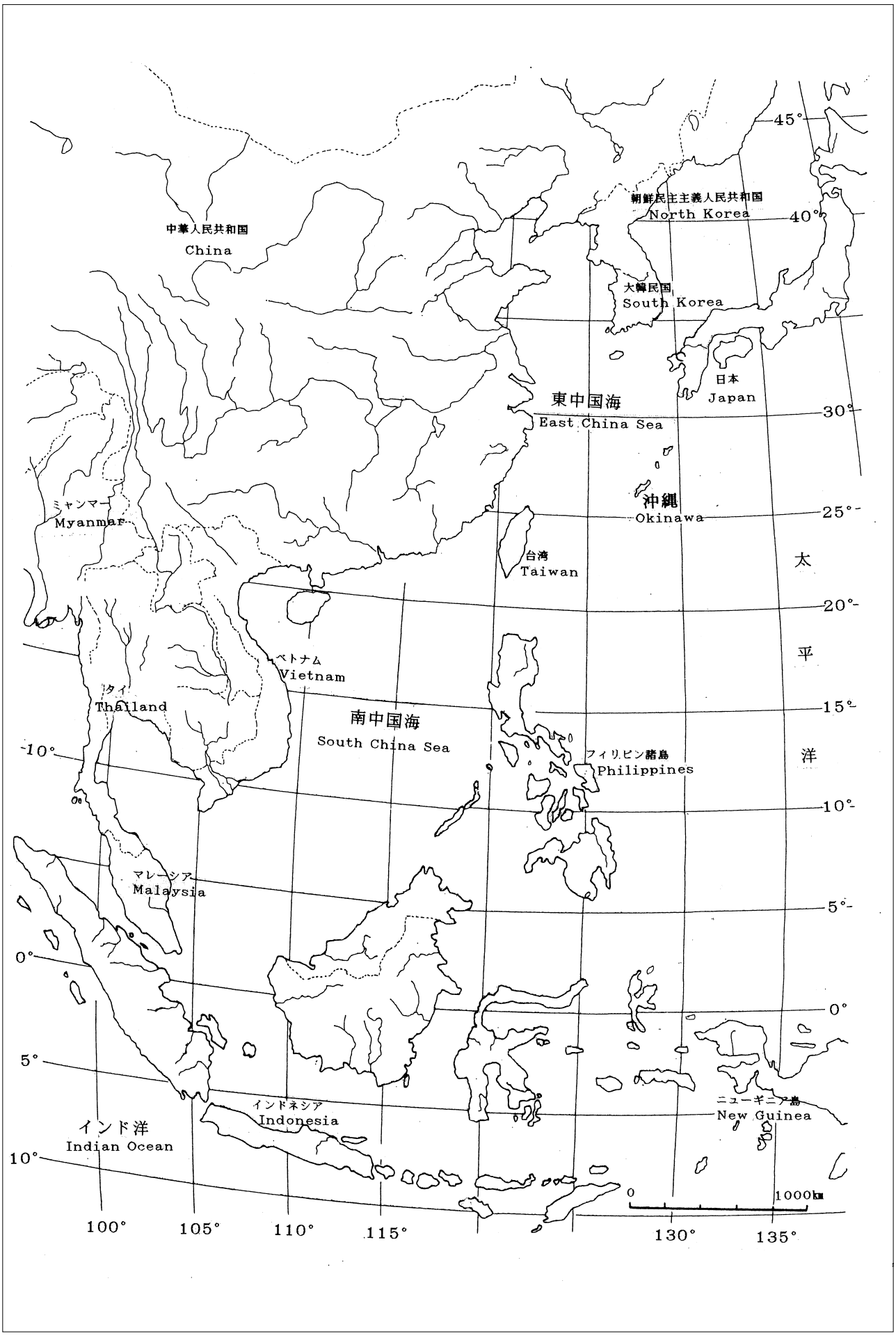
平成15年度

調査は、平成15年６月２日から平成16年２月27日にわたって行った。

普天間基地内の試掘は、前年度に引き続きⅡ区について、人力より63ヶ所について行った。その後、グスク時代の柱穴群と思われた15－Ｆ７～Ｇ７一帯に掛けて、さらに密に試掘グリッドを設定し、その範囲を絞り込む調査を行い、この範囲にさらに詳細な試掘調査を行った。また、このⅡ区には、洞穴や古墓および様々な石積遺構が良好に保存されていたので、さらに詳細な踏査を行い現状把握に努めた。

普天間基地内の試掘調査とともに、大山貝塚周辺遺跡の範囲確認調査も同時に行った。この調査では、大山富盛原第二遺跡で合計500㎡の調査区を設定し、貝塚時代中期の住居跡５基、焼土遺構１基、土坑３基等を確認した。また、大山富盛原第三遺跡でも合計200㎡の調査区を設定したが、近世以前の遺構は確認されなかった。

今回の報告書では、平成14・15年度に行った普天間基地内のⅠ区103ヶ所、Ⅱ区267箇所、計370ヶ所の試掘成果の概要を報告する。ただ、平成15年度に行った普天間基地内のⅡ区のグスク期ピット群一帯での試掘調査、および古墓等の現状把握の踏査、大山貝塚周辺遺跡範囲確認調査については、現在資料整理作業中であるため、次回の概要で報告する予定である。


中華人民共和国
China
朝鮮民主主義人民共和国
North Korea
大韓民国
South Korea
日本
Japan
東中国海
East China Sea
沖縄
Okinawa
台湾
Taiwan
ミャンマー
Myanmar
ベトナム
Vietnam
タイ
Thailand
南中国海
South China Sea
フィリピン諸島
Philippines
マレーシア
Malaysia
インドネシア
Indonesia
インド洋
Indian Ocean
ニューギニア島
New Guinea
太
平
洋
45°
40°
30°
25°
20°
15°
10°
5°
0°
10°
5°
0°
100°
105°
110°
115°
130°
135°
0
1000km

第１図　沖縄本島の位置

第２章　位置と環境

普天間飛行場は、沖縄本島西海岸の中部地区に位置する宜野湾市のほぼ中央を占める非常に広大な在沖米軍基地（宜野湾市域25%、483ｈａ）である。

宜野湾市全体は地形的に海から見て大きく４つの段丘面で構成されており、普天間飛行場が位置する丘陵はその３段目に位置し、標高は50～90ｍの間である。

今回の調査を行った地区は、Ⅰ区が飛行場南東側で字佐真下・宜野湾、Ⅱ区が飛行場北西側の字大山・伊佐に相当する地区である（第２図）。地形的には、Ⅰ区は、海岸部からは３ｋｍ前後離れており、標高75～85ｍ前後で、丘陵部でもやや奥まった位置である。Ⅱ区は、海岸部からは１ｋｍ前後の距離にあり段丘の先端に近く、標高は50～80ｍ前後とばらつきはあるが、Ⅰ区に比べると総じて低い位置にある。

さて、普天間飛行場内の遺跡は、『平成13年度版宜野湾市文化財情報図』によると、全44遺跡が存在することが判明している。しかしながら、今回の調査および、宜野湾市教育委員会による普天間飛行場内の分布調査が継続して行われており、遺跡の数は増加していくであろう。ここでは、今回調査を行った範囲の周知の遺跡について述べておく。

Ⅰ区では、既知の遺跡として、基地接取される前の集落跡である宜野湾古集落遺跡、宜野湾クシヌウタキ遺跡および宜野湾前原石器散布地がある。

この地区において今回の調査では、集落等を想定させる明確な遺構は確認できなかった。しかしながら、グスク時代および近世の遺物を少量含む層序が７ヶ所のまとまりで確認でき、これらは耕作地の可能性が想定できた。

Ⅱ区では、既知の遺跡として、喜友名ウフシー遺跡、喜友名前原第二遺跡、喜友名前原第三遺跡、伊佐上原遺跡群、大山岳之佐久原第一遺跡、大山岳之佐久原第一洞穴遺跡、大山岳之佐久原第二遺跡、大山宇久保原第二遺跡、大山ウフォーアブ遺物散布地等があげられる。

喜友名ウフシー遺跡では、グスク時代の陶磁器が散布している。

喜友名前原第三遺跡は、平成11･12年度に沖縄県教育委員会が行った試掘調査で、おそらくグスク時代～近世と思われる柱穴群等の遺構が検出されている。

喜友名前原第二遺跡は、具体的な時期が把握できていない遺跡であったが、今回の調査で貝塚時代中期の包含層・竪穴住居跡を確認した。また、この北方では、グスク時代の掘建柱建物群を検出し、この遺跡の範囲を広げて捉えるかが課題である。

伊佐上原遺跡群では、貝塚時代中期（宇佐浜式）の土器、大量の石器・石材およびグスク時代の土器・類須恵器が散布している。今回の調査でも、貝塚時代中期の包含層および竪穴住居跡、グスク時代の包含層・柱穴群が確認できている。

大山岳之佐久原第一遺跡では、平成４年度に宜野湾市教育委員会がパイプライン工事に先立つ緊急調査を行っている。この調査では、グスク時代および貝塚時代中・後期の包含層、柱穴等の遺構が層位的に確認されている。今回の調査でも、同様の層序を確認しており、よりその範囲が限定できたものと思われる。

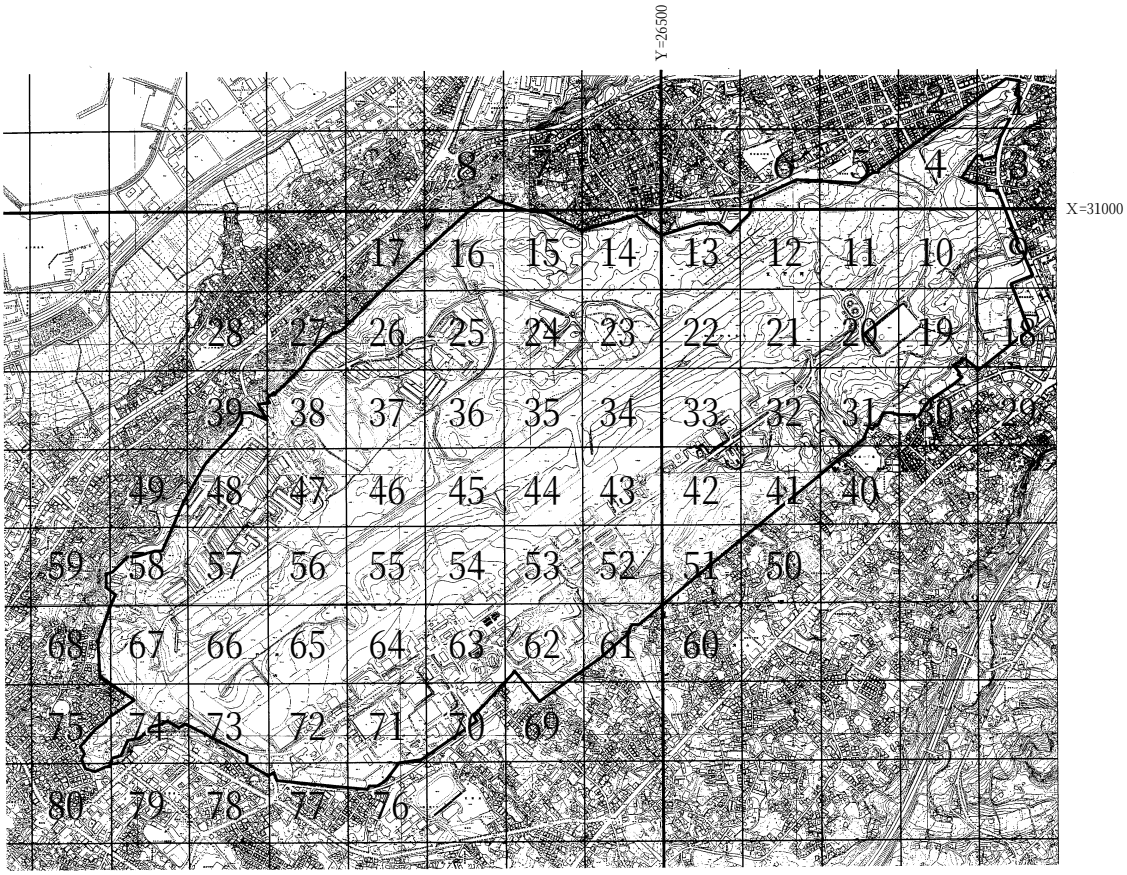
大山岳之佐久原第一洞穴遺跡では、貝塚時代早期の土器の散布、近世の古墓、戦時中の避難壕と思われる痕跡が見られる。

大山岳之佐久原第二遺跡は貝塚時代中期の散布地とされているが、今回の調査では確認できなった。

大山宇久保原第二遺跡はグスク時代の散布地とされる。今回の調査では、遺物はないがグスク時代に相当する層と、その下層に貝塚時代中期、および貝塚時代後期の包含層も確認している。

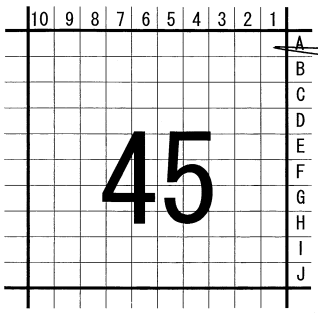
大山ウフォーアブ遺物散布地は貝塚時代中期の散布地とされる。今回の調査では、この付近で貝塚時代後期土器も表土からではあるが出土した。

以上のように、この普天間飛行場内の分布調査を進展させることは、既知の遺跡であってもよりその範囲を確定することができ、その性格を明らかにすることになろう。



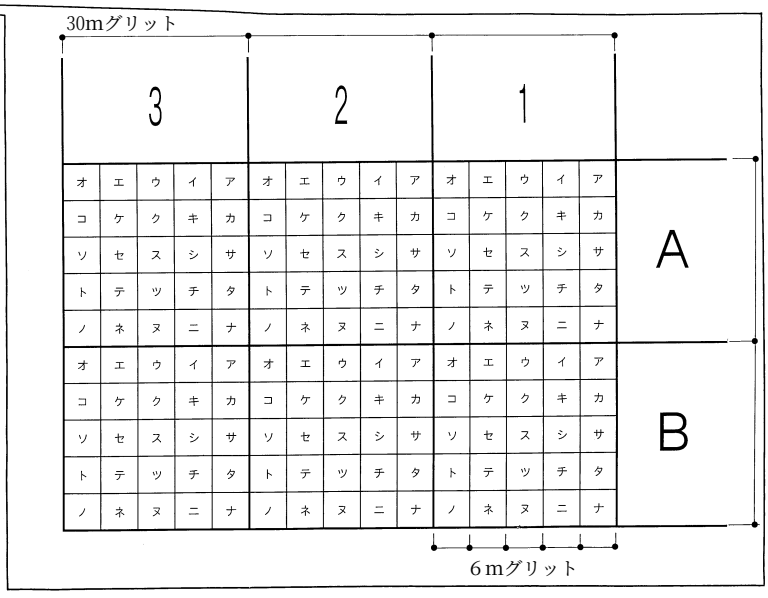
第Ⅰ区画

300mグリット



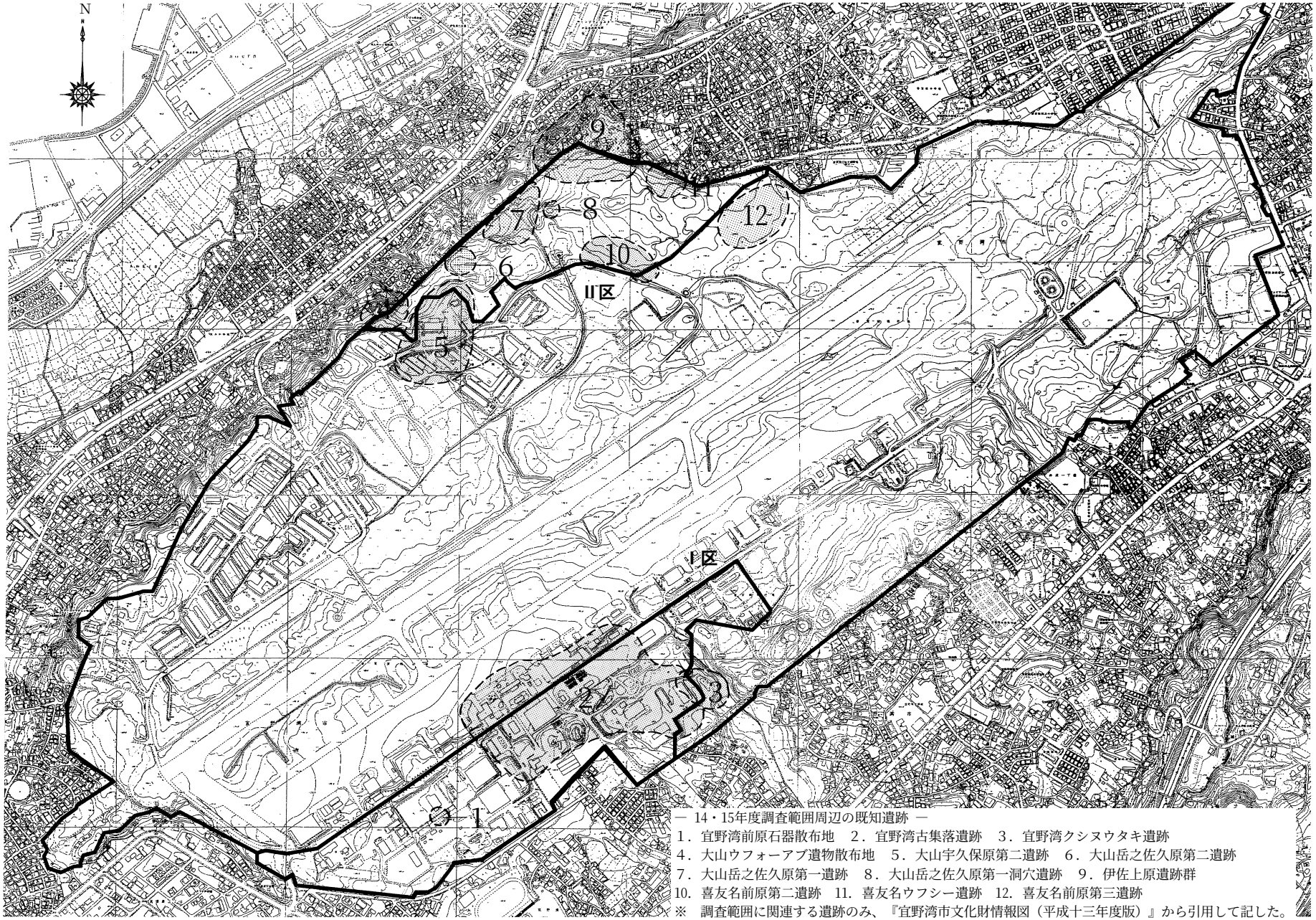
第Ⅱ区画

〈拡大図〉



第Ⅲ区画

第２図　普天間飛行場区画割り



第３図　平成14・15年度調査範囲および周辺遺跡

第３章　基本層序

基本層序は、Ⅰ・Ⅱ区を通して大きく７つに分けることが出来るため、便宜的に次のように記すことにした。Ⅴ～Ⅶ層はいわゆる地山である。

Ⅰ層　表土・基地造成に伴う盛土

Ⅱ層　基地造成土前の旧表土・耕作土

Ⅲ層　近世～グスク時代の人為および自然堆積層

Ⅳ層　現行編年貝塚時代中期（高宮暫定編年の前Ⅴ期相当期）の人為および自然堆積層

Ⅴ層　マージ

Ⅵ層　岩盤

Ⅶ層　クチャ

これはおおよそ時期的に分けた層であり、さらにその色調によりまた分けることが出来る。このような色調の違いは、その土が堆積した当時の環境の差と思われるので、これについても大きく３つに分けた。また、Ⅱ～Ⅳ層の土質に関しては、地山であるマージが耕作もしくは流出による堆積したものであるので、やや粘質のあるシルト～極細粒砂からなるものであり、基本的には顕著な差は見つけがたい。

土質・色調

上述したように、Ⅱ～Ⅳ層については、その色調により黄褐色系、暗褐色系、灰オリーブ系の３つに分けた。土色に関しては、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』（2002年版）に準拠した。

黄褐色系（10ＹＲ５/３～４/６）　マージに比べれば、腐食が進み色調が鈍くなっているが、後述する暗褐色～黒褐色系よりも、その度合いが弱いものである。性格としては、旧表土および流出等の自然堆積が主体であると考えられるが、炭・焼土・石灰岩礫が多く混じっている場合は耕作土の可能性もある。

暗褐色系（10ＹＲ３/１～３/４）　先述した褐色～黄褐色系よりも有機物の腐食がかなり進んだ土層である。つまり、人為的な影響が強い土層であり、その性格としては場所によって異なるが遺物包含層、遺構埋土、または耕作土と考えられよう。

灰オリーブ系（５Ｙ５/２～４/４）　有機物の集積および炭や焼土の混入も見られるが、水の影響を受けているため、色調がやや灰色化している土層。後述するグライ化の影響がやや見られる層である。この土層の性格としては、人為的な影響と共に、水の影響がある環境にあったと言うことができよう。

マージ（５ＹＲ５/８～7.5ＹＲ５/８）　明褐色～赤褐色の粘土～シルト。琉球石灰岩の風化土壌である。調査においては、このマージは分層が可能で、粘質が非常に高い部分や、赤みが強い部分、黄褐色の極細砂が強い部分などがあるが、自然堆積である。また、遺構および遺物包含層が近辺に存在する範囲では、マージがやや黒ずみ、褐色～暗褐色を呈する部分も見られる。

岩盤　マージの直下で見られる琉球石灰岩で、サンゴ礁に由来するものである。岩盤には、非常に硬質なものと、風化が進んだのか脆くなった細粒砂状になった風化岩盤がある。

クチャ　島尻層群の一つである青灰色泥岩である。今回の普天間飛行場内では、南東側の一部では、石灰岩盤が見られなかった範囲でみられる。

また、これらの土層の色調が変化する原因には様々であるが、当地区で見られる変化は土壌学的にはおおよそ次の２つの作用で説明できる。

グライ化　水が常に澱んでいるような状況つまり滞水的な状況のところで、酸素不足で還元状態になること。現象的には、その部分の土層が灰オリーブ～青灰色に変色し、土質は粘土～粘質シルトと粘質化する。地山であるⅤ層も地下水等の影響があれば、グライ化する場合もある。

土壌化　植物の繁茂・動物の生痕・人間活動等によって、土層が地表面から下に向かって、次第に攪乱され、有機物が混入し、その基盤の堆積構造が変化すること。現象的には、有機物の集積、鉄分・マンガンの沈着が見られ、色調が黒ずみ褐色～暗褐色を呈する。この層は、堆積当時には、地表面として機能していたと考えられる。

第４章　Ｉ区

普天間基地内の南東端、字佐真下、宜野湾において重機による試掘を103ヶ所の地点で行った。この範囲は、通信上重要なアンテナや、多くの建物が林立している地区で、それ以外は芝生のヤードとなっており、この部分において、重機により試掘調査を行った。基本的に、基地造成に伴うと思われる厚い盛土が広い範囲で存在する。この厚い盛土の下に遺物は微量だが、人為的だと思われる土層が見られる。

第１節　層序

Ｉ区の土層について、先ほど大きく分けた層ごとにその特徴を記述する。この地区では、先の５層に分けた中で、Ⅳ層とした貝塚中期相当層は見られない。以下、各層ごとに述べる。

Ｉ層　表土・基地造成に伴う盛土

表面の腐葉土とその直下の盛土からなる。盛土は、場所によって異なるが、石灰岩巨礫やレンガや、コーラル敷きが見られ、20世紀前半頃の沖縄産・本土産陶磁器が多く出土するため、戦後の基地造成に伴うものと思われる。

Ⅱ層　基地造成前の旧表土・耕作土

遺物は少ないが、19世紀～20世紀初頭の陶磁器が出土することがあるので、基地造成前の土層と思われる。性格としては、遺物も少ないこと、土層の色調も黄褐色が多く、基本的には集落に伴う層ではなく、旧表土もしくは炭・焼土が含まれることもあるため耕作土と考えられる。また、灰オリーブ系の色調も見られ、グライ化の影響と思われ、なおかつ酸化鉄斑が見られるところもあり、この層は水田耕作土である可能性も考えられる。

Ⅲ層　近世～グスク時代の耕作土・自然堆積層

遺物はわずかだが18世紀以前の染付・青磁が見られること、Ⅱ層よりもかなり下位にあることから、近世～グスク期に相当する時期の層と思われる。性格的には、遺物は少ないのでやはり集落に伴う層とは考えにくい。土層の色調から見ると、自然堆積と考えられる黄褐色系もあるが、暗褐色系が多く、炭・焼土も多く含まれているため、耕作土と考えられる。

Ⅴ～Ⅶ層　地山（マージ・クチャ・岩盤）

マージ及び岩盤のところが多いが、一部の範囲ではクチャの部分も見られる。このことは、島尻層群であるクチャの露出範囲が従来想定されているよりも、東側に伸びているということが判明したと言える。

第２節 ブロックの概要

先述したように、この地区では明らかな遺構・遺物包含層の存在は見られなかった。しかしながら、近世～グスク期に相当するⅢ層は、何らかの人為的な堆積によるものと思われ、19ヶ所のグリッドで検出した。

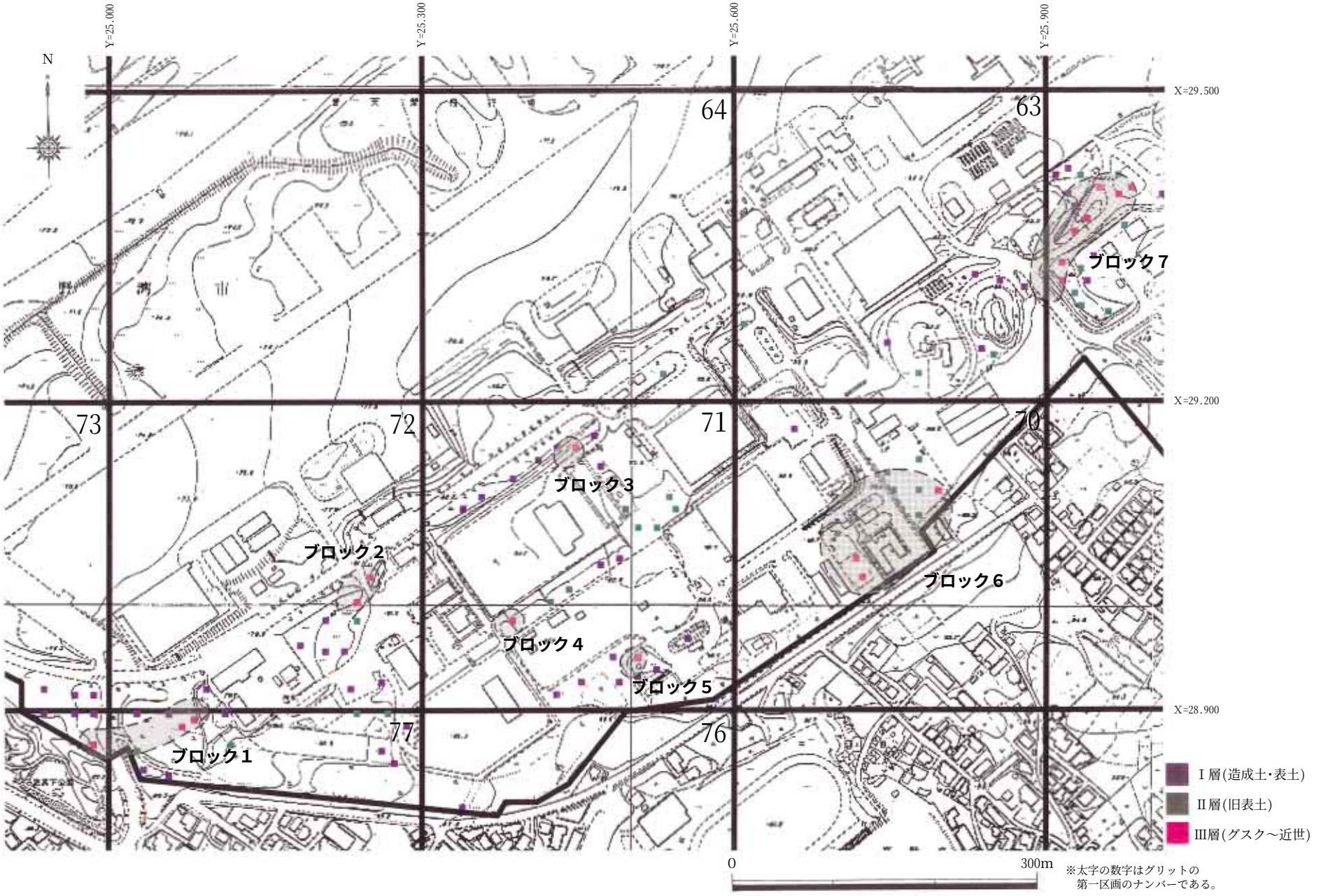
このⅢ層の性格であるが、基本的には出土遺物をほとんど含んでおらず、ピット・土坑等の遺構も検出されていないので、集落に伴う層ではないと考えられる。しかしながら、この堆積層の色調は暗褐色系を呈することが多く、炭や焼土が混入するので、何らかの人為的な堆積と考えられること、谷状の地形に落ち込む堆積が多いことから、おそらく耕作等によりもたらされたと推測される。

さて、このⅢ層が堆積する範囲は、その地形から大きく７つのまとまりで捉えることができる（第４図)。そこで、便宜的ではあるが、このⅢ層のまとまりをブロックという単位で捉え、各ブロックの様相を説明する。

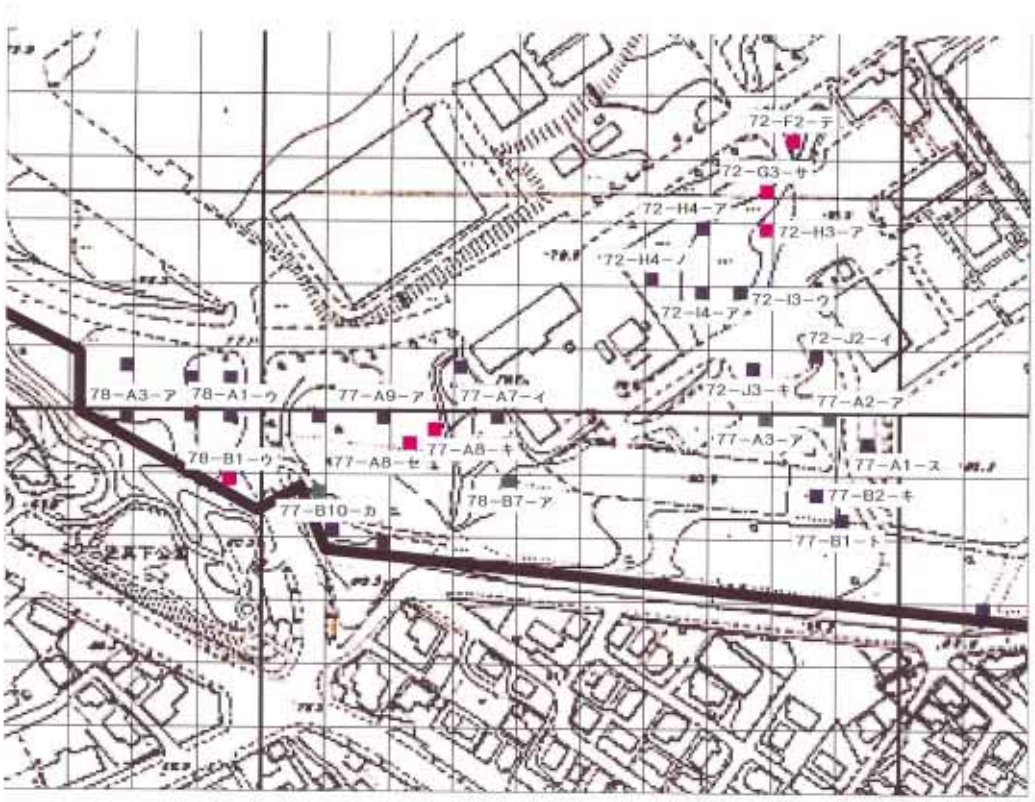
１）ブロック１（77－Ａ８－キ、77－Ａ８－セ、78－Ｂ１－ウ）（第５図）

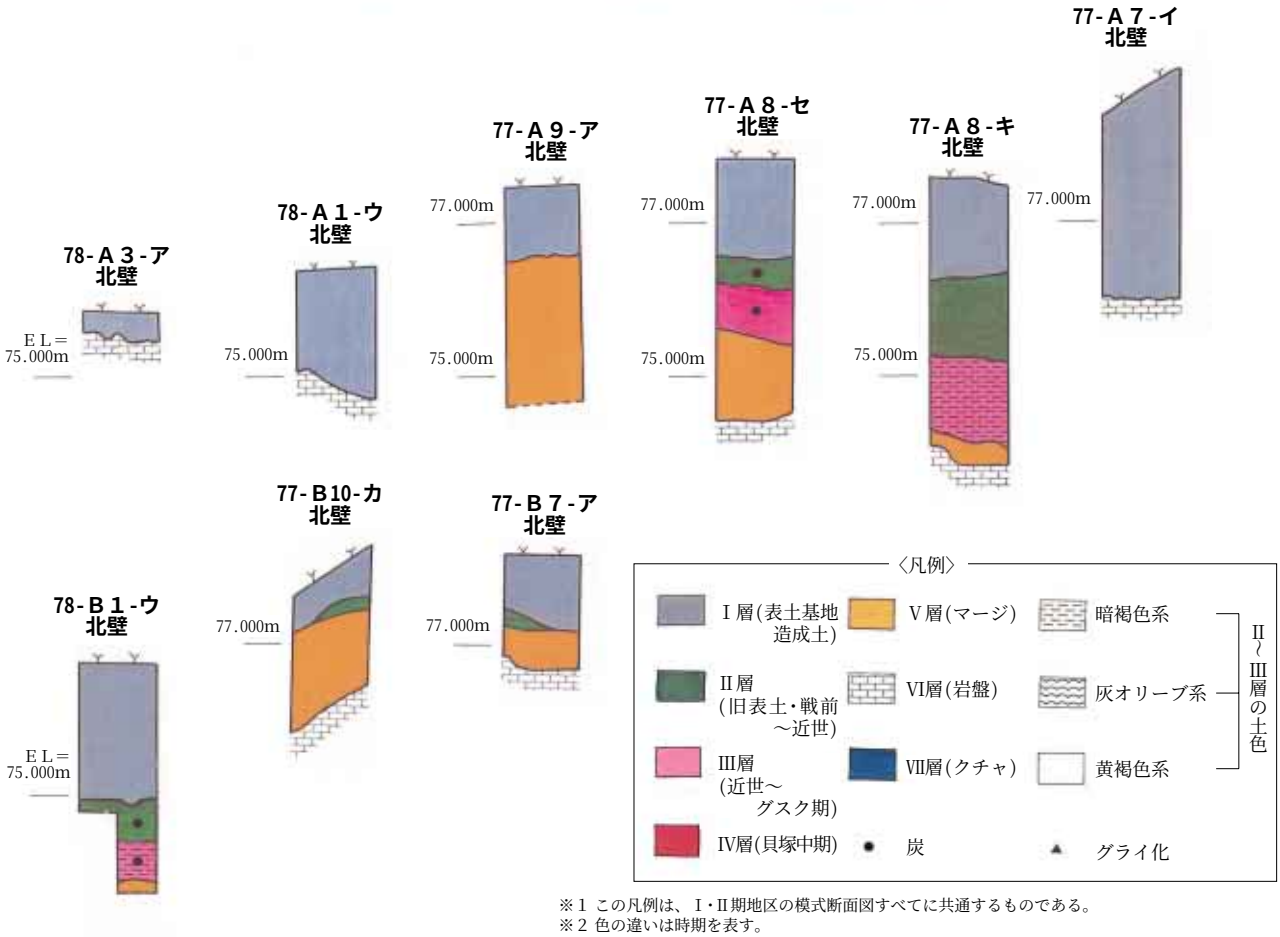
Ⅲ層が堆積しているグリッドは、近接している77－Ａ８－キ・セと、やや離れて南西側に78－Ｂ１－ウがある。各地点のⅢ層は、色調および層厚が0.5～1.0ｍと厚いこと、色調が暗褐色系であることなどから、大きく捉えてほぼ同一の層の可能性が高い。

一方、Ⅱ層の堆積は、周囲に造成が及んでいることから確実には言えないが、Ⅲ層が堆積するグリッドを中心としてその周囲に見られ、Ⅲ層よりもやや広い範囲で分布すると思われる。また、このⅡ層は落ち込み状に堆積するⅢ層に比べて、水平に堆積していることが注目される。


N
Y=25.000
Y=25.300
Y=25.600
Y=25.900
X=29.500
X=29.200
X=28.900
64
63
73
72
71
70
77
76
ブロック1
ブロック2
ブロック3
ブロック4
ブロック5
ブロック6
ブロック7
0
300m
Ⅰ層(造成土・表土)
Ⅱ層(旧表土)
Ⅲ層(グスク～近世)
※太字の数字はグリットの
第一区画のナンバーである。

第４図　Ⅰ区全体図





※1 この凡例は、Ⅰ・Ⅱ期地区の模式断面図すべてに共通するものである。
※2 色の違いは時期を表す。
※3 Ⅱ～Ⅳ層においては、土色の違いをスクリーントーンの有・無及び種類で表している。
※4 同色の層で分散されている場合は個々に技番を付した。

第５図　Ⅰ区ブロック１・２平面・断面図

２）ブロック２（72－Ｆ２－テ、72－Ｇ３－サ、72－Ｈ３－ア）（第５・６図）

Ⅲ層が堆積しているグリッドは、72－Ｆ２－テ・Ｇ３－サ・Ｈ３－アと、約60m周囲に集中している。72－Ｆ２－テ・Ｇ３－サにはⅢａ層が灰オリーブ系、Ⅲｂ層が暗褐色系と共通している。つまり、Ⅲａ層ではグライ化を受けるような状況であり、Ⅲｂ層とは堆積環境が異なっているものと考えられる。このⅢ層からは遺物が出土していないが、ａ・ｂ層で堆積状況が異なることからも、時期的に近世でも古い時期、またはグスク期まで遡る可能性があろう。

一方、72－Ｈ３－アのⅢ層は、これらと色調が異なる黄褐色系であることからまた異なった環境と思われる。ただ、ここからは18世紀の肥前系染付が出土しているため、やや時期的に新しい可能性もある。

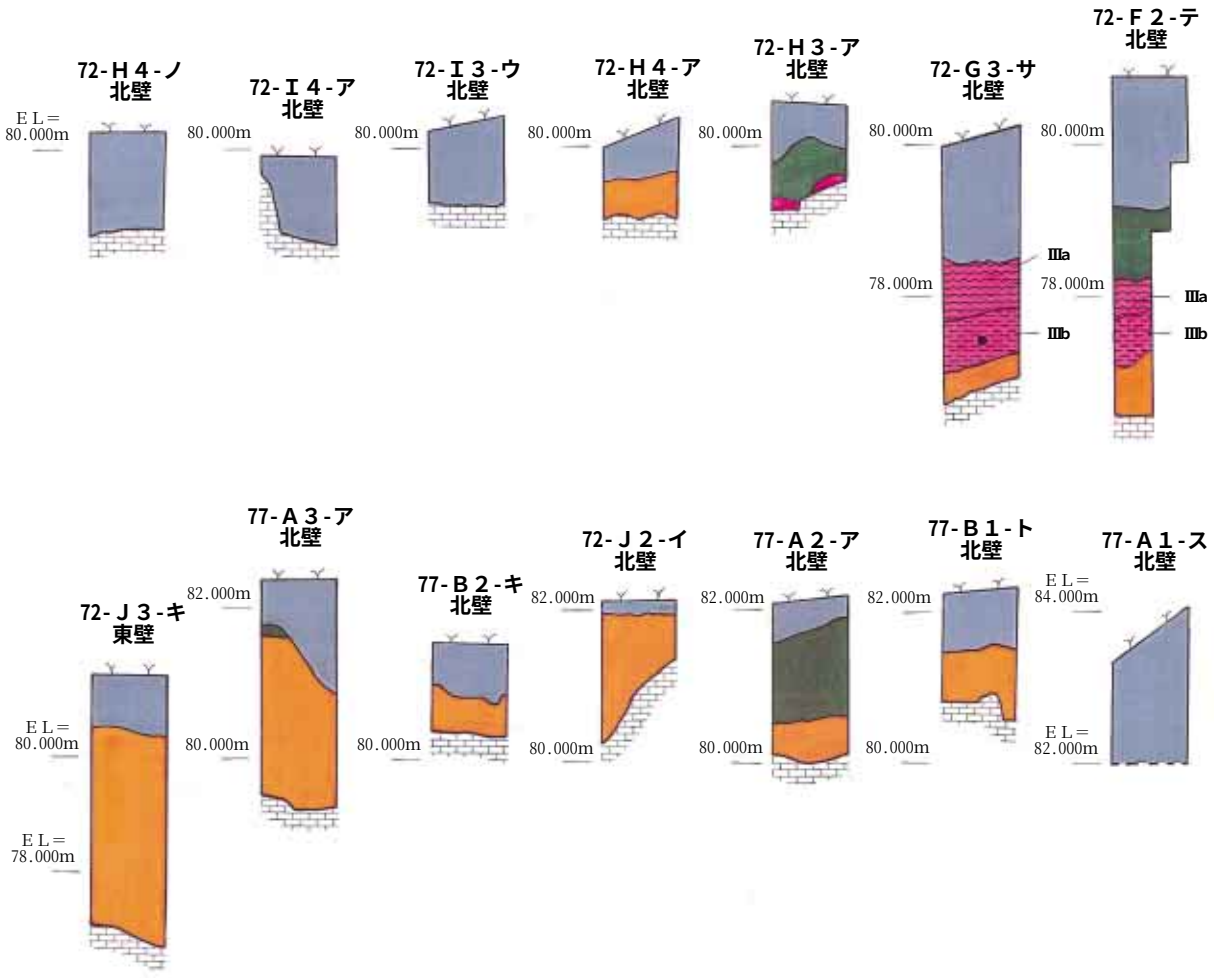
３）ブロック３（71－Ｂ６－サ）（第７・８図）

Ⅲ層が堆積しているグリッドは、71－Ｂ６－サである。この堆積の広がりは現状ではつかめない。このグリッドのⅢ層は大きく３つに分層でき、上層からⅢａ層が黄褐色系、Ⅲｂ層が暗褐色系で炭・焼土が多く含まれ、Ⅲｃ層が黄褐色系という堆積になっている。特にⅢｂ層が炭・焼土がかなり多く、落ち込み状の遺構として捉えることができる。また、他のⅢａ・ｃ層は黄褐色系であることから、やはりⅢ層の中でも堆積環境が時期により異なっていることが想定できよう。

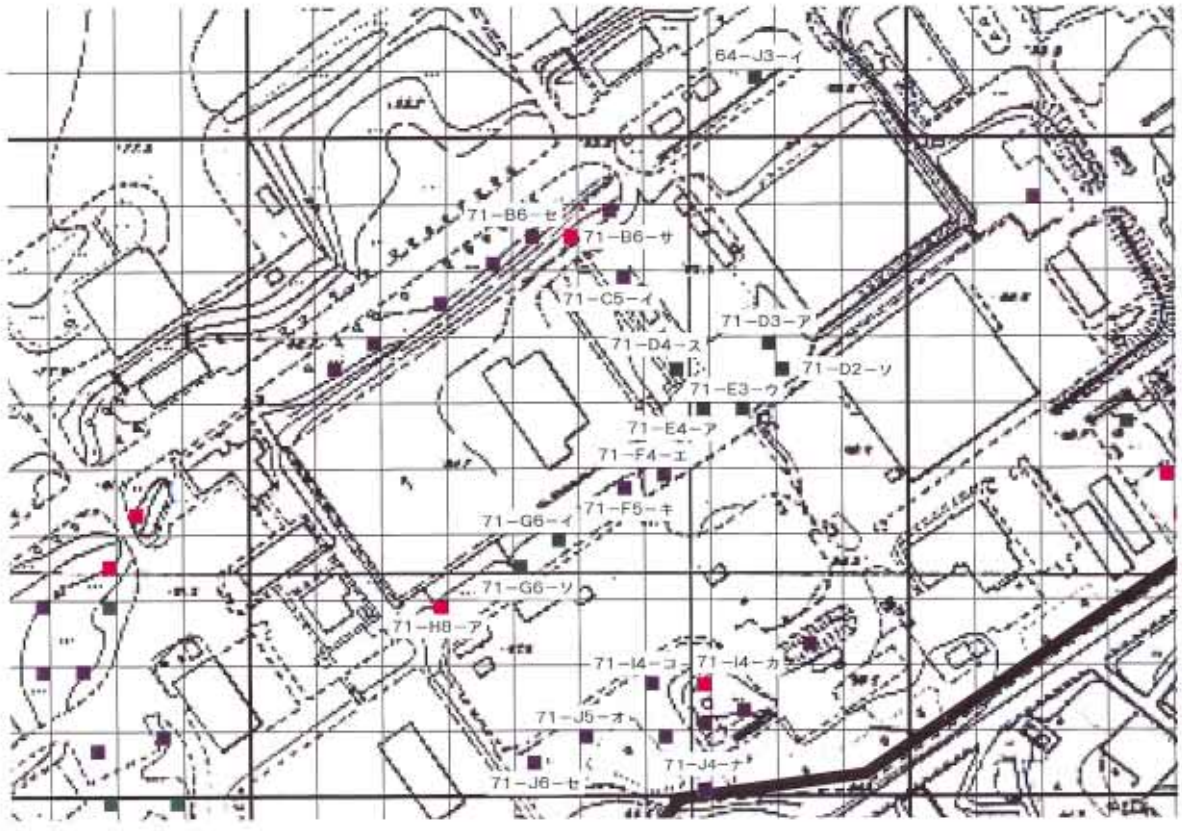
このグリッドのマージ面の高さは、周辺よりもこの部分のみが１～２mほど低くなっているため、小規模な谷状の地形であったと想定される。

４）ブロック４（71－Ｈ８－ア）（第７・８図）

Ⅲ層が堆積しているグリッドは、71－Ｈ８－アである。このⅢ層はかなり厚い堆積で、黄褐色系と暗褐色系の部分があり、やはり時期によって堆積環境が異なっていたということができる。堆積状況を見ると、南西



第６図　Ⅰ区ブロック２断面図



第７図　Ⅰ区ブロック３・４・５平面図

方向に下がっているため、谷状に落ち込んでいくものと思われる。

この範囲は、Ⅱ層の堆積も顕著に見られ、大きく２ヶ所にその分布が見られる。この内、北側である71－Ｄ４－ス付近では、黄褐色系の土層を呈している。この内の71－Ｅ３－ウは、溝状の落ち込みが見られる。一方、南側である71－Ｇ６－イ・ソ、71－Ｈ８－アのⅡ層については、グライ化により灰オリーブ系の色調を呈しており、また酸化鉄斑が見られることから、水田耕作土の可能性もあろう。

先のブロック１と同様に、Ⅱ層が堆積する範囲はⅢ層のそれを中心としてより広範囲に分布すること、水平堆積が多いことが特徴と言える。

５）ブロック５（71－Ｉ４－カ）（第７・８図）

Ⅲ層が堆積しているグリッドは、71－Ｉ４－カである。Ⅲ層は落ち込み状に堆積しており、上層が暗褐色系、下層はグライ化しており灰オリーブ系である。下層のレベルでは水が湧き出している。

このグリッド周辺（71－Ｊ５－オ、71－Ｉ４－コ）では地山がクチャである部分が見られ、マージの部分でもグライ化したところが多く、不透水層が分布する範囲である。

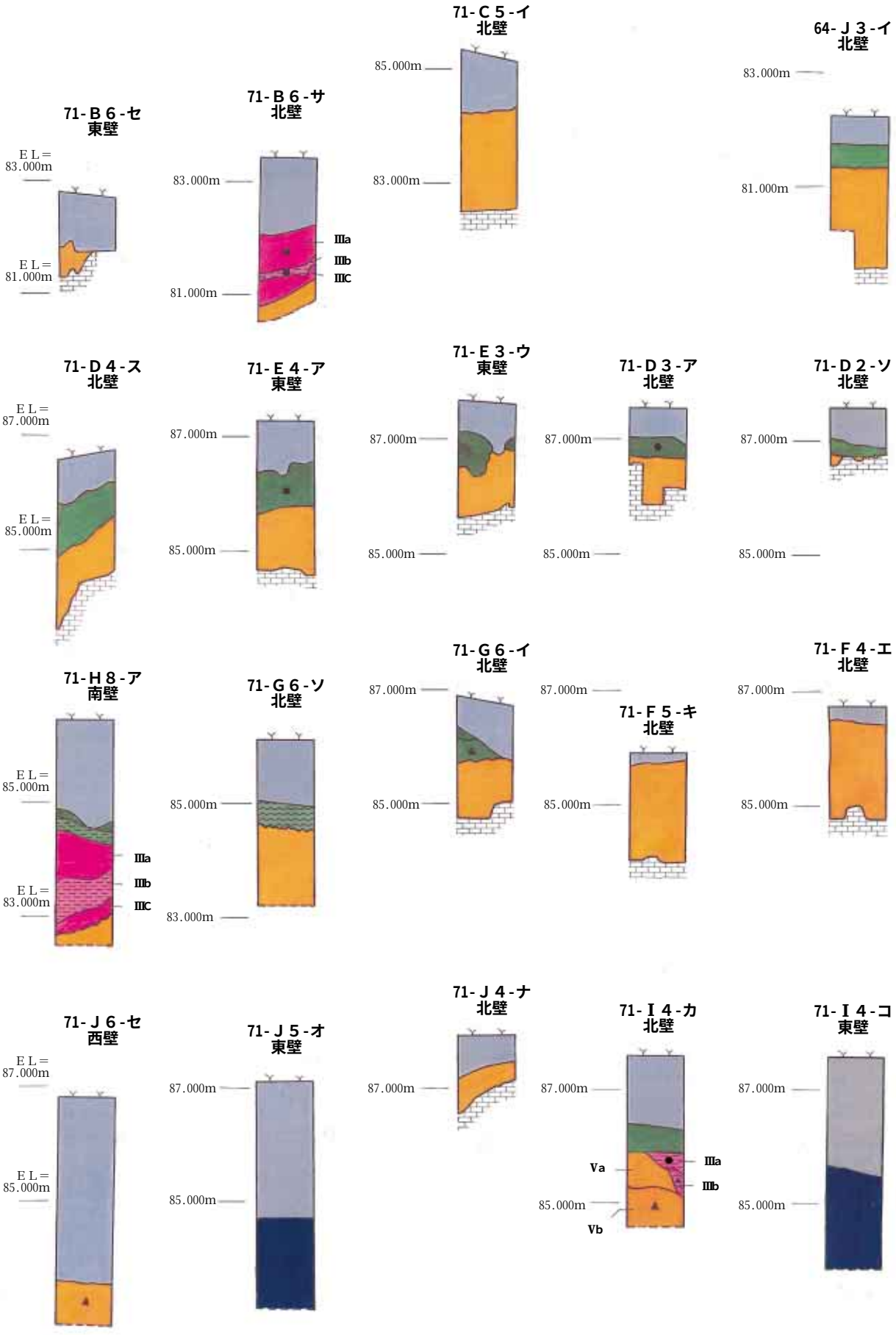
６）ブロック６（70－Ｃ４－ヌ、70－Ｆ６－ト、70－Ｆ７－ア）（第９図）

この範囲はⅡ層の堆積が範囲的に広く見られる。ただ、このⅡ層の色調は、灰オリーブ系の範囲（70－Ｂ５－ナ付近）と、黄褐色系の範囲（70－Ｄ５－タ付近）が分かれており、土地利用に違いがあったものと思われる。

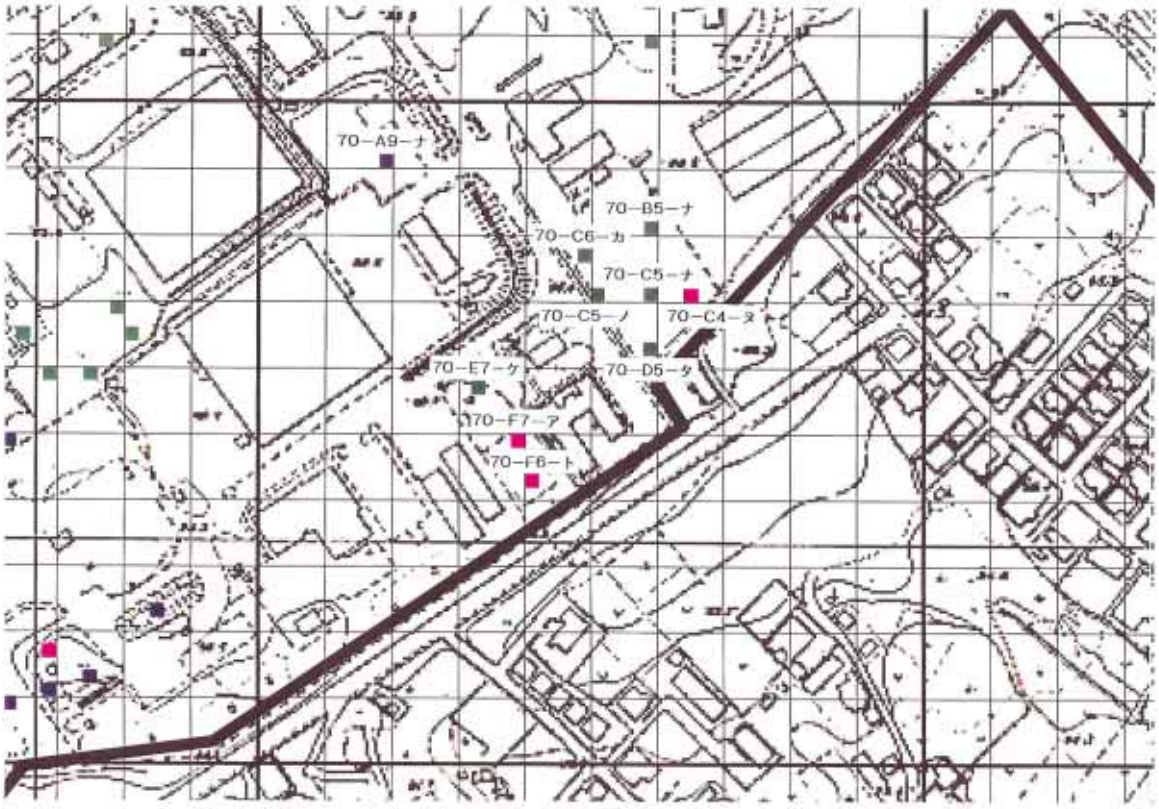
一方、Ⅲ層は70－Ｃ４－ヌと、やや離れて70－Ｆ６－ト・Ｆ７－アの２つの範囲で見られる。後者は灰オリーブ系の部分も見られるので、地下水等の影響が強かったものと思われる。

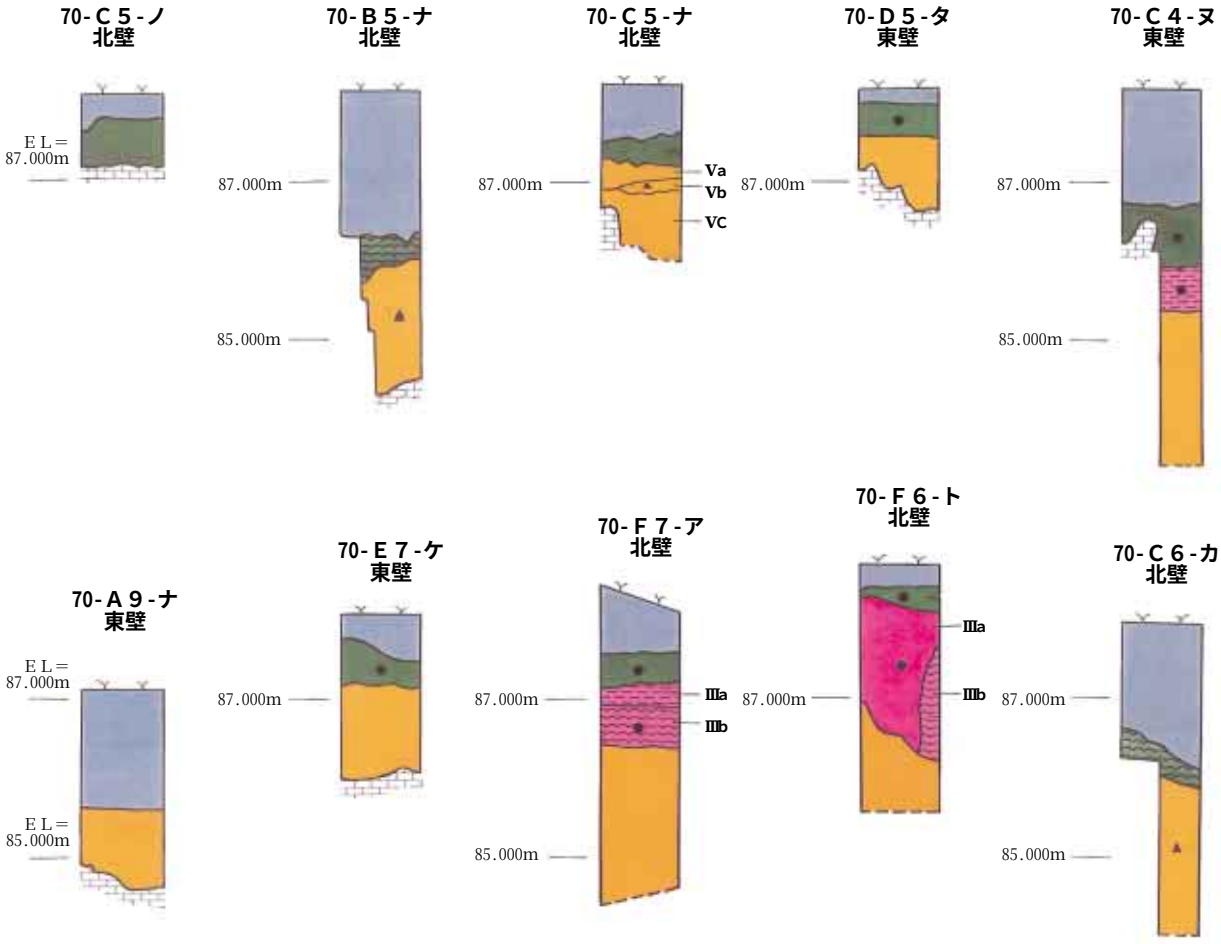
７）ブロック７（62－Ｄ８－イ・Ｄ８－ケ・Ｄ９－イ・Ｅ９－エ・Ｅ10－サ・Ｆ10－ス・Ｇ10－ウ）（第10・11図）

Ⅲ層は、62－Ｄ８－イ・Ｄ８－ケ・Ｄ９－イ・Ｅ９－エ・Ｅ10－サ・Ｆ10－ス・Ｇ10－ウに確認されており、弧状に連なるように分布している。それぞれの地点の土層は、すべて同一の色調ではないが、一番下層のレベルを見ると、一連の北東側から南西側に谷状に落ち込む地形となっている。この範囲は、南側にクチャの分布が及んでいることもあって、このⅢ層もグライ化の影響を受け、灰オリーブ系の色調を呈する地点が

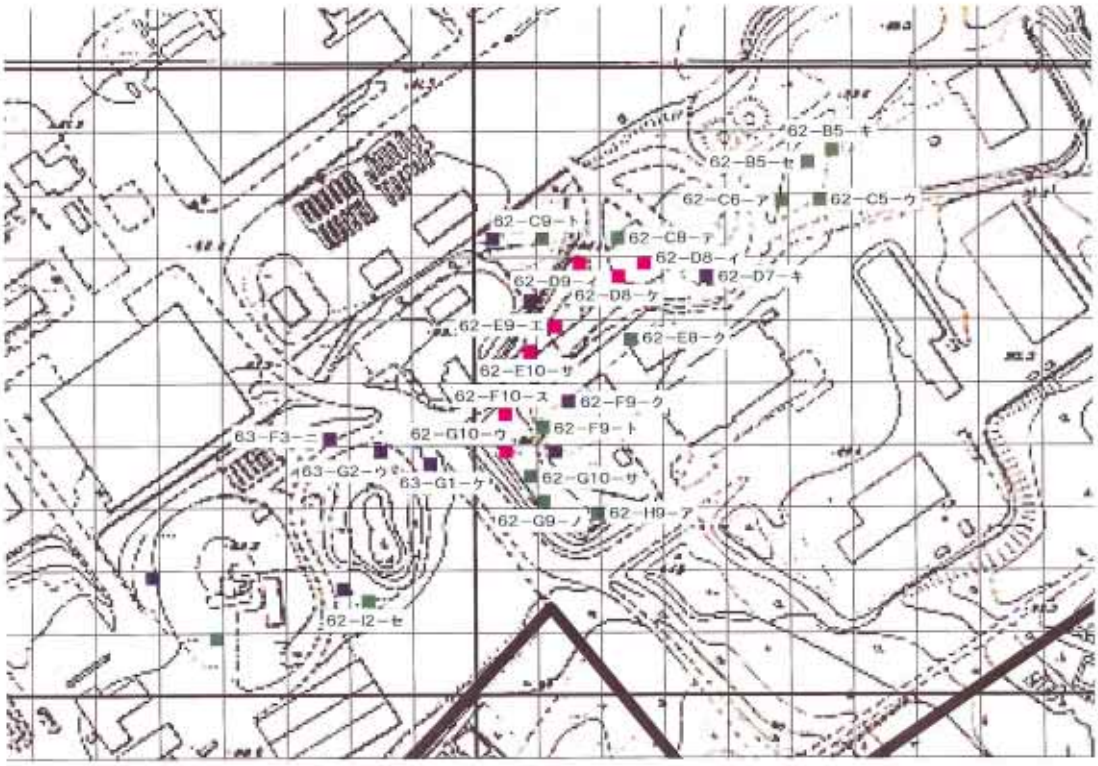


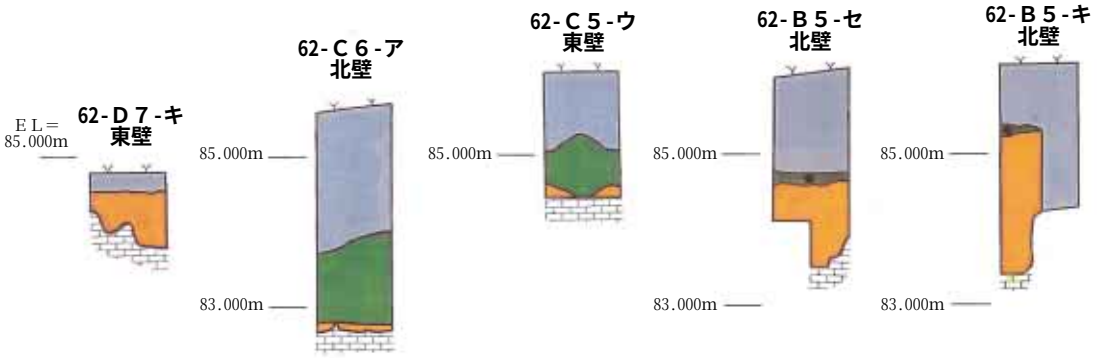
第８図　Ⅰ区ブロック３・４・５断面図





第９図　Ⅰ区ブロック６平面・断面図





第10図　Ⅰ区ブロック７平面・断面図

見られる。62－Ｆ10－スや62－Ｇ10－ウで花粉分析を行っており、栽培植物の花粉が検出されているため、やはり耕作による土層と考えられよう。

また、62－Ｆ10－スのⅢａ層で、18世紀代の染付片が出土している。このことは、この下層の色調が異なる暗褐色系のⅢｂ・ｃ層が、近世でも古い時期もしくはグスク期までに遡る可能性があり、注意すべきである。

Ⅱ層は、先のⅢ層が堆積するグリッドとそのすぐ南側までにより広い分布となっている。また、この範囲からやや離れた北東でもⅡ層の堆積は見られるが、この間は調査していないため、先の範囲と一連の可能性もあろう。このⅡ層の色調は、地形的に高い部分に黄褐色系、低い部分に灰オリーブ系と、地形によって土層の違いが見られており、土地利用の違いが示唆される。

第３節　小結

今まで記述してきたように、Ⅰ区では近世～グスク期に遡ると思われるⅢ層が部分的に分布することが判った。この分布状況は、現存する建物を避けて行った試掘調査であるため、偏りがある可能性もあるが、今回捉えた７つの大きなまとまりに近い分布で存在していたと考えられる。

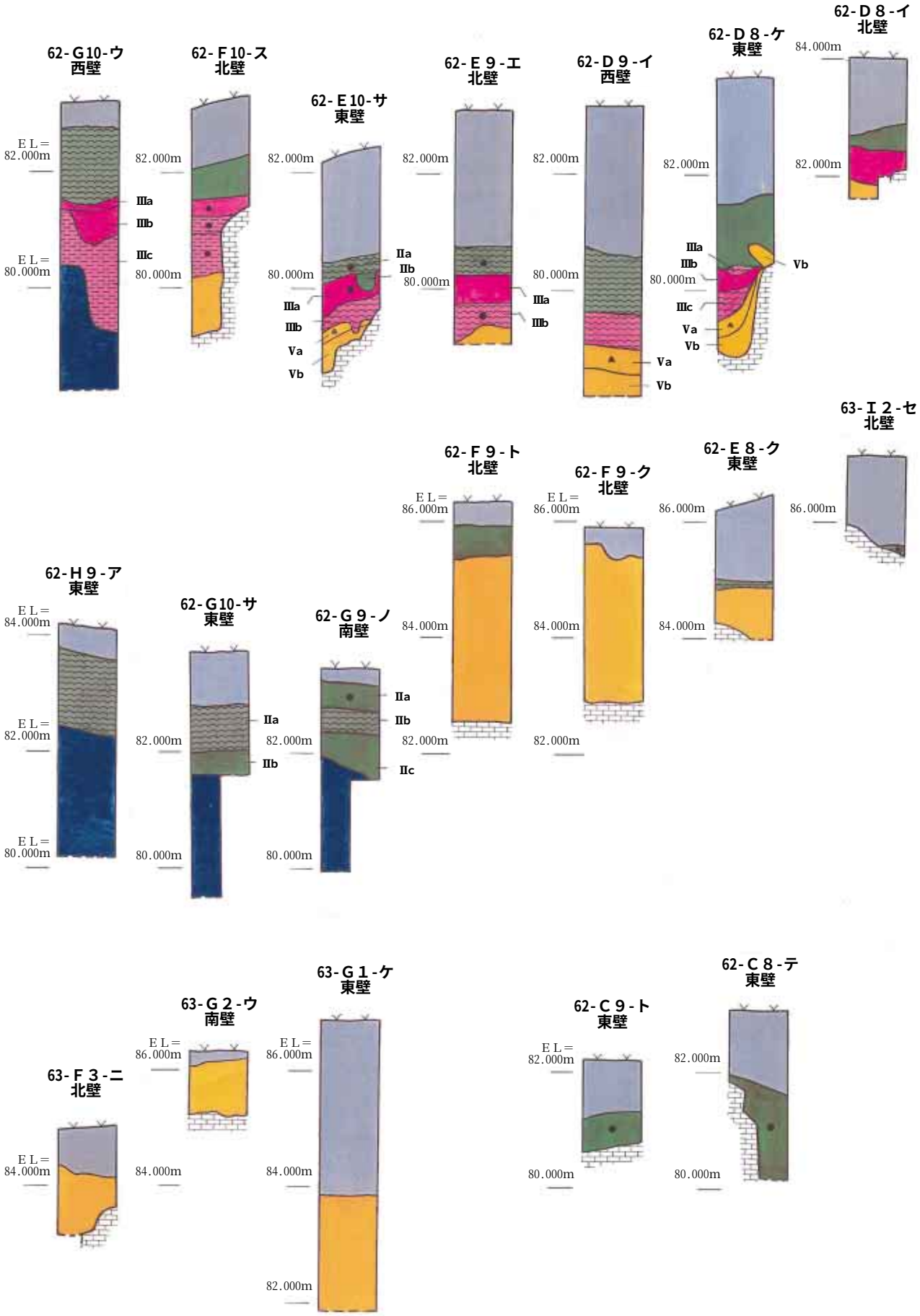
このⅢ層であるが、その多くは落ち込むような堆積をとっているので、小規模な細長い谷状もしくはドリーネ状の地形に堆積している可能性が高い。つまり、先述したようにⅢ層を耕作土と考えると、この時期には、この谷状の地形で耕作が営まれていたと推測できるのである。

また、Ⅲ層について、幾つかの地点で花粉分析を行ったところ、アブラナ科やイネ属等の栽培植物に由来する花粉が見つかった。このことから、やはり土質・色調から考えられるように何らかの耕作を行っていた可能性は高いが、より現地性が高いプラントオパールではイネ属のものは見られていない。しかしながら、これらのⅢ層はその分布状況も合わせて考えると、その一帯では何らかの耕作が行われていた可能性も考えて、今後の調査範囲を広げた確認調査の必要があろう。

さて、戦前以前のⅡ層であるがⅢ層の周囲に分布し、その範囲はより広い。また、Ⅱ層の堆積はおおよそ水平である。戦前の空中写真を見ると、このⅠ区一帯は畑地が広がっているため、Ⅱ層がいつの時期まで遡るかどうかは難しいが、やはり耕作土と考えられる。すなわち、Ⅱ層の時期には谷部だけでなく、丘陵の平坦面でも耕作が行われていたのであろう。さて、耕作の形態であるが、基本的には畑地であったのは確かだが、地形的に谷部に近く周りよりやや低いところでは、一部水の影響を受けグライ化している灰オリーブ色系の土層で、一部には酸化鉄斑が見られるので、これは水田的な土壌と考えられる。つまり、畑作と併せて水田耕作も営まれていた可能性も考えていく必要もあろう。

これらのことから推測すると、土地利用の変遷の視点で考えると、グスク～近世期に遡るものと思われるⅢ層の分布は谷地状の地形に限られる。このことは、水が保水しやすい場所にこの時期の耕作が営まれたものと考えられる。その後、戦前までのⅡ層の時期にはその谷地以外のより乾燥した地形においても、さらに広範囲で耕作が行われたものと考えられる。

ただ、いずれにせよこの推測は今後の本格的な調査で、耕作に関する明確な遺構を確認していく必要があろう。また、今回は１グリッドの調査面積が狭かったこともあって、各層において明確な時期を表す遺物もほとんど出土しなかったので、層序の時期については今後の調査により、さらに正確な時期を抑えていかなければならない。



第11図　Ⅰ区ブロック７断面図

第５章　Ⅱ区

Ⅱ区はⅠ区と異なり、戦後の基地造成に基づく改変が比較的及んでいない地域で、現状では木々が生い茂る原野となっている。この地区において、重機および人力のみで267ヶ所の地点で試掘調査を行った。また、Ⅰ区よりも基本的に堆積が浅く、大概のところは地表下0.5～1.0m内外で岩盤が検出されるところが多い。また、遺構・包含層が見られる範囲が幾つか集中するような状況を示す。そこで、調査の概略はこの遺構・包含層が見られる範囲を10のブロックに便宜的に分け、それらごとにまとめて述べることにする。

第１節　層序

Ⅱ区の土層について、先ほど大きく分けた層ごとにその特徴を記述する。この地区では、先の５層に分けた全ての層が見られる。以下、各層ごとに述べる。

Ⅰ層　表土・基地造成に伴う盛土

この地区ではあまりこの造成土は厚くなく、基本的には10cm以下の薄い腐葉土であることが多い。

Ⅱ層　基地造成土直前の旧表土・耕作土

この地区は戦前畑地であった部分が多く、焼土・炭、石灰岩の細礫が多く入っている層がほとんどであるため、基本的には耕作土と考えられる。19～20世紀前半の陶磁器が出土。

Ⅲ層　近世～グスク時代の耕作土・遺物包含層・遺構埋土・自然堆積層

Ⅱ区のⅢ層は、Ⅰ区のような耕作土と考えられる層だけでなく、遺物包含層・遺構埋土がある。遺物包含層・遺構からはグスク土器等のグスク時代が出土することもある。26－Ｂ４－アでは、貝塚時代後期土器を包含する層が見られた。

Ⅳ層　貝塚時代中期の遺物包含層・遺構埋土・自然堆積層

Ⅱ区で見られる層で、貝塚中期土器・石器・石材等が出土する。その性格は、遺物包含層、竪穴住居跡等の遺構群、自然堆積層と場所により異なる。

Ⅴ・Ⅵ層　地山（マージ・岩盤）

Ⅱ区では基本的に地山はマージ・岩盤であって、深さ0.5～1.0mと非常に浅い所が多い。また、一部、マージが水の影響を受けグライ化し、色調が黄褐色～灰オリーブ色を呈するところも見られる。16－Ⅰ５－アでは、このマージの岩盤に近いあたりで獣骨小片が出土した。

第２節　ブロックの概要

先述したようにⅡ区においては、遺構・遺物包含層が検出されたグリッドがある。この範囲は、その分布から大きく10ブロックのまとまりとして捉えられる（第12図）。

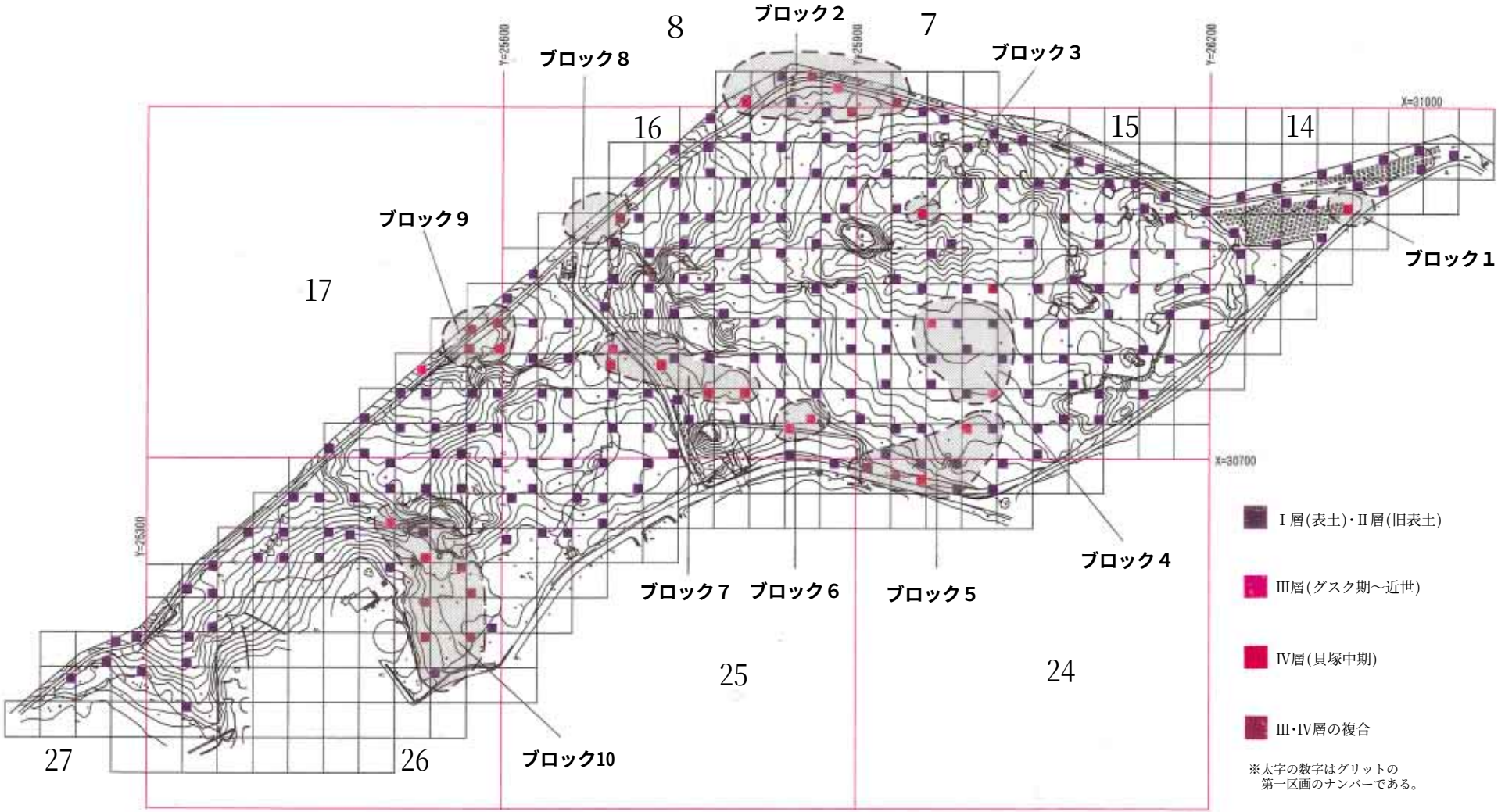
１）ブロック１（14－Ｃ７－ナ）

地山であるマージ上面で、貝塚中期土器を少量含む厚さ10～30cmのⅣ層が北側の一部で検出されている。土器は小片で量はそれほど多くない。喜友名前原第三遺跡の範囲がすぐ東側に設定されているが、この遺跡に相当するのかは、これからの検討の余地がある。

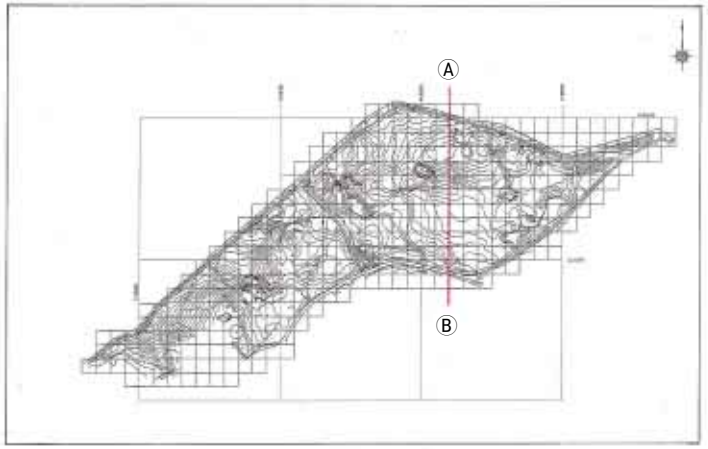
２）ブロック２（７－Ｊ９－ノ、８－Ｊ１－ス、８－Ｊ２－イ、８－Ｊ４－ナ、16－Ａ１－ア）（第14図）

このブロックは、Ⅲ層であるグスク期の遺物包含層およびピット群、Ⅳ層である貝塚中期の遺物包含層および遺構が東西約100mの比較的平坦な場所において検出している。各層ごとに記述する。

Ⅲ層は７－Ｊ９－ノ、８－Ｊ１－ス、８－Ｊ２－イ、16－Ａ１－アに見られる。この内、16－Ａ１－アはⅢａ層が暗褐色系の色調で貝塚中期の遺物とともにグスク土器が見られ、その下層のⅢｂ層が黄褐色系で遺物を含まない層となっている。他のⅢ層から遺物は出土していないが、層位の上下関係からⅢ層と考えた。また、７－Ｊ９－ノでは上層ではあるが、Ⅱ層から近世の陶磁器・貝塚中期土器と共にグスク土器・類須恵器が比較的出土しているため、この周辺にもグスク時代の遺構・遺物包含層が存在する可能性が見られる。ここ７－Ｊ９－ノでは滑石製石鍋の把手を模倣した土器が出土している。


ブロック２
ブロック８
ブロック３
ブロック９
ブロック１
ブロック４
ブロック７
ブロック６
ブロック５
ブロック10
8
7
16
15
14
17
25
24
27
26
Y=25600
Y=25900
Y=26200
X=31000
X=30700
Y=25300
Ⅰ層(表土)・Ⅱ層(旧表土)
Ⅲ層(グスク期～近世)
Ⅳ層(貝塚中期)
Ⅲ・Ⅳ層の複合
※太字の数字はグリットの
第一区画のナンバーである。
0
300m

第12図　Ⅱ区全体図



15-Ｅ８-オ
西壁
ＥＬ＝73.000m

ＥＬ＝70.000m
15-Ｄ９-ア
東壁

15-Ｃ８-オ
東壁
ＥＬ＝69.000m

※貝塚中期
竪穴住居跡検出

ＥＬ＝70.000m
15-Ｆ９-ア
東壁

ＥＬ＝68.000m
15-Ｇ８-オ
西壁

※グスク～近世紀
柱穴群検出

15-Ｈ８-オ
西壁
ＥＬ＝65.000m

67.000m
15-Ｈ８-ノ
西壁

15-Ａ９-ナ
東壁
ＥＬ＝65.000m

Ⓐ
15-Ａ９-ア
西壁
ＥＬ＝63.000m

64.000m
15-Ｊ９-ア
東壁

63.000m
24-Ａ９-ア
東壁

Ⓑ
61.000m
24-Ａ９-タ
東壁

※貝塚中期
遺物包含層検出

第13図　Ⅱ区縦断面図

８－Ｊ１－スでは、地山面であるマージ上面で径約20～30cmのピットが20数基検出されている。このグリッド周辺およびⅢａ層からは遺物が出土していないが、ピットの埋土（Ⅲｂ層）上面にわずかなグスク土器と思われる小片があること、先述したように周辺にグスク期の遺物包含層が存在することため、グスク時代の遺構として考えたい。

Ⅳ層は７－Ｊ９－ノ・８－Ｊ４－ナ・８－Ｊ２－イ・16－Ａ１－アで見られる。このⅣ層は全て暗褐色系の色調であること、量の違いはあるが貝塚中期土器を含んでいるため、基本的に同一の遺物包含層と考えられる。ここから出土している貝塚中期土器は、いわゆる宇佐浜式の口縁をもつものが主体である。

遺構としては、７－Ｊ９－ノにおいて、Ⅳ層検出段階で調査を止めているため断言できないが、東側に約２ｍの方形プランを呈する部分があり竪穴住居跡と考えられ、ここから多くの土器が集中している。また、西側には南北に走る石列がⅣ層直上で２列見られる部分もあり、これも住居跡等の遺構の可能性がある。

以上のように、このブロックでは貝塚中期とグスク期の包含層・遺構が混在して分布するようである。16－Ａ１－アのように、グスク期遺物包含層のⅢａ層の下に無遺物層（Ⅲｂ層）を挟んで、貝塚中期のⅣ層が検出されるように、層序的に良好な地点もあり、面的に調査を行う場合には層位的な発掘が必要と思われる。

周知の遺跡では、伊佐上原遺跡群の南側に含まれ、この遺跡の実態がより判明したと考えられよう。

３）ブロック３（15－Ｄ９－ア）（第15図）

貝塚時代中期の竪穴住居跡を２基検出している。ただ、今回は試掘調査であったため、全ての遺構埋土を完掘していないこと、詳細な遺構の性格は周辺部までに調査区を広げた範囲確認調査により、さらに検討する必要がある。

このグリッドの堆積状況は、Ⅰ層の表土が0.1m、Ⅱ層の近世～戦前の耕作土が0.3mの厚さで堆積しており、その下にはマージであるⅤ層および岩盤が検出される。そして、竪穴住居跡はこのマージ面で検出された。現状では、この住居跡を覆う当該期の堆積層は確認できなかった。Ⅱ層が耕作土と考えられるので、住居跡が廃絶した後に堆積した土層は後世に攪拌されてしまったものと思われる。しかしながら、貝塚中期の遺物はⅠ・Ⅱ層からは数片のみしか出土しなかったので、住居廃絶後の堆積層にはそれほど多くの遺物は包含されていたとは考えにくいと思われる。

竪穴住居跡は２基検出されたが、平面プランが確認できたのは１基のみで、もう1基はサブトレンチによる断面観察では確認できたが、平面では土の判別が非常につきにくいため、今回のように調査面積が限られた状況では、そのプランは確定することは困難であるが、おそらく竪穴住居跡１とほぼ同様のプランをもつものと思われる。

竪穴住居跡１は、一辺2.4mのほぼ方形の平面プランをもち、その深さは0.45mをはかる。その南東端は遺構に接するような形で岩盤の露出が見られた。試掘調査であるため、遺構全体の掘下げは行っておらず、プランが明瞭に確認できたⅣｃ層上面、つまり遺構検出面から約0.15mの深さまでしか掘削していない。すなわち、床面までの掘下げを行っていないため、柱穴および炉跡等は確認していない。四分法により設定したサブトレンチにより、遺構内の層序については確認した。

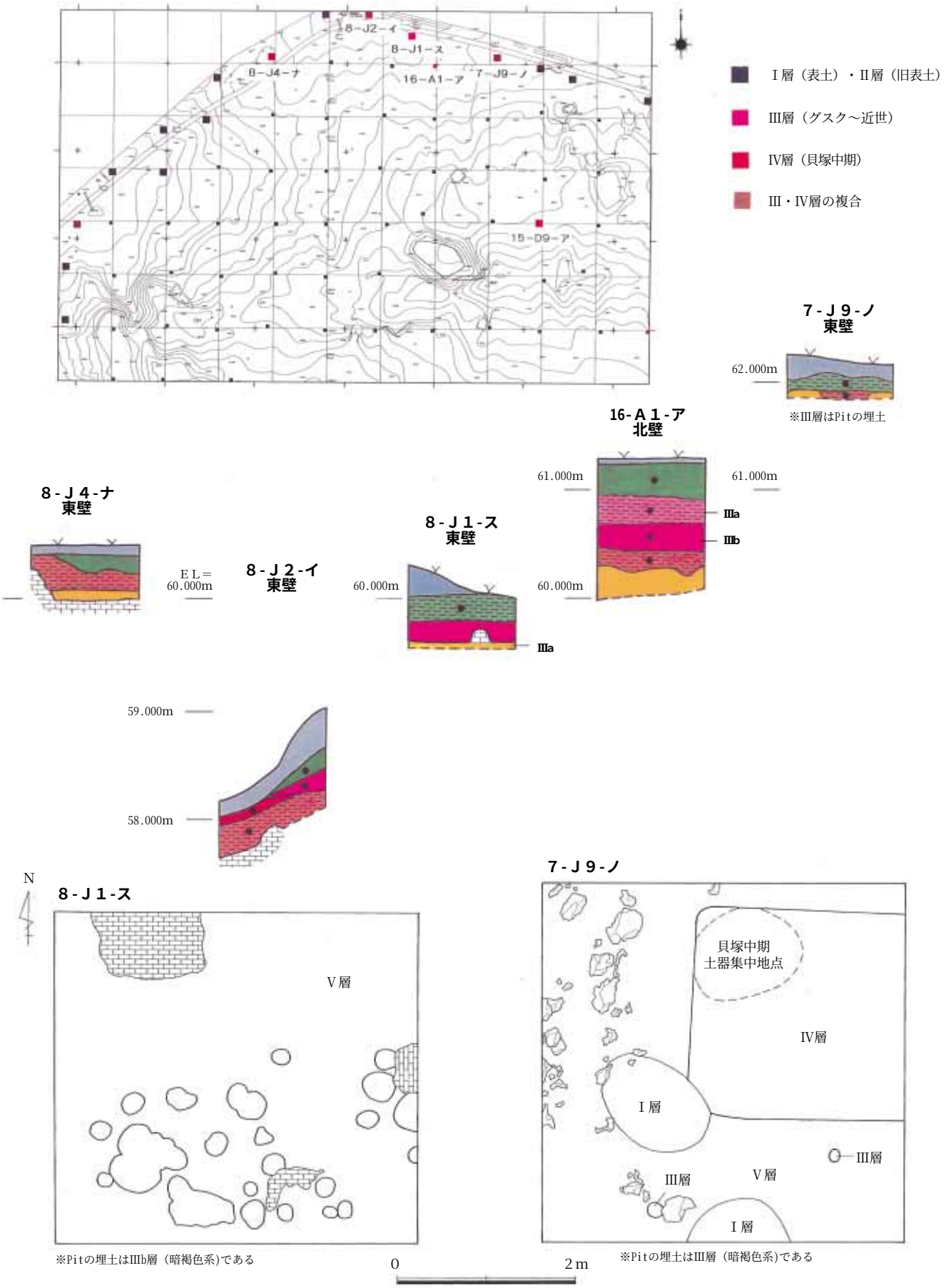
その結果、遺構廃絶にかかわる覆土はⅣａ～ｃ層で、遺物はこの層内の特にⅣａ・ｂ層から出土しれた。これらの層で、特にⅣｃ層は暗褐色の色調で、非常に多くの炭を含んでいる。この炭の年代は放射性炭素年代測定により補正年代B.P.3050±50、歴年較正年代B.P.3,341～3,172であった。

Ⅳｄ～ｈ層は、基本的に岩盤上に堆積する埋土であるため、竪穴内の整地土と考えられる。そのため、このⅣｄ層上面が、いわゆる竪穴内の床面、生活面と考えられる。また、Ⅳｆ・ｇ層は壁面の化粧土と考えられ、その一部の南東と北西側は約1.0m張り出し、床面より一段高くなったいわゆるベッド状遺構と考えられる。

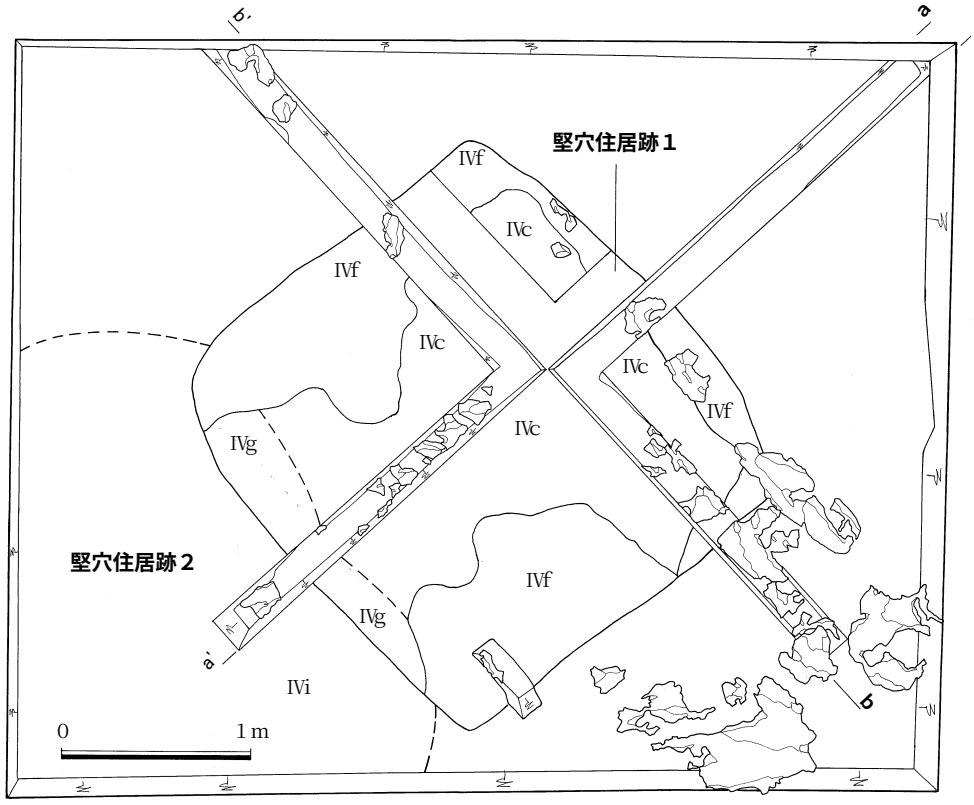
出土遺物はⅣａ・ｂ層から小片で比較的散在して出土しており、土器はカヤウチバンタ式を主体として、石器は磨石片が出土している。

竪穴住居跡２は、サブトレンチで確認したⅣｉ・ｊ層にあたる。この内、Ⅳｊ層からは比較的まとまった土器片が出土している。Ⅳｊ層の炭から、放射性炭素年代測定により補正年代B.P.3130±50、歴年較正年代B.P.3,440～3,321が測定されている。出土遺物はⅣｊ層からカヤウチバンタ式の土器片が出土している。

いずれにせよ、この竪穴住居跡と報告した遺構であるが、今回は完掘していないため、詳細な性格は今後の調査により補完されるべきものである。

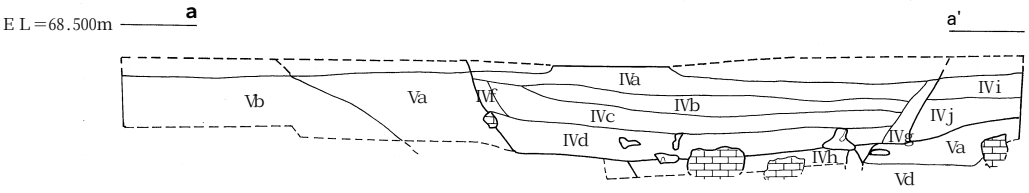


第14図　Ⅱ区ブロック２平面・断面図



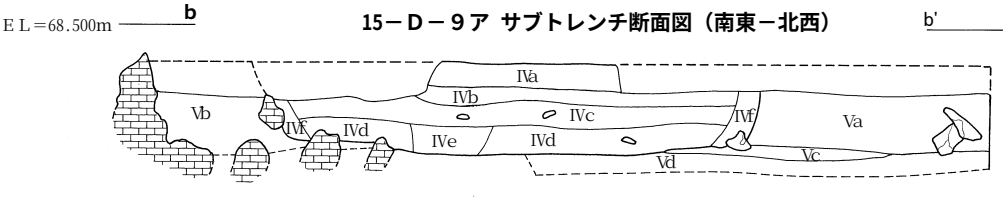
※竪穴住居跡１は、IVc 層を検出した段階で掘出した段階で掘削を終了している。IVc 層の外周はIVf・IVg 層が同レベルであらわれるため、その範囲を示している。つまり、IVf・IVg 層が一部住居内のベット状遺構になる可能性がある。

15－Ｄ－９ア サブトレンチ断面（北東－南西）



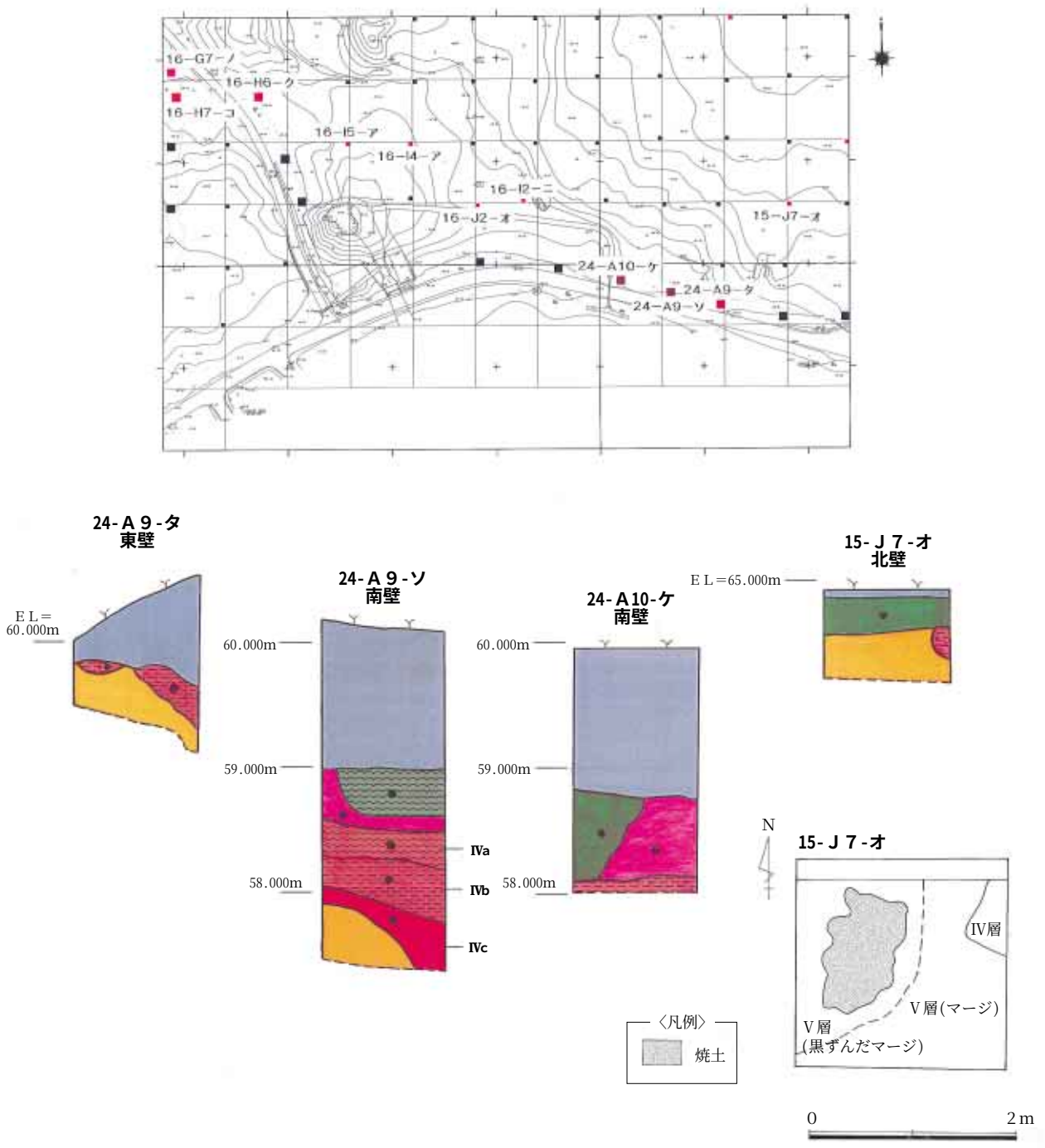
竪穴住居跡１覆土	IVa －10ＹＲ４／３にぶい黄褐 シルト～極細砂（焼土、炭わずか含）
	IVb －10ＹＲ４／６褐 シルト～極細砂（焼土、炭わずかに含むがａよりも少ない）
	IVc －10ＹＲ２／３黒褐 シルト（焼土、炭ひじょうに多含）
竪穴住居跡１内整地土	IVd －10ＹＲ４／４褐 シルト（焼土わずか含）
	IVe －10ＹＲ３／３暗褐粘質 シルト
	IVf －10ＹＲ４／４褐 シルト～極細砂
竪穴住居跡１より古い別遺構？	IVg －10ＹＲ３／２黒褐粘質 シルト（焼土、炭含）
	IVh －10ＹＲ４／３にぶい黄褐粘土～シルト

15－Ｄ－９ア サブトレンチ断面図（南東－北西）



竪穴住居跡２覆土	IVi －10ＹＲ４／４褐 シルト～極細砂
	IVj －10ＹＲ３／３暗褐粘質 シルト
マージ	Va －7.5ＹＲ４／４褐 シルト（マンガン含）
	Vb －7.5ＹＲ４／６褐 粘土～シルト（マンガン含）
	Vc －10ＹＲ５／４にぶい黄褐粘質 シルト（腐植土か？）
	Vd －7.5ＹＲ５／６明褐 粘土～シルト（マンガン含）

第15図　Ⅱ区ブロック３検出竪穴住居跡平面・断面図

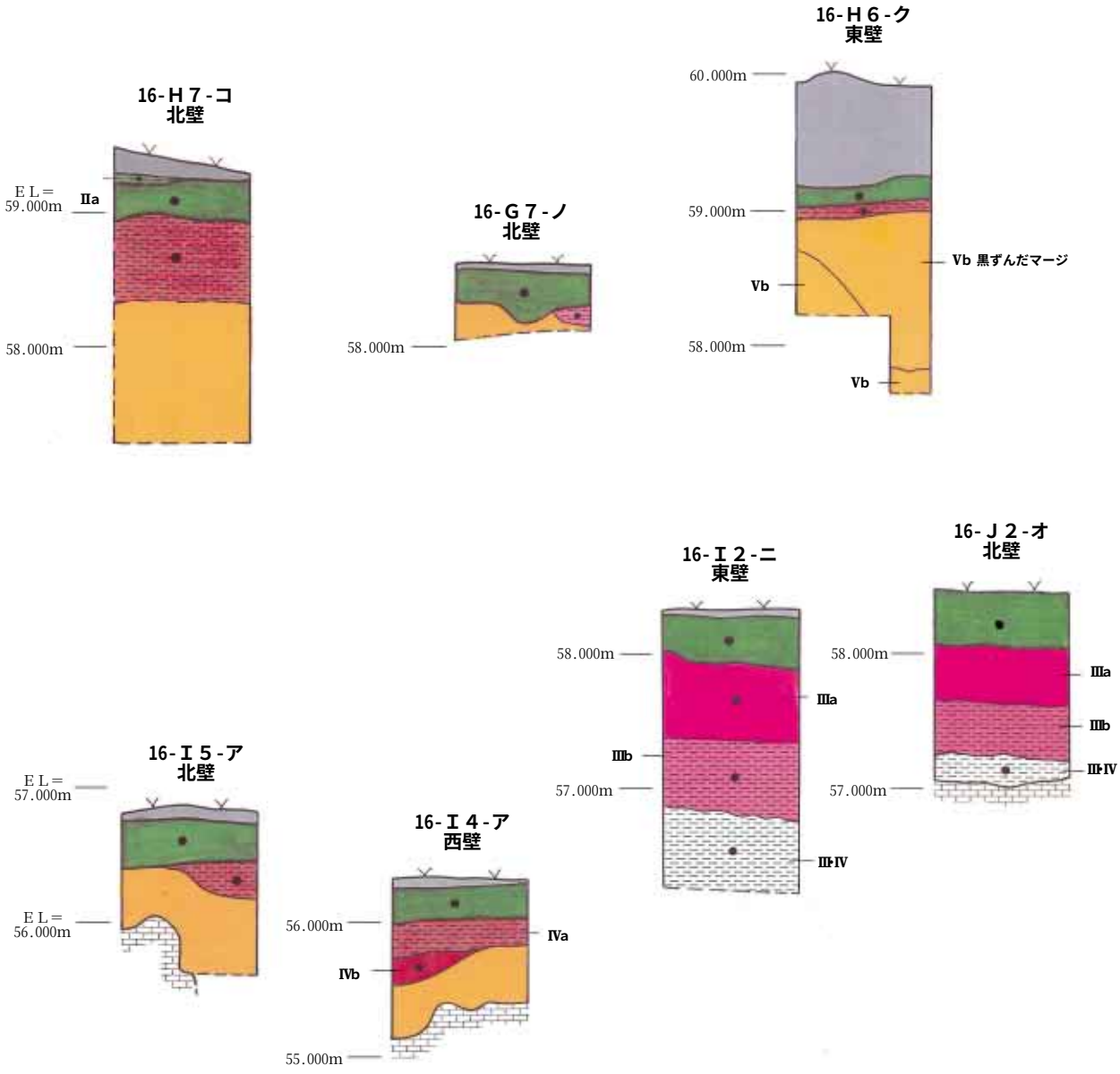


第16図　Ⅱ区ブロック５・６・７平面・断面図

宜野湾市文化財地図では、これに相当する遺跡はないが、先ほど記述したブロック２の遺構群からは約100m程しか離れていない。時期的には、貝塚中期前半に相当し、ブロック２よりやや古い傾向にあるが、伊佐上原遺跡群の地点的な遺跡と考えても良いと思われる。

４）ブロック４（15－Ｇ８－オ、15－17－ア）

15－Ｇ８－オおよび15－Ｉ７－アでは、Ⅲ層のピット群が地山であるマージ直上で検出されている。この地山の上層は、Ⅱ層で18世紀代～20世紀前半の本土産磁器、沖縄産陶器を主体に含む耕作土層である。ピット群の年代であるが、Ⅱ層から非常にわずかだが数片の14～15世紀の青磁・鉄釉・褐釉陶器を含むこと、ピットの径が約20～40cmと比較的大きいこと、その埋土の色調からブロック２の８－Ｊ１－スで見られたピット群とほぼ同様のものと思われること、ピット内からは小片だがグスク土器が出土すること、グスク時代のものと考えたい。



第17図　Ⅱ区ブロック６・７断面図

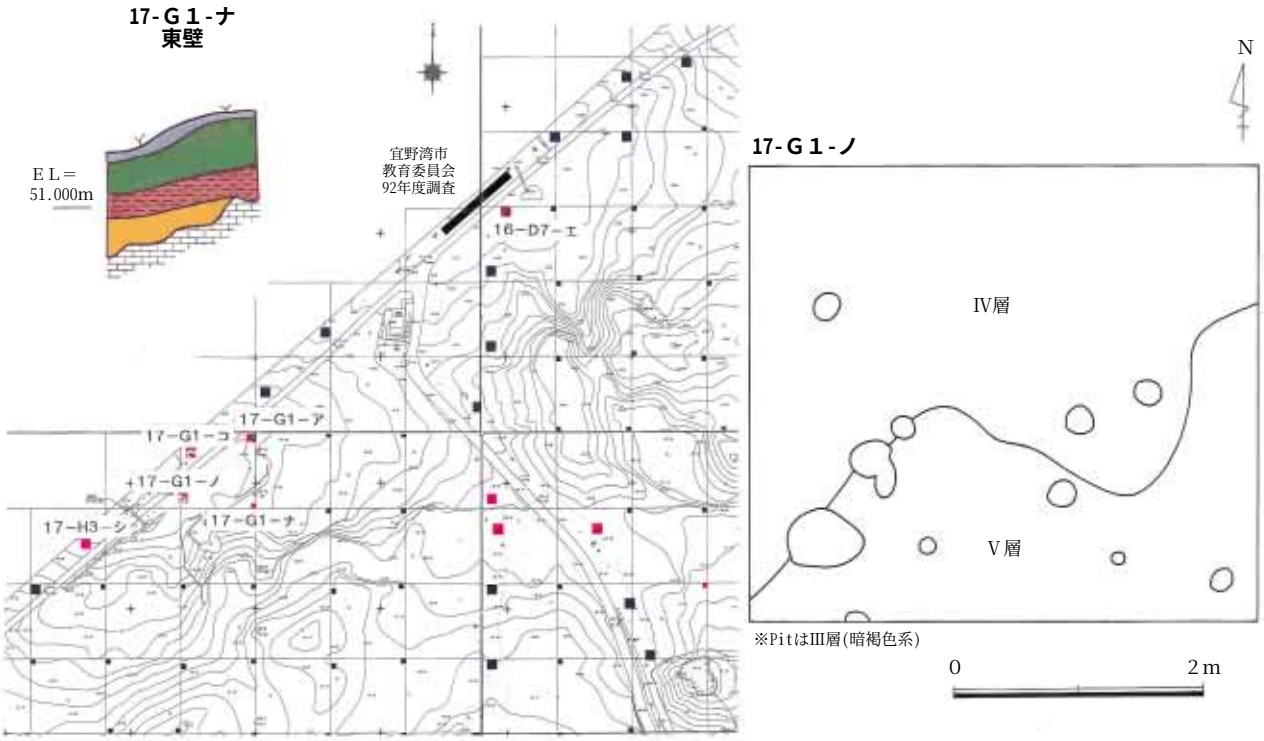
ピットの深さは、おおよそ傾向があり、10～20cmの浅いものと、40～50cmの深いものの大きく２つの傾向がある。将来、本格的な確認調査を行うときには、このピットの深さの違いにより建物プランの復元が検討することが出来よう。

このブロックは、比較的平坦な場所にあり、今回の試掘では上の２ヶ所のグリッドでしかピット群が検出されなかったが、この約100m範囲の平坦面に同様の遺構群が広がっている可能性が考えられる。そこで、この範囲については、さらに試掘調査の間隔を狭めてピット群の分布を確認することにしており、詳細な内容は次回の概要で記載する。

５）ブロック５（15－Ｊ７－オ、24－Ａ９－タ、24－Ａ９－ソ、24－Ａ10－ケ）（第16図）

このブロックでは、Ⅳ層である貝塚時代中期の遺物包含層および遺構が検出されている。このⅣ層の上層は、層位的な上下関係から、Ⅲ層と考えられるが遺物が出土していないため詳細な時期は不明である。

このブロックのⅣ層の分布であるが、大きく２つの地点に分けて考える必要がある。まず、このブロックの南側に当たる24－Ａ９－タ、24－Ａ９－ソ、24－Ａ10－ケにおいては、１mにも及ぶ部分がある比較的厚



第18図　Ⅱ区ブロック８・９平面・断面図（１）

い土器細片が多く出土する遺物包含層が確認されている。この層の厚さと、24－Ａ９－タでは落ち込みが確認されていることもあって、このあたりから南側へ向かって落ち込む谷状の地形を呈していたものと思われる。土層の色調が灰オリーブ系の部分があることも、この一帯が谷状のやや湿地的な地形であったという想定を裏付けよう。

また、詳細な時期は限定できないが、上層のⅢ層も灰オリーブ系の色調であるので、やはり長期間湿地的な環境であったものと思われる。

一方、この範囲よりも北側に約60m離れており、地形的に５mほど高い15－Ｊ７－オでは、遺構の可能性が考えられるⅣ層が検出されている。ここでは、全形は分らないが深さ約20cmの暗褐色系の落ち込みが検出されており、地山面では焼土が確認されている。この地点は、周囲約30m程度の小さな平坦面となっており、ブロック３で検出された竪穴住居跡と類似した立地状況である。よって、この焼土および落ち込みが竪穴住居跡に関する可能性が高い。

上の想定を裏付けることとして、15－Ｊ７－オの南側に当たる24－Ａ８－アでは、Ｉ層である造成土から多くの貝塚中期土器が比較的大きな破片で出土しており、地形的な面からも考えると、このあたりまで遺構が広がっていた可能性も考えられよう。

このブロックのⅣ層の時期であるが、宇佐浜式の口縁が多く、器壁も５㎜以下と薄いため、貝塚時代中期でも後半の可能性が考えられる。

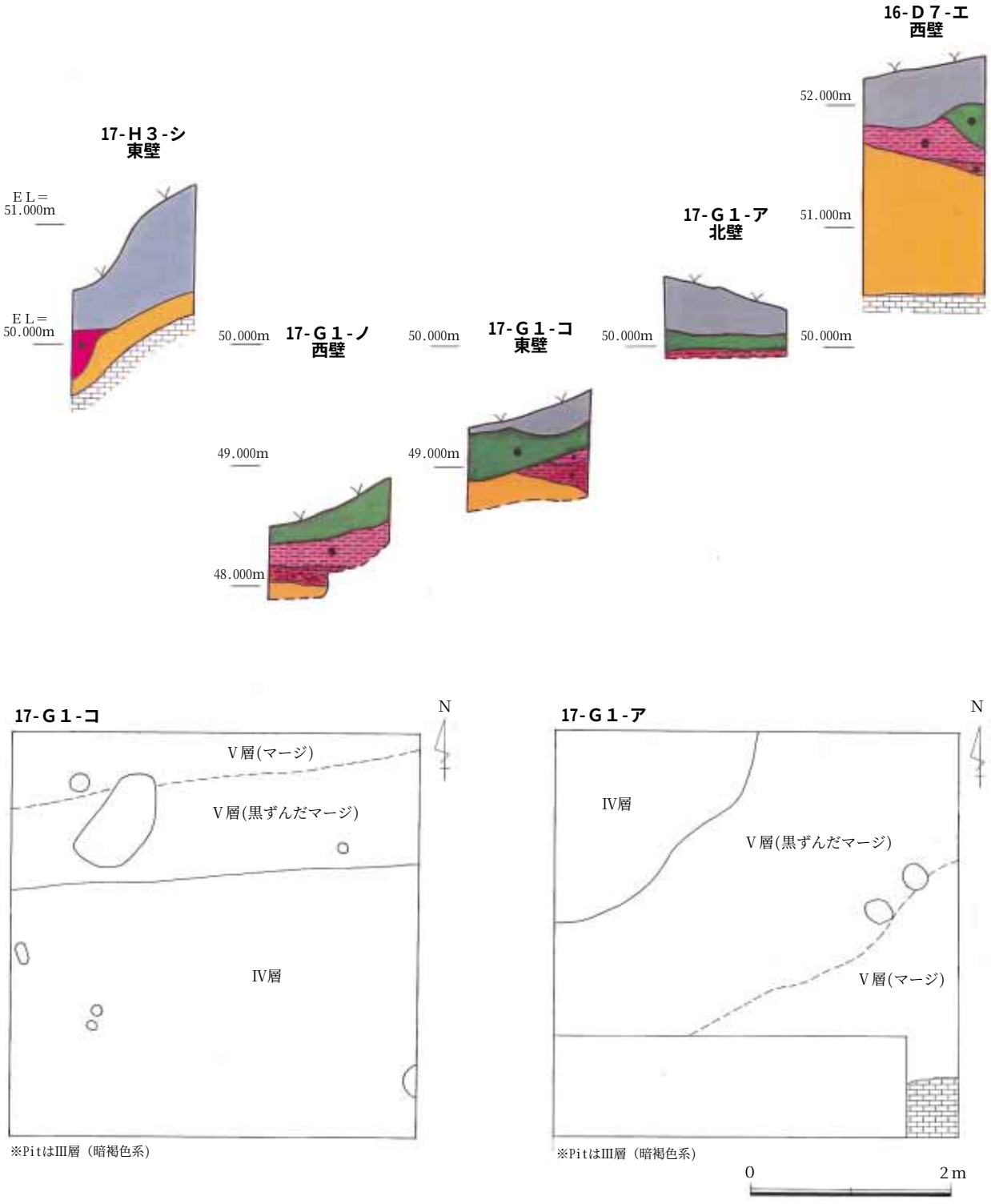
周知の遺跡では、喜友名前原第二遺跡の範囲に含まれ、この遺跡の性格が判明してきたと言えよう。

６）ブロック６（16－Ｉ２－ア、16－Ｊ２－オ）（第16・17図）

16－Ｉ２－ア、16－Ｊ２－オでは、時期が確定できないがⅡ層の下部に１m以上の厚い堆積層が検出されている。この堆積層であるが、Ⅲａ層は黄褐色系、Ⅲｂ層は暗褐色系であるが、その下層はさらに濃い暗褐色系の土層で、焼土・炭が上層よりもかなり多い。ただ、遺物がないことと、他の地区で見られるⅣ層の色調とは異なることから、Ⅲ・Ⅳ層と表現している。

これらの層の性格であるが、遺物がないことから考えると、いわゆる耕作土の可能性が高いが、この地点のみで見られることからも、断定できない。

７）ブロック７（16－Ｇ７－ノ、16－Ｈ７－コ、16－Ｈ６－ク、16－Ｉ４－ア、16－Ｉ５－ア）（第16・17図）

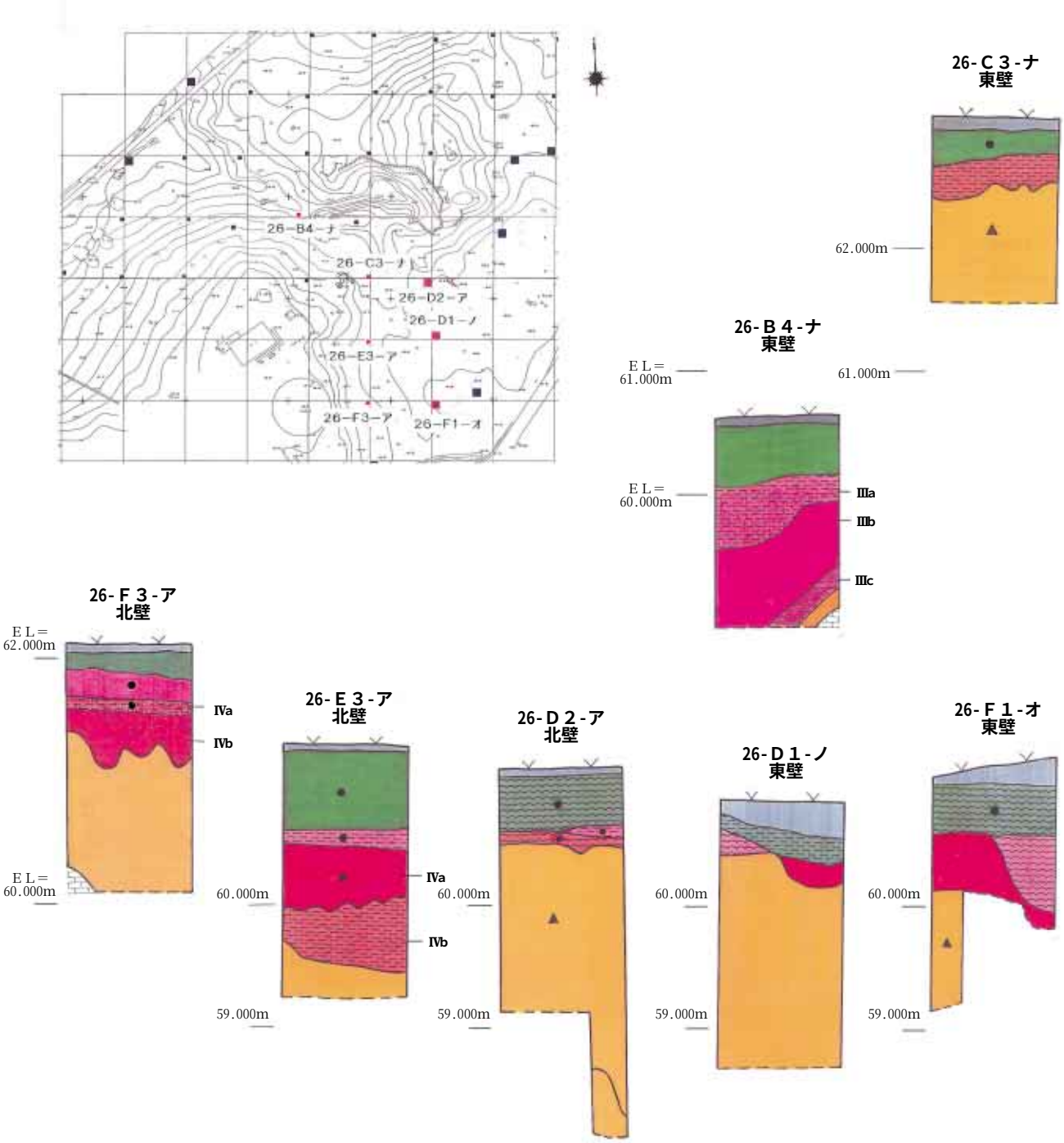


第19図　Ⅱ区ブロック８・９平面・断面図（２）

Ⅳ層は、16－Ｈ５－ア、16－Ｉ５－ア、16－Ｈ６－クでは非常に薄く10～30cm前後だが、この西側の16－Ｈ７－コでは60cmもの厚さがある。遺物は少ないが、貝塚中期土器が出土している。

16－Ｇ７－ノでは、遺物は出土していないが土色および質からⅢ層に当たる近世～グスク期と思われる溝状の遺構が検出されている。

16－Ｉ５－アでは、マージであるＶ層の岩盤に近い最下部から獣骨小片が出土している（巻頭図版８）。従来の見解では、マージから土器・石器等の人工遺物は出土することなく、骨でもあまり例を聞かない。しかしながら、周辺のグリッドのマージとそれほど差がない土層である。いずれにせよ、今後の調査ではより



第20図　Ⅱ区ブロック10平面・断面図

詳細な検討が必要である。

周知の遺跡範囲では、その大半は大山岳之佐久原第一遺跡の範囲に含まれており、時期的な点も考慮すると巨視的にはこの遺跡の範疇と考えてもよいものと思われる。ただ、後述するブロック８・９の成果をあわせると、この遺跡はほぼ同様の内容のものがいくつかの地点ごとに分かれて構成されていると考えた方がよい可能性もある。

８）ブロック８（16－Ｄ７－エ）（第18・19図）

Ⅲ層およびⅣ層が検出されており、貝塚中期土器を包含するⅣ層上面からは数基のピット群が見られた。このピットの時期であるが、1992年度の宜野湾市教育委員会がパイプライン建設に先立って行った緊急調査の成果を踏まえると、グスク時代の可能性が高い。

このブロックは、周知の大山岳之佐久原第１遺跡の範囲に相当するが、後述するブロック９との間に約

100mの空白地帯が存在する可能性がある。

９）ブロック９（17－G1－ア、17－G1－コ、17－Ｇ１－ナ、17－G1－ノ、17－H3－シ）（第18・19図）

先述のブロック８から約100m程南西に離れており、その間に地形的には低い高まりにより分けられている場所である。しかしながら、グスク時代と思われるⅢ層と、貝塚時代中期と思われるⅣ層が複合して堆積していることではブロック８と共通した特徴をもつ一帯である。

17－Ｇ１－ア、17－Ｇ１－コ、17－Ｇ１－ノではⅣ層の上にⅢ層のピットが検出されており、先のブロック８と同様の状況である。Ⅳ層からはわずかな貝塚中期土器が出土しているが、Ⅲ層からは遺物が出土していないが、先のブロック８から考えると、やはりグスク時代の可能性が高い。

17－Ｇ１－ナは、他の地点よりも標高が２m程高い地点である。ここでは、Ⅳ層が確認されており、この付近に住居跡等が存在している可能性はある。

17－Ｈ３－シでは、Ⅲ層がⅣ層上面で溝状に見られる。遺物はないが、土質・色調から判断した。

10）ブロック10（26－Ｂ４－ナ、26－Ｃ３－ナ、26－Ｄ１－ノ、26－Ｄ２－ア、26－Ｅ１－ニ、26－Ｅ３－ア、26－Ｆ３－ア、26－Ｆ１－オ）（第20図）

このブロックのⅢ・Ⅳ層は、水の影響を受けグライ化している地点が多く、地形的にも谷状の落ち込みとなっており、湿地的な環境であった可能性が高い。

Ⅲ層であるが、明確な遺物を含むことは少ないが、26－Ｆ１－オでは溝状の遺構が見られる。この溝状遺構の堆積状況は、基本的には水平堆積であるが、その色調が灰オリーブ系と黄褐色系であるところが、互層となっている。また、この堆積中にはアシ等と思われる植物遺体が多く含まれており、明瞭なラミナが見られなかったので、水が常に澱んでいるような湿地的状況であったと思われる。今回の調査では明確にできなかったが、このような環境においては何らかの耕作が行われていた可能性が高く、今後の調査では注意を要する。

貝塚中期土器を含むⅣ層であるが、このブロックでは今までとは異なり26－Ｄ１－ノのように、黄褐色系の土層のところが多い（巻頭図版８）。また、26－Ｅ３－アでは、貝塚中期土器や石器がこの黄褐色系の土層から出土している（巻頭図版７）。この土層は、人為的なものと考えるよりも、先述したように谷状の地形であることからも、自然堆積層と見た方がよいと思われる。

また、Ⅴ層であるマージも褐色・灰オリーブ色の色調で、グライ化の影響を受けていると考えられる。つまり、この地域は、石灰岩段丘上ではあるが、水の影響が見られ環境的には湿地的な状況であったと思われる。表土直下のⅡ層は、戦前以前の耕作土と思われるが、色調も灰オリーブで粘質的であるため、水田等の湿地的な状況に合わせた耕作と考えられる。

26－Ｂ４－ナは、貝塚後期土器が小片ではあるが多量に出土する包含層を確認した。断面模式図には、便宜的にⅢ層としている。他の地点ではあまり見られないが、小礫を多く含む層である。北西に伸びる谷状地形の一番高い所に位置すること、北側に向かって土層が堆積していることから、上方つまり北東側から流れ込んできた可能性が考えられる。この時期の遺物を明瞭に含む土層はこの地点しか検出されていないため、今後注意を要する。

他に、26－Ｂ６－アおいて、Ⅱｂ層からグスク土器が出土しているが、近世の遺物も多く含んでいるので、純粋な包含層ではないが、注意を要する。

このブロック10は、周知の大山宇久保原遺跡の範囲に含まれるものと思われるが、集落域ではなく、谷状の地形であったと考えられる。

周知の大山ウフォーアブ遺物散布地に当たる27－Ｇ１－アでは、貝塚後期土器が数片であるが、表土であるⅠ層から出土していたことを注意しておく。ただ、今回はこの付近では、遺構・明らかな包含層の確認はできなかった。

第３節　出土遺物

今回の調査は分布調査であり、４ｍ×４ｍないしは２ｍ×２ｍの試掘調査のため、各試掘坑で遺跡の全容を把握できるようなまとまった遺物は得られなかったが、遺跡の性格を考える上で重要と判断された特徴的な遺物のみ掲載し、簡単な概略を述べる。図や記述は各グリットの性格を把握しやすいように、遺構やグリットごととした。

竪穴住居跡２（第21図１～３）

15－Ｄ９－アで検出した竪穴住居跡２の埋土下層であるⅣｊ層から比較的まとまって出土している。

１～３は深鉢形のカヤウチバンタ式土器である。試掘調査のため、プランすべてを完掘したわけではないので、その他の土器とのセット関係については不明である。１～３ともに口縁形態や大きさ、胎土・色調等も似る。口縁の肥厚が薄く、長大でやや外反する。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、外面赤茶褐色、内面茶褐色を呈する。器面は指頭による調整痕がわずかに見られる。

竪穴住居跡１（第21図４～17）

15－Ｄ９－アで検出した竪穴住居跡２より切り合い的に新しい竪穴住居跡１の埋土上層であるⅣａ・ｂ層から小片で散在するかたちで出土している。

４～７は深鉢形のカヤウチバンタ式土器である。口縁部が歯ブラシ状を呈し微弱に肥厚する。４は口唇部を平坦に成形したため、口唇部が若干強調されている。大粒の砂粒を多量に含み、内外面は赤茶褐色を呈する。５は微砂粒を僅かに含み、外面は暗橙色、内面は明橙色を呈する。６は口唇部が舌状で、肥厚部は長大である。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、器面がザラザラする。色調は外面が赤茶褐色で、内面は暗褐色を呈する。７は口唇部を平坦に成形したため、口唇部が若干強調されている。微砂粒を多量に含み、内外面は赤茶褐色を呈する。焼成良好で固く締まる。肥厚部外面に指頭圧痕がわずかに見られる。８は形式不明の深鉢形土器である。直口口縁で、口唇部を平坦に成形したため、口唇部が若干強調されている。器壁が薄い。胎土は砂粒を多量に含み、色調は内外面茶褐色を呈する。外面に指頭圧痕、内面にナデ成形痕がみられる。

９・10は型式不明の薄手土器である。器形・胎土・色調が似るため同一個体の可能性がる。口縁部が外反し、口唇部は平坦に仕上げる。体部上方に横位の突帯を１条巡らし、又状工具による刺突連点文を施す。また、突帯と口縁部の間は斜位の沈線文が巡ると思われる。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、色調は内外面赤茶褐色を呈する。11・12は横位の突帯に押捺刻文を巡らす土器の胴部である。11は横位の突帯上部際に押捺刻文を巡らす。胎土は大粒の砂粒を僅かに含み、色調は内外面赤茶褐色を呈する。12は横位の突帯の中心に押捺刻文を巡らす。突帯上下の際はナデ調整を行い、強調している。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、色調は外面赤茶褐色、内面黒褐色を呈する。13は形式不明の注口土器と思われる。管見の及ぶ限り類例を知らない。胎土は微砂粒を多量に含み、色調は明橙色を呈する。胎土・色調は９・10と似る。14・15は底部資料である。平底で底径は小さい。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、色調は赤茶褐色を呈する。胎土・色調から４・６・７のカヤウチバンタ式土器と同一個体の可能性が高い。16は形状不明の石器である。図の左上方のみ制作時の状況を残す。17の石器は磨石と思われる。

８－Ｊ４－ナ グリットⅣ層（第22図18～21）

全てⅣ層から出土しており、図化したもの以外胴部等の破片が多くある。

18～20は宇佐浜式土器である。口縁形態は18が蒲鉾状を呈し、19・20はやや延びた感のある三角形状を呈する。胎土・色調は似ており、微砂粒を多量に含み、内外面は淡橙色を呈する。焼成は良好で締まっている。内外面に指ナデ痕がわずかに見られる。21の石器は敲打器である。図の下端部を大きく欠損するが、平面形は石鹸状を呈するものと思われる。図の上端部に敲打面をもち、側面に一部磨面をもつ。

７－Ｊ９－ノ グリットⅡ層（第22図22～24）

沖縄産陶器や、類須恵器・グスク土器とともに混在してⅡ層から出土したものである。

22は宇佐浜式土器である。口縁断面が明瞭な三角形状を呈する。胎土は微砂粒を多量に含み、色調は淡橙色を呈する。焼成は良好で締まっている。胎土・色調ともに18～20の宇佐浜式土器と似る。23～24はグスク土器である。23は鍋形と思われ、口唇部直下に縦に長い方形の突起（耳）を貼付する。胎土は微砂粒を僅かに含み、色調は内外面淡橙色を呈する。24は壺形と思われ、口唇部は上端にややつまみ上げる。胎土は微砂粒を極めて僅かに含み、色調は明橙色を呈する。内外面に横ナデ成形痕が見られる。

16－Ａ１－ア グリットⅢａ層（第22図25～26）

下層であるⅢｃ層から主体的に出土する貝塚中期土器とともに、Ⅲａ層から出土したものである。

25～26はグスク土器である。25は壺形で、口縁部が直交し口唇部を丸く成形する。頸部際から屈曲し胴部が張る。胎土は特に目立つ混入物は見られず、色調は内外面明橙色を呈する。内外面の口縁部・頸部に指頭圧痕、内面頸部際に横ナデ成形痕が見られる。26は無頸の壺形で、口唇部を平坦に成形する。胎土は特に目立つ混入物は見受けられず、色調は内外面橙色を呈する。内外面にナデ成形痕が見られる。器面は気泡が目立つ。

16－Ｆ２－ア グリットⅠ層（第22図27）

表土であるⅠ層から出土したものである。

27は室川式土器と思われる。口縁部はやや強調され、口唇部は平坦に成形する。口縁直下に横位の連続刺突文を施す。胎土は大粒の砂粒を多量に含み、色調は内外面赤褐色を呈する。焼成が悪く脆い。

第４節　小結

これまで記述してきたように、Ⅱ区では従来想定されていた遺跡の範囲・時期について、かなり具体的に判明させることができた。先述したように、今回の報告では遺構・遺物包含層の集中する範囲を大きく10のブロックに分けて捉えてきた。各ブロックの記述においても若干述べてきたが、周知の遺跡との関係についてまとめておくことにする。

ブロック１は貝塚時代中期の少量の土器を包含する層を確認したが、喜友名前原第三遺跡の範囲に近接している。しかしながら、ここでは主にグスク時代～近世の集落に関する遺跡と試掘調査の成果では確認されているため、詳細な検討が必要と思われる。

ブロック２は、貝塚時代中期（宇佐浜式が中心）とグスク時代の遺物包含層および遺構を確認している地区で、ほぼ周知の伊佐上原遺跡群に含まれる。貝塚時代中期の遺構は掘削していないが７－Ｊ９－ノで竪穴住居跡の可能性が高い方形プランを検出した。グスク時代の遺構は、８－Ｊ１－スで20数基の柱穴群を検出しており、やはり集落跡の可能性が高い。その全ての地点でこれらの層が重複しているわけではないが、16－Ｆ１－アでは無遺物層を挟んで層位的に確認されている。

ブロック３は、ブロック２より約100m南側の地点で、貝塚時代中期（カヤウチバンタ式が中心）の竪穴住居跡を確認した。先のブロック２とは標高では８mほどの差があること、同じ貝塚時代でも微妙な時期差がある。しかし、内容的には伊佐上原遺跡群の地点的な遺跡と考えてもよいと思われる。

ブロック４は、グスク時代の多くの柱穴群を確認しており、おそらく複数基の掘建柱建物跡が見られる集落跡だと思われる。この範囲は、周知の喜友名前原第二遺跡の北側にあたるが、この遺跡に含めるかどうかは今後の調査で検討していく必要がある。また、このブロックについてはさらに間隔を狭めた試掘調査を行っており、詳細は次回の概要で記載する。

ブロック５は、貝塚時代中期（宇佐浜式が中心）の遺物包含層および遺構を確認した。遺構は15－Ｊ７－オで焼土・竪穴住居跡の可能性がある落ち込みを検出している。このような状況は、ブロック２・３とほぼ同様と思われ、時期的にも非常に近いものである。

周知の遺跡としては、喜友名前原第二遺跡の範囲にほぼ含まれ、この想定範囲が妥当であることが確認できたと言える。また、その性格・時期もおおよそ貝塚時代中期の集落跡と言えるであろう。

ブロック６は、時期が確定できない炭や焼土が多く混じる暗褐色系の土層が見られ、何らかの人為的な堆積と考えられる。その性格としては、耕作土と考えたいが、今後の調査により確認する必要がある。周知の遺跡では、喜友名前原第二遺跡が近いが、遺跡名称・範囲を確定するには、やはり詳細な調査が必要である。

ブロック７は、少量ではあるが貝塚中期土器を包含する層が見られる。この層に伴う遺構は今回の調査では検出できなかったが、包含層自体はかなりの範囲に広がっているため、今後の調査により各にする必要があろう。また、注意すべきは、16－Ｉ１－アで通常マージとしている層から獣骨が出土したことである。

このブロックは、喜友名前原第二遺跡と大山岳之佐久原第一遺跡の間に広がっている。内容的には、後述するブロック８・９すなわち大山岳之佐久原第一遺跡に近い内容をもっている。いずれにせよ、遺跡名称・範囲については今後さらに検討していく必要がある。

ブロック８・９は、遺物はほとんどないがグスク時代と思われる堆積層およびピット群と、貝塚時代中期

土器をわずかに出土する包含層が複合して確認された地区である。この内容は、宜野湾市教育委員会が92年度に調査した地点と同様と考えられる。

しかしながら、今回の試掘調査により、ブロック８と９は地形的に低い高まりを挟んで存在していることが明らかになったことから考えると、遺構が集中する範囲は幾つかの地点ごとに分かれていると想定される。そういった状況の中で先述したブロック７もこの遺跡の範疇で捉えるかどうかを検討していく必要がある。

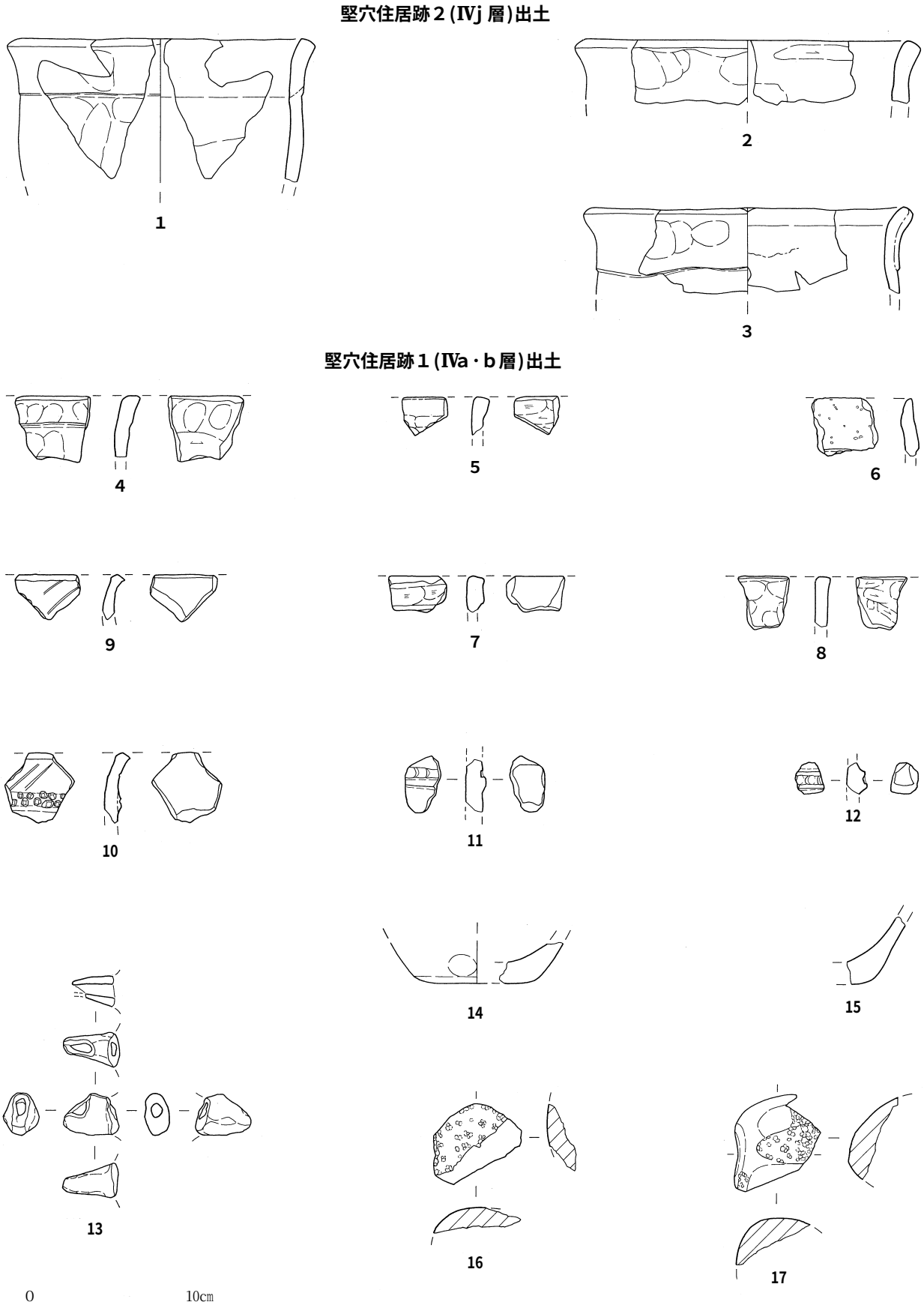
ブロック10は、貝塚時代中期土器を少量含む堆積層が広い範囲で見られる地区である。ここの特徴は、この土器が含まれている層が黄褐色系の土層で、ややグライ化を受けており、人為的な堆積というよりも、自然堆積層と考えられる層だということである。そして、この上層は遺物が含まれないが、やはり湿地的な環境を示す灰オリーブ系の堆積層が見られる。この地点の地形は周囲よりも一段低い谷状の地形であるため、このような堆積状況と考えられる。

この地区で注目すべきことは、出土遺物が小片であったので図示しなかったが、26－Ｂ４－ナでは貝塚後期土器を包含する遺物包含層を検出したことである。この層は黄褐色・灰オリーブ系であること、落ち込むような堆積をしていることから、高いところから流れ込んだものと思われる。しかしながら、貝塚後期土器のみ見られるので、この時期の遺構等も周辺で見つかる可能性もあるだろう。

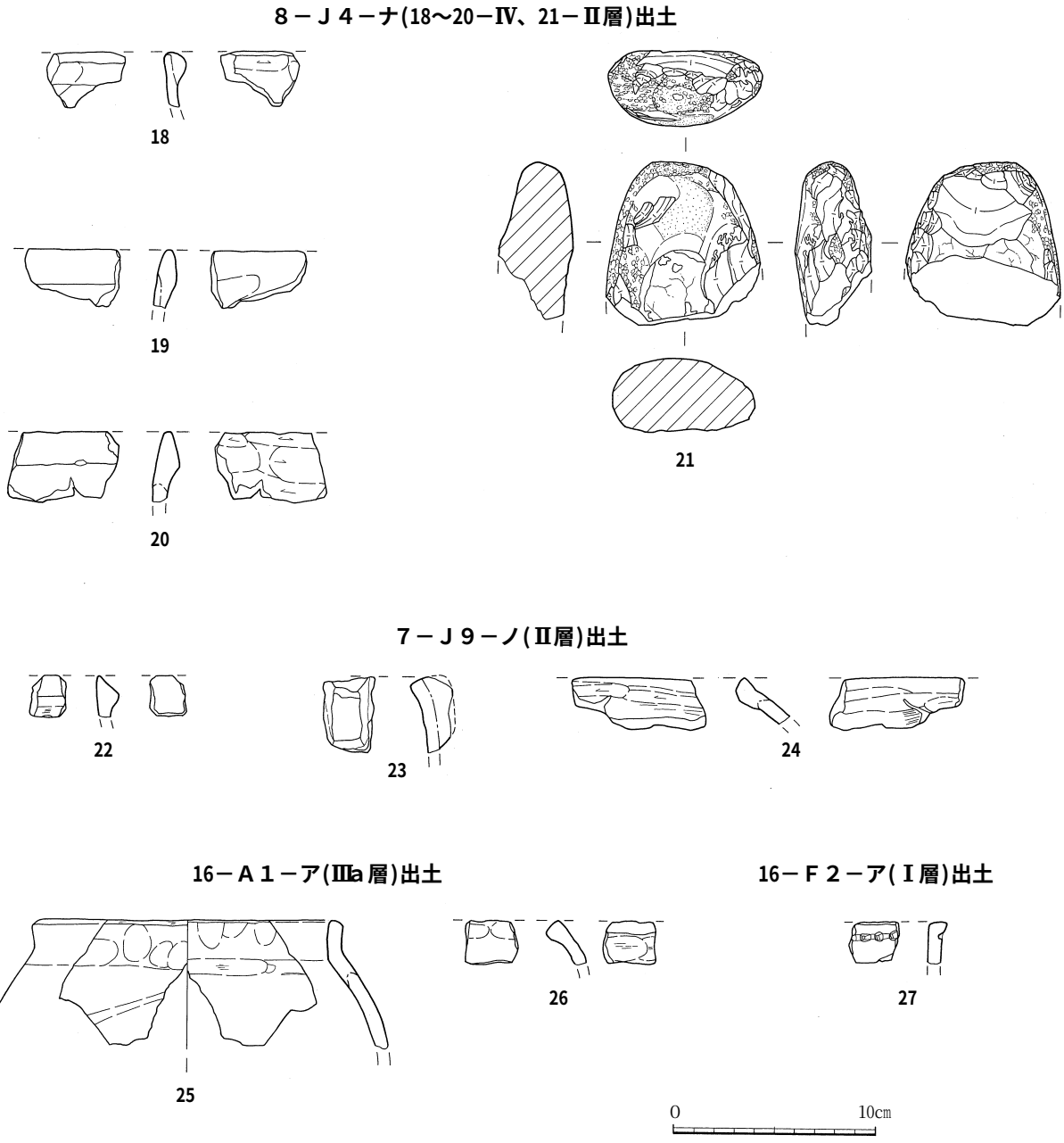
この範囲は、周知の大山宇久保原第二遺跡に含まれるものと思われるが、この範囲の谷状の部分に当たり、集落跡等は現在基地内の建物・グランド等がある平坦面上に存在するのであろう。

周知の大山ウフォーアブ遺物散布地に当たる27－Ｇ１－アでは、表土から貝塚後期土器が出土した。この範囲もより詳細な調査を行う必要があろう。

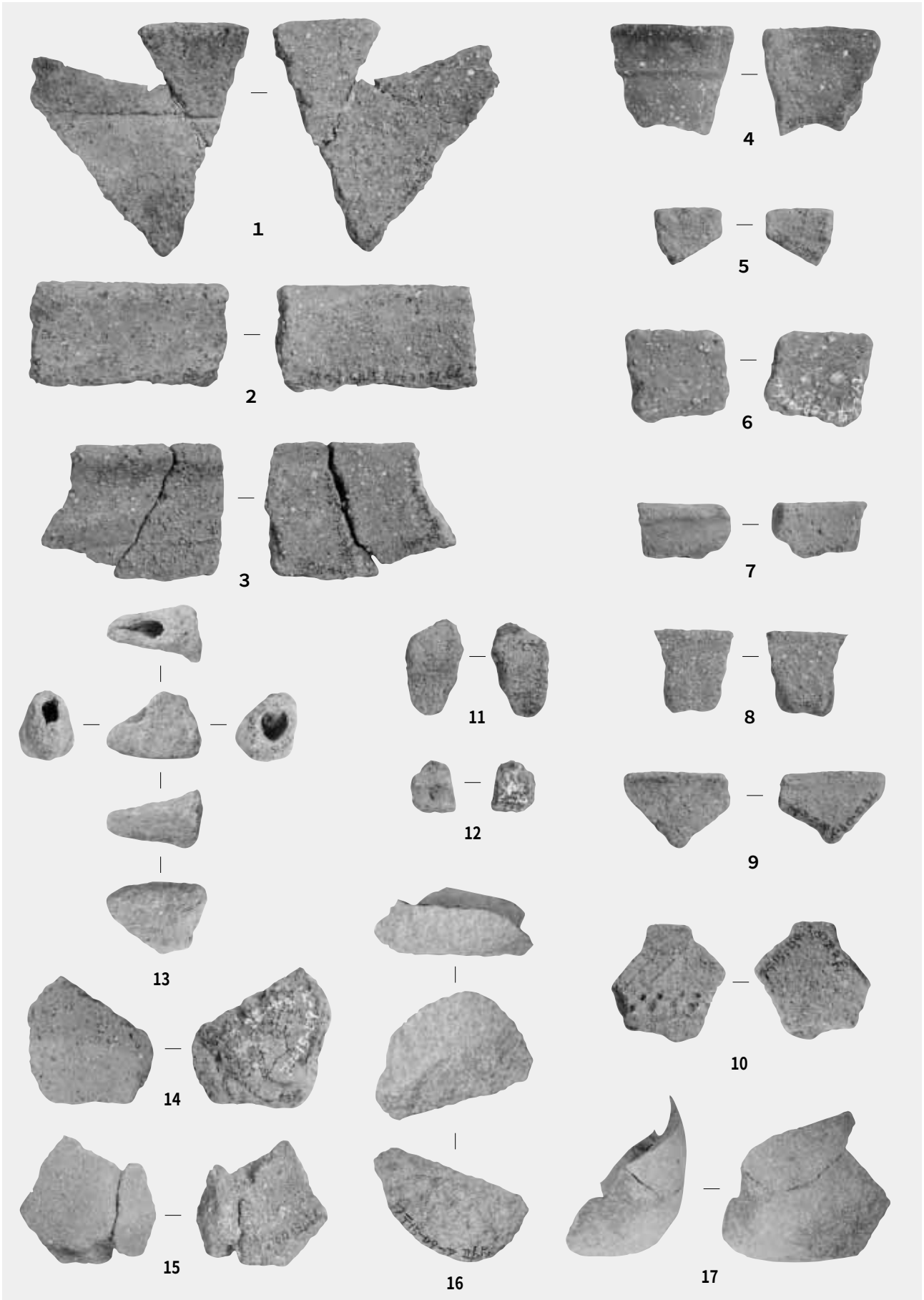
以上のように、このⅡ区では貝塚時代中期およびグスク時代の集落跡が、良好に残されていることが少しずつ判明してきたと言えよう。



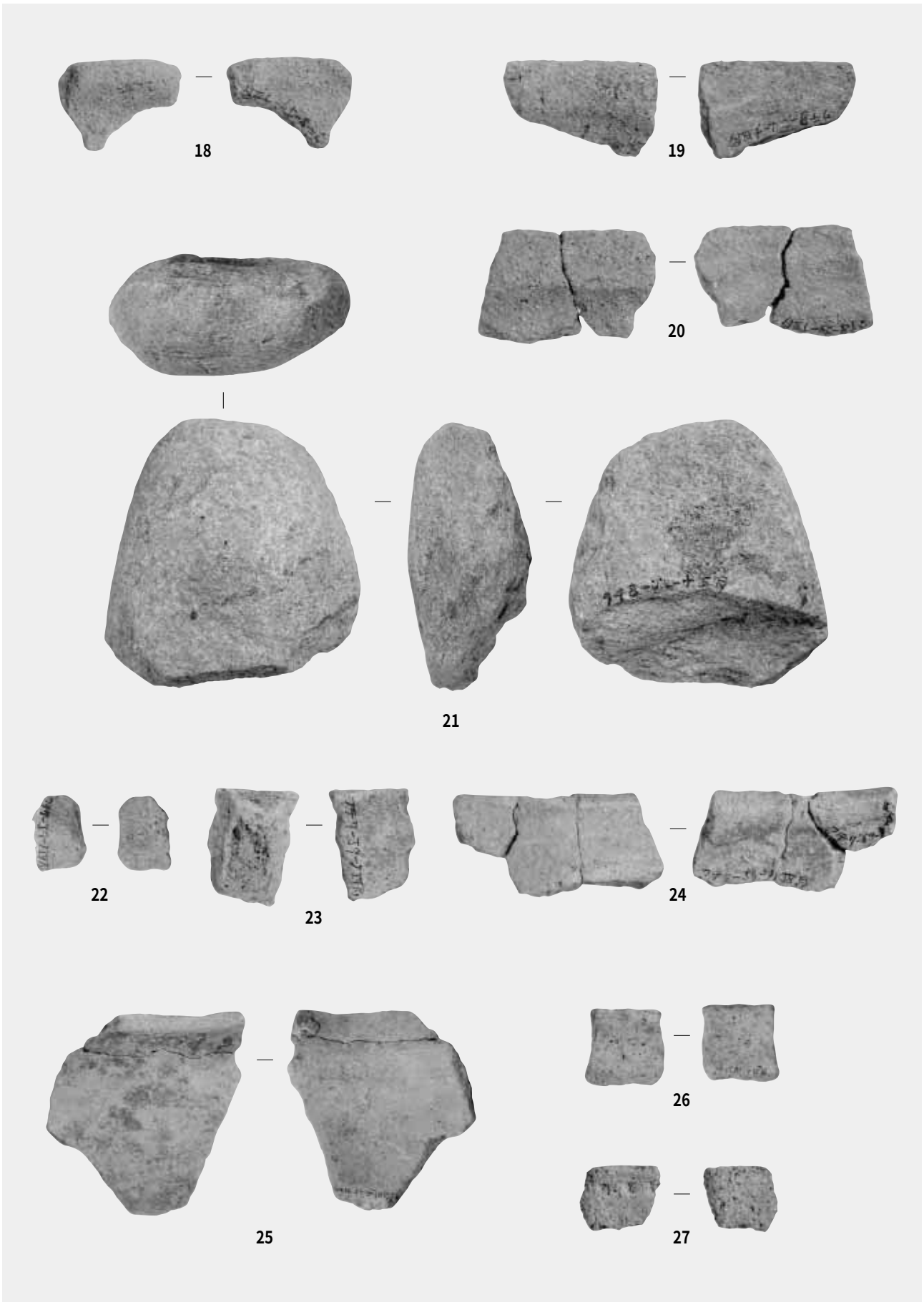
第21図　竪穴住居跡１・２（土器１～15、石器16･17）



第22図　８－Ｊ４－ナ・７－Ｊ９－１・16－Ａ１－ア・16－Ｆ２－ア（土器18～20・22～27、石器21）



図版 1　土器・石器 1



図版２　土器・石器２

第１表ａ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
62－B5－キ	29464	26074	86.170	Ⅰ層(0.8～)	-2.7	
	29464	26070		Ⅱ層(0.1)黄		
	29460	26070		Ⅴ層(2.0)マージ		
	29460	26074				
62－B5－セ	29458	26062	86.110	Ⅰ層(1.3)	-2.6～2.8	
	29458	26058		Ⅱ層(0.1～0.2)黄		
	29454	26058		Ⅴ層(1.2～1.4)マージ		
	29454	26062				
62－C5－ウ	29440	26068	86.180	Ⅰ層(0.7～1.1)	-1.6	
	29440	26064		Ⅱ層(0.4～0.9)黄		
	29436	26064		Ⅴ層(0.2～0.3)マージ		
	29436	26068				
62－C6－ア	29440	26050	85.640	Ⅰ層(1.7～2.0)	-3.0	Ⅰ層ではあるが、青磁・染付等比較的多く出土。
	29440	26046		Ⅱ層(0.8～1.1)黄		
	29436	26046		Ⅴ層(0.1)マージ		
	29436	26050				
62－C8－テ	29422	25972	83.100	Ⅰ層(1.1～1.3)	-1.2～2.9	
	29422	25968		Ⅱ層(0.1～1.6)黄		
	29418	25968				
	29418	25972				
62－C9－ト	29422	25936	82.260	Ⅰ層(0.9)	-1.2～1.4	
	29422	25932		Ⅱ層(0.6)黄		
	29418	25932				
	29418	25936				
62－C10－シ	29428	25924	82.100	Ⅰ層(0.4～2.0)	-2.4～3.0	
	29428	25920		Ⅴ層(1.0～2.6)マージ		
	29424	25920				
	29424	25924				
62－C10－テ	29422	25912	82.330	Ⅰ層(0.7～1.0)	-1.0	
	29422	25908				
	29418	25908				
	29418	25912				
62－D7－キ	29404	26014	84.810	Ⅰ層(0.2)	-0.5～1.0	
	29404	26010		Ⅴ層(0.3～0.8)マージ		
	29400	26010				
	29400	26014				
62－D8－イ	29410	25984	84.010	Ⅰ層(1.1～1.3)	検出せず	Ⅲ層より青磁出土
	29410	25980		Ⅱ層(0.2～0.5)黄		
	29406	25980		Ⅲ層(0.3～0.5)黄		
	29406	25984		Ⅴ層(0.3～)マージ		
62－D8－ケ	29404	25972	83.690	Ⅰ層(2.0～2.2)　Ⅲc層(0.1～0.5)灰	-3.2～4.7	
	29404	25968		Ⅱ層(1.2)黄　Ⅴa層(0.1～0.8)グライ		
	29400	25968		Ⅲa層(0.1)灰　Ⅴｂ層(0.3～0.5)マージ		
	29400	25972		Ⅲb層(0.1～0.5)黄		
62－D9－イ	29410	25954	83.200	Ⅰ層(2.4～2.6)　Ⅴb層(0.5～)マージ	検出せず	
	29410	25950		Ⅱ層(1.0～1.2)灰		
	29406	25950		Ⅲ層(0.6)灰		
	29406	25954		Ⅴa層(0.4～0.5)グライ		

第１表ｂ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
62－D10－ｷ	29404	25924	82.430	Ⅰ層(0.7～1.7)	-0.7～1.7	
	29404	25920				
	29400	25920				
	29400	25924				
62－D10－ﾀ	29392	25930	83.020	Ⅰ層(0.4～0.7)	-0.8～1.0	
	29392	25926		Ⅴ層(0.3～0.5)マージ		
	29388	25926				
	29388	25930				
62－E8－ｸ	29374	25978	86.150	Ⅰ層(1.2～1.5)	-1.9	
	29374	25974		Ⅱ層(0.1)灰		
	29370	25974		Ⅴ層(0.9～)マージ		
	29370	25978				
62－E9－ｴ	29380	25942	83.070	Ⅰ層(2.3)　Ⅴ層(0.4～)マージ	検出せず	
	29380	25938		Ⅱ層(0.5)灰		
	29376	25938		Ⅲa層(0.5)黄		
	29376	25942		Ⅲb層(0.3～0.7)灰		
62－E10－ｻ	29368	25930	82.160	Ⅰ層(1.7～1.8)　Ⅲb層(0.2～0.6)灰	-2.8～3.7	Ⅲｂ層下面でピット？検出
	29368	25926		Ⅱa層(0.2～0.4)灰　Ⅴa層(0.1～0.3)グライ		
	29364	25926		Ⅱb層(0.1～0.5)黄　Ⅴb層(0.1～0.6)マージ		
	29364	25930		Ⅲa層(0.1～0.7)黄		
62－F9－ｸ	29344	25948	85.890	Ⅰ層(0.1～0.8)	-3.0	
	29344	25944		Ⅴ層(2.0～2.7)マージ		
	29340	25944				
	29340	25948				
62－F9－ﾄ	29332	25936	86.300	Ⅰ層(0.4)	-3.8	
	29332	25932		Ⅱ層(0.5)黄		
	29328	25932		Ⅴ層(2.8)マージ		
	29328	25963				
62-F10-ｽ	29338	25918	83.320	Ⅰ層(1.0)　Ⅲc層(0.7)暗	-1.9～3.9	Ⅲａ層から染付(18世紀)出土。 花粉分析・プラントオパール実施。
	29338	25914		Ⅱ層(0.5～0.7)黄　Ⅴ層(0.9)マージ		
	29334	25914		Ⅲa層(0.1～0.3)黄		
	29334	25918		Ⅲb層(0.1～0.3)暗		
62－G9－ｴ	29320	25942	86.500	Ⅰ層(0.5～0.6)	-0.6～1.3	
	29320	25938		Ⅴ層(0.1～0.7)マージ		
	29316	25938				
	29316	25942				
62－G9－ﾉ	29296	25936	83.410	Ⅰ層(0.2～0.3)　Ⅴ層(2.0～)クチャ	＜クチャを-1.8mで検出＞	
	29296	25932		Ⅱa層(0.5)黄		
	29292	25932		Ⅱb層(0.4)灰		
	29292	25936		Ⅱc層(0.3～0.6)黄		
62－G10－ｳ	29320	25918	83.160	Ⅰ層(0.4)　Ⅴ層(2.0～)クチャ	＜クチャを-2.8～3.8mで検出＞	花粉分析・プラントオパール実施。
	29320	25914		Ⅱ層(1.3)灰		
	29316	25914		Ⅲa層(0.1～0.2)黄		
	29316	25918		Ⅲb層(0.4～1.6)暗		
62－G10－ｻ	29308	25930	83.700	Ⅰ層(0.9)	＜クチャを-2.1mで検出＞	
	29308	25926		Ⅱa層(0.8)灰		
	29304	25926		Ⅱb層(0.4～)黄		
	29304	25930		Ⅴ層(2.1.～)クチャ		

第１表ｃ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
62－H9－ｱ	29290	25960	84.190	Ⅰ層(0.4～0.5) Ⅱ層(1.1～1.3)灰 Ⅴ層(2.3～)クチャ	＜クチャを-1.8mで検出＞	
	29290	25956				
	29286	25956				
	29286	25960				
63－Ｆ3－ﾆ	29326	25834	85.040	Ⅰ層(0.6～0.9) Ⅴ層(1.2～)マージ	-1.4	
	29326	25830				
	29322	25830				
	29322	25834				
63－G1－ｹ	29314	25882	86.870	Ⅰ層(3.0) Ⅴ層(2.0～)マージ	検出せず	
	29314	25878				
	29310	25878				
	29310	25882				
63－G2－ｳ	29320	25858	86.330	Ⅰ層(0.1～0.3) Ⅴ層(0.8～0.9)マージ	-1.1	
	29320	25854				
	29316	25854				
	29316	25858				
63－H10－ｾ	29278	25612	83.290	Ⅰ層(0.5～0.9) Ⅱ層(0.1～0.4)灰 Ⅴ層(0.5～10)マージ	-1.4～2.0	Ⅱ層よりセメントブロック検出。戦前の建物の基礎か。溝状の落ち込みもあり。
	29278	25608				
	29274	25608				
	29274	25612				
63－I2ｰｾ	29248	25852	87.150	Ⅰ層(1.2～1.6) Ⅱ層(0.1)暗	-1.2～1.6	Ⅱ層は焼土層。
	29248	25848				
	29244	25848				
	29244	25852				
63－Ｉ3－ｶ	29254	25840	85.720	Ⅰ層(1.3～1.5)	-1.3～1.5	
	29254	25836				
	29250	25836				
	29250	25840				
63－Ｉ6－ｱ	29260	25750	87.880	Ⅰ層(2.4) Ⅴ層(1.8～)マージ	-3.7	
	29260	25746				
	29256	25746				
	29256	25750				
63－J5－ｱ	29230	25780	88.520	Ⅰ層(1.8～2.1) Ⅱ層(0.4～)暗 Ⅴ層(1.8～)マージ	-4.0	Ⅰ層下面はコーラル敷き。道路跡？
	29230	25776				
	29226	25776				
	29226	25780				
64－Ｊ3－ｲ	29230	25534	82.280	Ⅰ層(0.5) Ⅱ層(0.4)黄 Ⅴ層(1.8～)マージ	-2.7	
	29230	25530				
	29226	25530				
	29226	25534				
70－A9－ﾅ	29176	25660	87.100	Ⅰ層(1.5) Ⅴ層(0.6～1.0)マージ	-2.1～2.5	
	29176	25656				
	29172	25656				
	29172	25660				
70－B5－ﾅ	29146	25780	88.140	Ⅰ層(2.0～) Ⅱ層(0.6～)灰 Ⅴ層(1.6～)マージ	-3.6	Ⅰ層下面には炭層あり。
	29146	25776				
	29142	25776				
	29142	25780				

第１表ｄ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
70－C4－ヌ	29116	25798	88.160	Ⅰ層(1.4)	-1.4	
	29116	25794		Ⅱ層(0.8～)黄		
	29112	25794		Ⅲ層(0.6)暗		
	29112	25798		Ⅴ層(1.9～)マージ		
70－C5－ナ	29116	25780	88.160	Ⅰ層(0.6～0.7)　Ⅴc層(0.9～)マージ	-1.5	
	29116	25776		Ⅱ層(0.2～0.4)黄		
	29112	25776		Ⅴa層(0.1～0.4)マージ		
	29112	25780		Ⅴb層(0.1)グライ		
70－C5－ノ	29116	25756	88.060	Ⅰ層(0.2～0.5)	-0.9	
	29116	25752		Ⅱ層(0.4～0.7)黄		
	29112	25752				
	29112	25756				
70－C6－カ	29134	25750	87.930	Ⅰ層(1.4～1.8)	検出せず	
	29134	25746		Ⅱ層(0.3～)灰		
	29130	25746		Ⅴ層(2.0～)グライ		
	29130	25750				
70－D5－タ	29092	25780	88.140	Ⅰ層(0.2)	-1.0～1.7	
	29092	25776		Ⅱ層(0.3～0.4)黄		
	29088	25776		Ⅴ層(0.5～1.0)マージ		
	29088	25780				
70－E7－ケ	29074	25702	88.090	Ⅰ層(0.3～0.6)	-1.8～2.0	
	29074	25968		Ⅱ層(0.3～0.7)黄		
	29070	25968		Ⅴ層(0.8～1.1)マージ		
	29070	25702				
70－F6－ト	29032	25726	88.700	Ⅰ層(0.3)　Ⅴ層(1.7～)マージ	検出せず	Ⅴ層上面でピット検出
	29032	25722		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	29028	25722		Ⅲa層(0.4～1.7)黄		
	29028	25726		Ⅲb層(0.3～1.4)灰		
70－F7－ア	29050	25720	88.390	Ⅰ層(0.5～0.8)　Ⅴ層(2.0～)マージ	検出せず	Ⅲｂ層は湿地であったように、水分が多い。
	29050	25716		Ⅱ層(0.4～0.5)黄		
	29046	25716		Ⅲa層(0.2～0.3)暗		
	29046	25720		Ⅲb層(0.4)灰		
71－B5－ウ	29170	25468	83.400	Ⅰ層(0.2～0.5)	-1.7	
	29170	25464		Ⅴ層(1.5)マージ		
	29166	25464				
	29166	25468				
71－B6－サ	29158	25450	83.440	Ⅰ層(1.2～1.4)　Ⅴ層(0.4～)マージ	検出せず	Ⅲｂ層が溝状に落ち込む部分あり。花粉・プラントオパール。
	29158	25446		Ⅲa層(0.5)黄		
	29154	25446		Ⅲb層(0.1～0.3)暗		
	29154	25450		Ⅲc層(0.1～0.6)黄		
71－B6－セ	29158	25432	82.850	Ⅰ層(0.9～1.0)	-1.0～1.6	
	29158	25428		Ⅴ層(0.1～0.7)マージ		
	29154	25428				
	29154	25432				
71－B7－ニ	29146	25414	82.730	Ⅰ層(0.2～0.3)	-2.3	
	29146	25410		Ⅴ層(2.0)マージ		
	29142	25410				
	29142	25414				

第１表ｅ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
71－C5－ｲ	29140	25474	85.150	Ⅰ層(0.8～1.2)	-2.6	Ⅰ層下面はコーラル敷き。道路跡？
	29140	25470		Ⅴ層(1.8)マージ		
	29136	25470				
	29136	25474				
71－C8－ｻ	29128	25390	82.560	Ⅰ層(1.8)	-0.2～1.0	
	29128	25386				
	29124	25386				
	29124	25390				
71－D2－ｿ	29098	25546	87.580	Ⅰ層(0.5～0.7)	-0.8～1.0	Ⅰ層下面はコーラル敷き。道路跡？
	29098	25542		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	29094	25542		Ⅴ層(0.1～0.2)マージ		
	29094	25546				
71－D3－ｱ	29110	25540	87.580	Ⅰ層(0.5～0.6)	-0.8～1.8	Ⅰ層下面はコーラル敷き。道路跡？
	29110	25536		Ⅱ層(0.2～0.3)黄		
	29106	25536		Ⅴ層(0.1～1.0)マージ		
	29106	25540				
71－D4－ｽ	29098	25498	86.740	Ⅰ層(0.6～0.8)	-2.2～3.2	
	29098	25494		Ⅱ層(0.5～0.7)黄		
	29094	25494		Ⅴ層(1.0～1.5)マージ		
	29094	25498				
71－D9－ｱ	29110	25360	82.320	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.3	
	29110	25356				
	29106	25356				
	29106	25360				
71－D9－ｾ	29098	25342	81.880	Ⅰ層(0.2～0.6)	-0.1～1.4	
	29098	25338		Ⅴ層(0.3～0.8)マージ		
	29094	25338				
	29094	25342				
71－E3－ｳ	29080	25528	87.620	Ⅰ層(0.6～1.1)	-1.7～2.1	Ⅱ層が溝状に落ち込む部分あり。Ⅱ層から沖縄産無釉陶器出土。花粉・プラントオパール実施。
	29080	25524		Ⅱ層(0.1～0.9)黄		
	29076	25524		Ⅴ層(0.7～1.2)マージ		
	29076	25528				
71－E4－ｱ	29080	25510	87.310	Ⅰ層(0.7～1.1)	-2.4	
	29080	25506		Ⅱ層(0.5～0.8)黄		
	29076	25506		Ⅴ層(1.2～)マージ		
	29076	25510				
71－F4－ｴ	29050	25492	86.740	Ⅰ層(0.2～0.3)	-1.5～2.0	
	29050	25488		Ⅴ層(1.2～0.8)マージ		
	29046	25488				
	29046	25492				
71－F5－ｷ	29044	25474	85.930	Ⅰ層(0.1～0.2)	-1.6～1.8	
	29044	25470		Ⅴ層(2.0～)マージ		
	29040	25470				
	29040	25474				
71－G6－ｲ	29020	25444	86.740	Ⅰ層(0.6～1.0)	-1.6～2.2	
	29020	25440		Ⅱa層(0.1～0.2)黄		
	29016	25440		Ⅱb層(0.1～0.4)灰		
	29016	25444		Ⅴ層(1.2～)マージ		

第１表ｆ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
71－G6-ソ	29008	25426	86.100	Ⅰ層(1.1～1.2)	検出せず	Ⅱ層下面には酸化鉄斑が見られ、水田耕土の可能性が高い。Ⅱ層から沖縄産陶器出土
	29008	25422		Ⅱ層(0.3～0.4)灰		
	29004	25422		Ⅴ層(0.8～)マージ		
	29004	25426				
71－H2－ッ	28972	25558	88.390	Ⅰ層(2.0～)	検出せず	
	28972	25554				
	28968	25554				
	28968	25558				
71－H8－ア	28990	25390	86.470	Ⅰ層(1.5～2.0)　Ⅲb層(0.4～0.7)暗	検出せず	
	28990	25386		Ⅱa層(0.1～0.2)黄　Ⅲc層(0.2～0.6)黄		
	28986	25386		Ⅱb層(0.2～0.3)灰　Ⅴ層(0.6～)マージ		
	28986	25390		Ⅲa層(0.4～0.9)黄		
71－Ｉ3－ッ	28942	25528	87.930	Ⅰ層(3.2～)	検出せず	
	28942	25524				
	28938	25524				
	28938	25528				
71－Ｉ4－カ	28954	25510	87.550	Ⅰ層(1.2～1.3)　Ⅴa層(0.1～0.7)マージ	検出せず	
	28954	25506		Ⅱ層(0.3～0.6)黄　Ⅴb層(0.1～0.7)グライ		
	28950	25506		Ⅲa層(0.1～0.3)暗		
	28950	25510		Ⅲb層(0.1～0.4)灰		
71－Ｉ4－コ	28954	25486	87.580	Ⅰ層(1.9～2.1)	検出せず	
	28954	25482		Ⅴ層(1.8～)クチャ		
	28950	25482				
	28950	25486				
71－Ｊ4－エ	28930	25492	87.660	Ⅰ層(1.4～2.0)	-1.4～2.0	
	28930	25488				
	28926	25488				
	28926	25492				
71－Ｊ4－ナ	28906	25510	87.940	Ⅰ層(0.5～0.8)	-0.8～1.3	
	28906	25506		Ⅴ層(0.3～0.5)マージ		
	28902	25506				
	28902	25510				
71－Ｊ5－オ	28930	25456	87.090	Ⅰ層(2.4)	検出せず	
	28930	25452		Ⅴ層(1.6～)クチャ		
	28926	25452				
	28926	25456				
71－Ｊ6－セ	28918	25432	86.830	Ⅰ層(3.2)	検出せず	
	28918	25428		Ⅴ層(0.8～)マージ		
	28914	25428				
	28914	25432				
72－Ｆ2－テ	29032	25252	80.870	Ⅰ層(1.9～)　Ⅴ層(0.4～0.7)マージ	-4.0～4.5	花粉・プラントオパール実施。
	29032	25248		Ⅱ層(1.0～)黄		
	29028	25248		Ⅲa層(0.4)灰		
	29028	25252		Ⅲb層(0.6～0.7)暗		
72－G3－サ	29008	25240	80.230	Ⅰ層(1.4～1.8)	-3.2～3.3	
	29004	25236		Ⅲa層(0.6～0.9)灰		
	29004	25236		Ⅲb層(0.6)暗		
	29008	25240		Ⅴ層(0.2～0.4)マージ		

第１表ｇ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
72－H3－ｱ	28990	25240	80.490	Ⅰ層(0.5～0.9)	-1.0～1.3	Ⅲ層より染付(18世紀)出土
	28990	25236		Ⅱ層(0.3～0.7)黄		
	28986	25236		Ⅲ層(0.4～)黄		
	28986	25240				
72－H4－ｱ	28990	25210	80.360	Ⅰ層(0.5～0.7)	-0.9～1.4	
	28990	25206		Ⅴ層(0.4～0.7)マージ		
	28986	20206				
	28986	25210				
72－H4－ﾉ	28966	25186	80.250	Ⅰ層(1.3～1.4)	-1.3～1.4	
	28966	25182				
	28962	25182				
	28962	25186				
72－Ⅰ3－ｳ	28960	25228	80.400	Ⅰ層(1.0～1.2)	-1.0～1.2	
	28960	25224				
	28956	25224				
	28956	25228				
72－Ⅰ4－ｱ	28960	25210	79.930	Ⅰ層(0.1～1.2)	-0.1～1.2	
	28960	25206				
	28956	25206				
	28956	25210				
72－Ⅰ4－ﾆ	28936	25204	80.300		検出せず	
	28936	25200				
	28932	25200				
	28932	25204				
72－J2－ｲ	28930	25264	82.080	Ⅰ層(0.2)	-0.7～1.8	
	28930	25260		Ⅴ層(0.6～1.6)マージ		
	28926	25260				
	28926	25264				
72－J3－ｷ	28924	25234	81.120	Ⅰ層(0.6～0.8)	-3.3～3.7	
	28924	25230		Ⅴ層(2.6～2.7)マージ		
	28920	25230				
	28920	25234				
72－J7－ｺ	28924	25096	78.540	Ⅰ層(3.1～)	検出せず	
	28924	25092				
	28920	25092				
	28920	25096				
73－J1－ｽ	28918	25060	77.300	Ⅰ層(1.6～1.7)	-1.6～1.7	
	28918	25056				
	28914	25056				
	28914	25060				
73－J2－ｻ	28918	24970	75.880	Ⅰ層(1.6)	-1.6	
	28918	24966				
	28914	24966				
	28914	24970				
73－J3－ｶ	28924	24940	75.370	Ⅰ層(2.3～2.5)	-2.3～2.5	
	28924	24936				
	28920	24936				
	28920	24940				

第１表ｈ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
76－D9－ｴ	28810	25342	86.150	Ⅰ層(1.1～1.6)	-1.2～1.9	
	28810	25338		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	28806	25338				
	28806	25342				
77－A1－ｽ	28888	25288	84.050	Ⅰ層(2.1～)	検出せず	
	28888	25284				
	28884	25284				
	28884	25288				
77－A2－ｱ	28900	25270	82.500	Ⅰ層(0.3～0.6)	-2.1～2.2	
	28900	25266		Ⅱ層(1.0～1.3)黄		
	28896	25266		Ⅴ層(0.4～0.6)マージ		
	28896	25270				
77－A3－ｱ	28900	25240	82.330	Ⅰ層(0.6～1.5)	-2.8	
	28900	25236		Ⅱ層(0.1)黄		
	28896	25236		Ⅴ層(2.1～)マージ		
	28896	25240				
77－A7－ｲ	28900	25114	78.990	Ⅰ層(2.4～3.0)	-2.4～3.0	
	28900	25110				
	28896	25110				
	28896	25114				
77－A8－ｷ	28894	25084	77.450	Ⅰ層(1.2～1.4)	-3.2	
	28894	25080		Ⅱ層(0.9～1.1)黄		
	28890	25080		Ⅲ層(0.8～1.0)暗		
	28890	25084		Ⅴ層(0.5～)マージ		
77－A8－ｾ	28888	25072	77.700	Ⅰ層(1.3)	-3.3～3.4	
	28888	25068		Ⅱ層(0.4)黄		
	28884	25068		Ⅲ層(0.4～0.6)暗		
	28884	25072		Ⅴ層(0.8～1.2)マージ		
77－A9－ｱ	28900	25060	77.440	Ⅰ層(0.9～1.1)	検出せず	
	28900	25056		Ⅴ層(2.0～)マージ		
	28896	25056				
	28896	25060				
77－A10－ｱ	28900	25030	77.390	Ⅰ層(1.7～1.8)	-1.7～1.8	
	28900	25026				
	28896	25026				
	28896	25030				
77－B1－ﾄ	28852	25276	82.280	Ⅰ層(0.7～0.8)	-1.2	
	28852	25272		Ⅴ層(1.1～)マージ		
	28848	25272				
	28848	25276				
77－B2－ｷ	28864	25264	81.560	Ⅰ層(0.6～0.9)	-1.1～1.3	
	28864	25260		Ⅴ層(0.2～0.6)マージ		
	28860	25260				
	28860	25264				
77－B7－ｱ	28870	25120	78.160	Ⅰ層(0.8～1.0)	-1.5	
	28870	25116		Ⅱ層(0.2)黄		
	28866	25116		Ⅴ層(0.5)マージ		
	28866	25120				

第１表ｉ　基地内試掘データ（Ｉ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
77－B9－ﾉ	28846	25036	77.190	Ⅰ層(0.7～0.9)	-1.2～1.9	
	28846	25032		Ⅴ層(0.3～1.2)マージ		
	28842	25032				
	28842	25036				
77－B10－ｶ	28864	25030	78.230	Ⅰ層(0.4～0.7)	-1.6～1.7	
	28864	25026		Ⅱ層(0.1)黄		
	28860	25026		Ⅴ層(1.0～1.4)マージ		
	28860	25030				
77－C9－ｱ	28840	25060	77.810	Ⅰ層(0.7～0.8)	-0.7～0.8	
	28840	25056				
	28836	25056				
	28836	25060				
78－A1－ｳ	28900	24988	76.400	Ⅰ層(1.3～1.7)	-1.3～1.7	
	28900	24984				
	28896	24984				
	28896	24988				
78－A2－ｱ	28900	24970	76.180	Ⅰ層(1.5～1.6)	-1.5～1.6	
	28900	24966				
	28896	24966				
	28896	24970				
78－A3－ｱ	28900	24940	75.780	Ⅰ層(0.2～0.4)	-0.2～0.4	
	28900	24936				
	28896	24936				
	28896	24940				
78－B1－ｳ	28870	24988	76.640	Ⅰ層(1.8～2.0)	検出せず	
	28870	24984		Ⅱ層(0.5～)黄		
	28866	24984		Ⅲ層(0.5)暗		
	28866	24988		Ⅴ層(0.2～)マージ		

第２表ａ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
7－Ｊ9－ﾉ	31006	25936	62.329	Ⅰ層(0.1)	検出せず	Ⅱ層から沖縄産陶器に混じり、類須恵器・青磁・グスク土器出土。Ⅳ層から貝塚中期土器出土。Ⅳ層は、約２ｍの方形遺構の可能性(竪穴住居跡か？)。
	31006	25932		Ⅱ層(0.1)暗		
	31002	25932		Ⅳ層(0.1～)暗		
	31002	25936		Ⅴ層(0.1)マージ		
8－Ｊ1－ｽ	31018	25888	60.321	Ⅰ層(0.05～0.3)　Ⅴ層(確認まだ)マージ	検出せず	Ⅲｂ層のピットからはグスク？土器出土。周辺のグリッドからグスク期の遺物が出土しているので、グスク期の柱穴群と思われる。
	31018	25884		Ⅱ層(0.2)暗		
	31014	25884		Ⅲa層(0.2)黄		
	31014	25888		Ⅲｂ層(ピット埋土)暗		
8－Ｊ2－ｲ	31030	25864	58.163	Ⅰ層(0.2～0.4)　Ⅳb層(0.1～0.3)暗	-1.2	Ⅰ層から沖縄産陶器に混じり石材・グスクおよび貝塚中期土器出土。Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	31030	25860		Ⅱ層(0.1～0.2)黄　Ⅴ層(0.05～0.1)マージ		
	31026	25860		Ⅲ層(0.05～0.1)黄		
	31026	25864		Ⅳa層(0.05～0.1)黄		
8－Ｊ2－ﾉ	31002	25842	60.181	Ⅰ層(0.1)	-1.0～1.1	
	31002	25840		Ⅱ層(0.1)黄		
	31000	25840		Ⅴ層(0.4)マージ		
	31000	25842				
8－Ｊ3－ｱ	31030	25840	57.593	Ⅰ層(0.3～0.5)	-0.9～1.4	Ⅰ層から石材出土。
	31030	25836		Ⅱ層(0.2～0.5)黄		
	31026	25836		Ⅴ層(0.1～0.9)マージ		
	31026	25840				
8－Ｊ4－ﾅ	31006	25810	60.470	Ⅰ層(0.1)	-0.2～0.6	Ⅳ層からグスク土器・石器出土。
	31006	25806		Ⅱ層(0.1～0.2)黄		
	31002	25806		Ⅳ層(0.1～0.4)暗		
	31002	25810		Ⅴ層(0.1～0.2)マージ		
14－Ｂ4－ｶ	30964	26410	65.824	Ⅰ層(0.1～0.4)	-0.1～0.4	
	30964	26406				
	30960	26406				
	30960	26410				
14－Ｂ4－ﾄ	30950	26382	64.645	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.8～1.2	
	30950	26378		Ⅴ層(0.6～1.0)マージ		
	30946	26378				
	30946	26382				
14－Ｂ5－ｱ	30968	26380	65.065	Ⅰ層(0.05～0.2)	-0.1～0.4	
	30968	26376		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30964	26376				
	30964	26380				
14－Ｂ6－ｶ	30960.323	26350	63.789	Ⅰ層(0.2～0.3)	-0.4～0.8	
	30960.323	26346		Ⅴ層(0.1～0.6)マージ		
	30956.323	26346				
	30956.323	26350				
14－Ｂ7－ﾀ	30952.323	26320	63.776	Ⅰ層(0.3～0.5)	-1.0～1.1	
	30952	26316		Ⅴ層(0.5～0.6)マージ		
	30948	26316				
	30948	26320				
14－Ｂ7－ﾉ	30946	26296	64.316	Ⅰ層(0.1～0.5)	-1.4～1.9	
	30946	26292		Ⅴ層(1.3～1.6)マージ		
	30942	26292				
	30942	26296				

第２表ｂ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
14－C6－ｶ	30934	26350	64.055	Ⅰ層(0.2)	-1.7～1.9	
	30934	26346		Ⅴa層(0.3～0.4)黒マージ		
	30930	26346		Ⅴb層(1.1～1.3)マージ		
	30930	26350				
14－C6－ｺ	30934	26326	63.948	Ⅰ層(0.3)	-2.4～2.6	Ⅰ層から土器出土。
	30934	26322		Ⅴ層(2.2～)マージ		
	30930	26322				
	30930	26326				
14－C7－ﾅ	30916	26320	64.202	Ⅰ層(0.2～0.4)	-1.0～2.1	Ⅳ層から石材・貝塚中期土器出土。
	30916	26316		Ⅱ層(0.2～0.5)黄		
	30912	26316		Ⅳ層(0.2～0.5)黄		
	30912	26320		Ⅴ層(0.1～1.7)マージ		
14－C8－ｾ	30923.373	26268.039	64.616	Ⅰ層(0.4)	-1.1～1.9	
	30923.373	26264.039		Ⅴ層(0.4～1.5)マージ		
	30919.373	26264.039				
	30919.373	26268.039				
14－C8－ﾀ	30922	26290	64.436	Ⅰ層(0.2～0.5)	-1.1～1.4	
	30922	26286		Ⅴ層(1.0)マージ		
	30918	26286				
	30918	26290				
14－C9－ｶ	30934	26260	64.977	Ⅰ層(0.3)	-0.3～0.7	
	30934	26256		Ⅴ層(0.4)マージ		
	30930	26256				
	30930	26260				
14－C10－ｻ	30928	26230	65.114	Ⅰ層(0.2)	-1.2～2.1	
	30928	26226		Ⅴ層(0.9～1.9)マージ		
	30924	26226				
	30924	26230				
14－D7－ﾄ	30892	26296	64.388	Ⅰ層(0.4)	-0.7～1.0	
	30892	26292		Ⅴ層(0.4～0.7)マージ		
	30888	26292				
	30888	26296				
14－D9－ﾅ	30882	26260	64.298	Ⅰ層(0.3)	-1.7～2.1	
	30882	26258		Ⅴ層(1.7)マージ		
	30880	26258				
	30880	26260				
14－D10－ｼ	30898	26224	65.236	Ⅰ層(0.2～0.6)	-1.0～1.1	
	30898	26220		Ⅴ層(0.5～0.7)マージ		
	30894	26220				
	30894	26224				
14－E10－ｱ	30880	26230	65.107	Ⅰ層(0.1)	-0.4	
	30880	26228		Ⅱ層(0.3)黄		
	30878	26228				
	30878	26230				
14－E10－ﾅ	30852	26230	64.298	Ⅰa層(1.1～1.2)	-1.2	
	30852	26228				
	30850	26228				
	30850	26230				

第２表ｃ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－A6－ニ	30976	26044	62.026	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.4～0.9	
	30976	26040		Ⅱ層(0.2～0.6)黄		
	30972	26040				
	30972	26044				
15－A7－タ	30982	26020	63.699	Ⅱ層(0.4)黄	-0.4	
	30982	26016				
	30978	26016				
	30978	26020				
15－A8－ク	30994	25978	63.527	Ⅰ層(0.05～0.3)	-0.8	
	30994	25974		Ⅱ層(0.05～0.1)黄		
	30990	25974		Ⅴ層(0.5～0.7)マージ		
	30990	25978				
15－A9－ア	31000	25960	62.780	Ⅰ層(0.1～0.4)	-0.6～1.1	
	31000	25956		Ⅱ層(0.3～0.5)黄		
	30996	25956		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30996	25960				
15－A9－ナ	30974	25960	65.249	Ⅰ層(0.05)	-1.2	
	30974	25958		Ⅱ層(0.9)黄		
	30972	25958		Ⅴ層(0.3)マージ		
	30972	25960				
15－B4－セ	30958	26092	61.221	Ⅰ層(0.2)	-0.7～1.0	
	30958	26088		Ⅱ層(0.2)黄		
	30954	26088		Ⅴ層(0.3～0.5)マージ		
	30954	26092				
15－B4－タ	30952	26110	61.568	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.7～1.1	
	30952	26106		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30948	26106		Ⅴ層(0.2～0.6)マージ		
	30948	26110				
15－B6－オ	30970	26022	64.433	Ⅰ層(0.3)	-0.4	
	30970	26020		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30968	26020				
	30968	26022				
15－B7－オ	30970	25992	65.468	Ⅰ層(0.05)	-0.9～1.2	
	30970	25990		Ⅱ層(0.3)黄		
	30968	25990		Ⅴ層(0.6～0.9)マージ		
	30968	25992				
15－B10－ア	30970	25930	65.456	Ⅰ層(0.05)	-0.4～1.3	
	30970	25928		Ⅴ層(0.3～1.1)マージ		
	30968	25928				
	30968	25930				
15－B10－ナ	30943	25930	67.535	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.4	
	30943	25928		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30941	25928				
	30941	25930				
15－C1－ナ	30916	26200	65.719	Ⅰ層(0.3)	-0.4～0.8	
	30916	26196		Ⅱ層(0.2)黄		
	30912	26196		Ⅴ層(0.1～0.6)マージ		
	30912	26200				

第２表ｄ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－C2－ｻ	30928	26165.5	65.010	Ⅰ層(0.2)	-0.3～0.7	
	30928	26161.5		Ⅱ層(0.05～0.2)黄		
	30924	26161.5		Ⅴ層(0.05～0.6)マージ		
	30924	26165.5				
15－C2－ﾉ	30912	26142	68.065	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.4	
	30912	26140		Ⅱ層(0.1～0.3)暗		
	30910	26140		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30910	26142				
15－C3－ｱ	30940	26140	63.468	Ⅰ層(1.3)	-1.3	
	30940	26136				
	30936	26136				
	30936	26140				
15－C3－ｵ	30940	26112	63.370	Ⅰ層(0.2～0.4)	-0.2～0.4	
	30940	26110				
	30938	26110				
	30938	26112				
15－C5－ｱ	30940	26080	63.666	Ⅰ層(0.1)	-0.1	
	30940	26078				
	30938	26078				
	30938	26080				
15－C5－ｵ	30940	26052	64.171	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.4	
	30940	26050		Ⅱa層(0.2)暗		
	30938	26050		Ⅱb層(0.2)黄		
	30938	26052		Ⅴ層(0.1)マージ		
15－C6－ｵ	30940	26022	67.430	Ⅰ層(0.05)	-0.3	
	30940	26020		Ⅱ層(0.2)黄		
	30938	26020				
	30938	26022				
15－C7－ｵ	30940	25992	69.756	Ⅰ層(1.0～)	検出せず	Ⅰ層(地表0.2m下)で豚の頭骨出土。亀甲墓の上部に当たる地点であり、Ⅰ層は墓を構築する際の造成土の可能性がある。
	30940	25990				
	30938	25990				
	30938	25992				
15－C8－ｵ	30936	25962	68.777	Ⅰ層(0.05)	-0.1～1.0	
	30936	25960		Ⅱ層(0.05～0.4)黄		
	30934	25960		Ⅴ層(0.2～0.8)マージ		
	30934	25962				
15－C9－ﾉ	30912	25933	68.776	Ⅰ層(0.05)	-0.4～1.2	
	30912	25931		Ⅱ層(0.2～0.3)黄		
	30910	25931		Ⅴ層(0.1～0.8)マージ		
	30910	25933				
15－D1－ﾅ	30882	26200	69.762	Ⅰ層(0.1)	-0.1	
	30882	26198				
	30880	26198				
	30880	26200				
15－D2－ｱ	30910	26170	68.233	Ⅰ層(0.4)	-0.4	
	30910	26168				
	30908	26168				
	30908	26170				

第２表ｅ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－D4－ｱ	30910	26110	65.456	Ⅰ層(0.1)	-1.3～1.6	
	30910	26108		Ⅱa層(0.4)黄		
	30908	26108		Ⅱb層(0.1)暗		
	30908	26110		Ⅴ層(0.8～1.2)マージ		
15－D4－ﾅ	30882	26110	67.854	Ⅰ層(0.05)	-0.4～0.6	Ⅱ層から蹄鉄出土。
	30882	26108		Ⅱ層(0.4)黄		
	30880	26108		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30880	26110				
15－D5－ｱ	30910	26080	65.196	Ⅱ層(0.3)黄	-1.3	
	30910	26078		Ⅴ層(0.8)マージ		
	30908	26078				
	30908	26080				
15－D6－ｵ	30910	26022	68.653	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.4	
	30910	26020		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30908	26020				
	30908	26022				
15－D6－ﾅ	30882	26050	71.469	Ⅰ層(0.1)	-0.1	
	30882	26048				
	30880	26048				
	30880	26050				
15－D7－ｵ	30910	25992	69.434	Ⅱa層(0.2)暗	-0.2～0.5	
	30910	25990		Ⅱb層(0.1)黄		
	30908	25990		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30908	25992				
15－D8－ﾆ	30884	25984	73.170	Ⅰ層(0.1)	-0.2	
	30884	25982		Ⅱ層(0.1)暗		
	30882	25982				
	30882	25984				
15－D9－ｱ	30912	25960	69.104	Ⅰ層(0.1)　　Ⅴ層(0.4～)マージ	-0.4～0.6	Ⅴ層上面で、Ⅳ層(貝塚中期)の竪穴住居跡１・２検出。Ｃ14年代測定実施。
15－C9－ﾅ	30912	25955		Ⅱ層(0.4)暗		
	30908	25955		Ⅳ層(竪穴住居跡、深さ0.4)暗		
	30908	25960				
15－E2－ｱ	30880	26170	69.765	Ⅰ層(0.3)	-0.3	
	30880	26168				
	30878	26168				
	30878	26170				
15－E3－ｱ	30880	26140	69.617	Ⅰ層(0.05)	-0.3	
	30880	26138		Ⅱ層(0.3)黄		
	30878	26138				
	30878	26140				
15－E4－ﾉ	30852	26082	72.378	Ⅰa層(0.1～0.3)	検出せず	
	30852	26080		Ⅰb層(1.3～)		
	30850	26080				
	30850	26082				
15－E8－ｵ	30878	25962	73.250	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.6	
	30878	25960		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	30876	25960				
	30876	25962				

第２表ｆ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－E9－ﾉ	30852	25932	69.416	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.1～1.0	
	30852	25930		Ⅴ層(0.7～)マージ		
	30850	25930				
	30850	25932				
15－F1－ｱ	30850	26200	68.803	Ⅰa層(0.1)	-0.8～1.1	
	30850	26198		Ⅰb層(0.6～1.0)		
	30848	26198				
	30848	26200				
15－F1－ｵ	30850	26172	70.132	Ⅰ層(0.9)	検出せず	
	30850	26170		Ⅱ層(0.4)暗		
	30848	26170		Ⅴ層(0.5～)マージ		
	30848	26172				
15－F2－ﾅ	30822	26170	64.456	Ⅰ層(0.25～)	検出せず	Ⅰ層は造成土であり、硬質であるため、掘削困難であったため中断した。
	30822	26168				
	30820	26168				
	30820	26170				
15－F3－ｱ	30850	26140	69.115	Ⅰ層(0.1)	検出せず	
	30850	26138		Ⅱ層(0.4)黄		
	30848	26138		Ⅴ層(1.4～)マージ		
	30848	26140				
15－F3－ﾉ	30822	26112	70.114	Ⅰ層(0.05～0.5)	-1.3	
	30822	26110		Ⅱ層(0.4)暗		
	30820	26110		Ⅴ層(0.6)マージ		
	30820	26112				
15－F4－ｱ	30850	26110	68.612	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30850	26108		Ⅱ層(0.2)黄		
	30848	26108		Ⅴ層(0.4～0.6)マージ		
	30848	26110				
15－F5－ｵ	30850	26052	70.203	Ⅰ層(0.05～0.4)	-0.1～1.0	
	30850	26050		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	30848	26050				
	30848	26052				
15－F7－ｱ	30850	26020	68.895	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.4	
	30850	26018		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30848	26018				
	30848	26020				
15－F7－ｵ	30850	25994	68.724	Ⅰ層(0.1)	-0.7～0.9	
	30850	25992		Ⅱ層(0.1)暗		
	30848	25992		Ⅴ層(0.6)マージ		
	30848	25994				
15－F9－ｱ	30850	25960	69.486	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.3	
	30850	25958				
	30848	25958				
	30848	25960				
15－G1－ｱ	30820	26200	64.864	Ⅰ層(0.8～)	検出せず	
	30820	26198				
	30818	26198				
	30818	26200				

第２表ｇ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－G2－ﾉ	30792	26142	70.521	Ⅰ層(0.2)	-0.2	
	30792	26140				
	30790	26140				
	30790	26142				
15－G5－ｱ	30820	26080	69.495	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30820	26078		Ⅱ層(0.1)黄		
	30818	26078		Ⅴ層(0.2～0.4)マージ		
	30818	26080				
15－G6－ｱ	30820	26050	69.047	Ⅰ層(0.2)	-0.2～0.6	
	30820	26048		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30818	26048				
	30818	26050				
15－G7－ｱ	30820	26020	67.854	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.6	
	30820	26018		Ⅱ層(0.2～0.4)黄		
	30818	26018		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30818	26020				
15－G7－ﾉ	30792	25992	67.154	Ⅰ層(0.1)	-1.0	
	30792	25990		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30790	25990		Ⅴ層(0.8～)マージ		
	30790	25992				
15－G8－ｱ	30820	25990	67.439	Ⅰ層(0.2)	-1.0～1.1	
	30820	25988		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30818	25988				
	30818	25990				
15－G8－ｵ	30820	25964	67.436	Ⅰ層(0.05)	検出せず	マージ上面でⅢ層のピット群検出。ピットから少量のグスク土器が出土。
	30820	25962		Ⅱ層(0.3)黄		
	30818	25962		Ⅲ層(ピット埋土)暗		
	30818	25964		Ⅴ層(0.2～)マージ		
15－G10－ｱ	30820	25930	66.163	Ⅰ層(0.05)	-0.6～1.0	
	30820	25928		Ⅱ層(0.5)黄		
	30818	25928		Ⅴ層(0.4～0.7)マージ		
	30818	25930				
15－G10－ﾅ	30792	25930	65.493	Ⅰ層(0.05)	-0.6～1.0	
	30792	25928		Ⅱ層(0.1～0.5)黄		
	30790	25928		Ⅴ層(0.1～0.8)マージ		
	30790	25930				
15－H2－ｱ	30790	26170	64.765	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.3	
	30790	26168		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30788	26168				
	30788	26170				
15－H3－ｵ	30790	26112	70.270	Ⅰ層(0.3)	-1.3～1.7	
	30790	26110		Ⅱ層(0.2)黄		
	30788	26110		Ⅴ層(1.2～)マージ		
	30788	26112				
15－H4－ﾉ	30762	26082	67.501	Ⅰ層(0.05)	-0.05	
	30762	26080				
	30760	26080				
	30760	26082				

第２表ｈ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－H5－ｱ	30790	26080	69.581	Ⅰ層(0.2)	-0.5	Ⅰ層から沖縄産陶器とともに18世紀の中国産染付出土。
	30790	26078		Ⅱ層(0.2)暗		
	30788	26078		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30788	26080				
15－H6－ｱ	30790	26050	68.509	Ⅰ層(0.1)	-0.4～0.7	
	30790	26048		Ⅱ層(0.3)暗		
	30788	26048		Ⅴ層(0.4～)マージ		
	30788	26050				
15－H6－ｵ	30790	26022	67.078	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.5	
	30790	26020		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30788	26020		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30788	26022				
15－H8－ｵ	30790	25962	66.654	Ⅰ層(0.05)	-1.0～1.4	
	30790	25960		Ⅱ層(0.1～0.5)黄		
	30788	25960		Ⅴ層(0.7～1.1)マージ		
	30788	25962				
15－H8－ﾉ	30762	25962	66.514	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.7	
	30762	25960		Ⅴ層(0.1～0.7)マージ		
	30760	25960				
	30760	25962				
15－H10－ﾅ	30762	25930	65.606	Ⅰ層(0.1)	-0.3～0.7	
	30762	25928		Ⅱ層(0.2)暗		
	30760	25928		Ⅴ層(0.5)マージ		
	30760	25930				
15－Ⅰ2－ｵ	30760	26142	67.340	Ⅰ層(1.3～)	検出せず	
	30760	26140				
	30758	26140				
	30758	26142				
15－Ⅰ4－ｱ	30760	26110	63.103	Ⅰ層(0.1)	-0.1	
	30760	26108				
	30758	26108				
	30758	26110				
15－Ⅰ4－ﾅ	30732	26110	64.894	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.3	
	30732	26108				
	30730	26108				
	30730	26110				
15－Ⅰ5－ﾅ	30732	26080	66.116	Ⅰ層(0.2)	-0.2	
	30732	26078				
	30730	26078				
	30730	26080				
15－Ⅰ6－ｱ	30760	26050	67.761	Ⅰ層(0.7～0.9)	-1.2～1.4	
	30760	26048		Ⅱ層(0.3)暗		
	30758	26048		Ⅴ層(0.3)マージ		
	30758	26050				
15－Ⅰ7－ｱ	30760	26020	66.462	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30760	26018		Ⅱ層(0.2～0.4)暗		
	30758	26018		Ⅲ層(0.2)黄		
	30758	26020		Ⅳ層(0.2～0.4)黄		

第２表ｉ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
15－Ｉ7－オ	30760	25992	66.537	Ⅰ層(0.1)	-0.3～0.5	
	30760	25990		Ⅱ層(0.2～0.4)暗		
	30758	25990		Ⅴ層」(0.1)マージ		
	30758	25992				
15－Ｉ10－ノ	30732	25904	61.391	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.3	
	30732	25902		Ⅱ層(0.1～0.4)黄		
	30730	25902		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30730	25904				
15－Ｊ5－オ	30730	26052	65.996	Ⅰ層(1.0)	-1.7	
	30730	26050		Ⅱ層(0.1)黄		
	30728	26050		Ⅴ層(0.6)マージ		
	30728	26052				
15－Ｊ5－ノ	30702	26052	64.477	Ⅰ層(1.0～)	検出せず	
	30702	26050				
	30700	26050				
	30700	26052				
15－Ｊ7－ア	30730	26020	64.955	Ⅱ層(0.3)暗	-0.3	
	30730	26018				
	30728	26018				
	30728	26020				
15－Ｊ7－オ	30730	25992	64.948	Ⅰ層(0.05)	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。竪穴住居跡か？
	30730	25990		Ⅱ層(0.3)暗		
	30728	25990		Ⅳ層(0.1～0.3)黄		
	30728	25992		Ⅴ層(0.4～)マージ		
15－Ｊ9－ア	30730	25958	63.776	Ⅰ層(0.2)	-0.2～0.8	
	30730	25956		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	30728	25956				
	30728	25958				
15－Ｊ9－オ	30730	25932	62.378	Ⅰ層(0.3)	-0.3	
	30730	25930				
	30728	25930				
	30728	25932				
15－Ｊ10－ナ	30702	25930	59.365	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30702	25928		Ⅱ層(0.1～0.3)暗		
	30700	25928		Ⅴ層(0.2～0.5)マージ		
	30700	25930				
16－Ａ1－ア	31000	25900	61.367	Ⅰ層(0.05)　Ⅳ層(0.2～0.3)暗	検出せず	Ⅲａ層からグスク土器、Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	31000	25898		Ⅱ層(0.3)黄　Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30998	25898		Ⅲa層(0.3～0.4)暗		
	30998	25900		Ⅲb層(0.4)黄		
16－Ａ1－オ	31000	25876	61.644	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.3	
	31000	25874		Ⅱ層(0.2)黄		
	30998	25874		Ⅴ層(0.05)マージ		
	30998	25876				
16－Ａ1－ノ	30972	25872	63.936	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.4	
	30972	25870		Ⅱ層(0.05～0.3)黄		
	30970	25870		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30970	25872				

第２表ｊ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－A4－ﾅ	30972	25810	60.884	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30972	25808		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30970	25808		Ⅴ層(0.5)マージ		
	30970	25810				
16－A5－ｶ	30994	25780	59.789	Ⅰ層(0.1)	-0.4～0.9	
	30994	25776		Ⅴ層(0.3～0.8)マージ		
	30990	25776				
	30990	25780				
16－B1－ｱ	30970	25900	63.431	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.5	
	30970	25898		Ⅴ層(0.4)マージ		
	30968	25898				
	30968	25900				
16－B2－ﾅ	30942	25870	64.753	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30942	25868		Ⅱ層(0.7)黄		
	30940	25868		Ⅴ層(0.2～)マージ		
	30940	25870				
16－B3－ｱ	30970	25840	61.426	Ⅰ層(0.1)	-1.1	
	30970	25838		Ⅱ層(0.4)黄		
	30968	25838		Ⅴ層(0.6)マージ		
	30968	25840				
16－B5－ｲ	30970	25774	58.077	Ⅰ層(0.1～0.4)	-0.4～0.6	
	30970	25770		Ⅱ層(0.1)暗		
	30966	25770		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30966	25774				
16－B5－ﾅ	30942	25780	56.962	Ⅰ層(0.1)	-0.3～0.5	
	30942	25778		Ⅱ層(0.2)黄		
	30940	25778		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30940	25780				
16-B6-ｶ	30964	25750	55.161	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.4	
	30964	25746		Ⅱ層(0.1～0.4)黄		
	30960	25746		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30960	25750				
16－C1－ｱ	30940	25900	67.136	Ⅰ層(0.05)	-0.5	Ⅱ層から沖縄産陶器製円盤が出土。
	30940	25898		Ⅱ層(0.2)黄		
	30938	25898		Ⅴ層(0.3)マージ		
	30938	25900				
16－C1－ﾆ	30916	25894	68.169	Ⅰ層(0.05)	-0.2～1.4	
	30916	25892		Ⅴ層(0.1～0.4)マージ		
	30914	25892				
	30914	25894				
16－C3－ｱ	30940	25840	62.286	Ⅰ層(0.1)	-0.2～0.4	
	30940	25838		Ⅱ層(0.3)黄		
	30938	25838		Ⅴ層(0.1～)マージ		
	30938	25840				
16－C4－ｱ	30940	25809	59.322	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.7	
	30940	25807		Ⅴ層(0.05～0.5)マージ		
	30938	25807				
	30938	25809				

第２表ｋ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－C6－ｱ	30940	25750	53.606	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.7	
	30940	25746		Ⅱ層(0.1～0.5)黄		
	30936	25746		Ⅴ層(0.05)マージ		
	30936	25750				
16－D1－ｵ	30910	25874	65.924	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.5	
	30910	25872		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30908	25872		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30908	25874				
16－D2－ﾅ	30882	25870	67.534	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.4	
	30882	25868		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30880	25868				
	30880	25870				
16－D3－ｱ	30910	25840	62.934	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.3	
	30910	25838		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30908	25838				
	30908	25840				
16－D3－ｵ	30910	25812	60.991	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.4	
	30910	25810		Ⅱ層(0.2～0.4)黄		
	30908	25810		Ⅴ層(0.1～0.2)マージ		
	30908	25812				
16－D3－ﾉ	30882	25812	64.038	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.1～0.2	
	30882	25810		Ⅱ層(0.1～0.3)暗		
	30880	25810				
	30880	25812				
16－D5－ｱ	30910	25780	57.723	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.5	
	30910	25778		Ⅱ層(0.3～0.4)黄		
	30908	25778				
	30908	25780				
16－D5－ｵ	30910	25752	55.040	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.4	
	30910	25750		Ⅴ層(0.1～0.4)マージ		
	30908	25750				
	30908	25752				
16－D5－ﾉ	30822	25754	58.299	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.4	
	30822	25752		Ⅱ層(0.1～0.3)暗		
	30880	25752		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30880	25754				
16－D7－ｱ	30910	25720	52.219	Ⅰ層(0.2)	-1.4～1.6	
	30910	25718		Ⅴ層(1.2～1.4)マージ		
	30908	25718				
	30908	25720				
16－D7－ｴ	30910	25702	52.239	Ⅰ層(0.4～0.6)　Ⅴ層(1.0～1.3)マージ	-1.8～2.0	宜野湾市教育委員会92年度大山岳之佐久原第一遺跡調査とほぼ同一の層序・内容と思われる。
	30910	25698		Ⅱ層(0.05～0.3)黄		
	30906	25698		Ⅲ層(0.1～0.3)暗		
	30906	25702		Ⅳ層(0.1)暗		
16－D7－ﾉ	30886	25696	53.404	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～1.5	
	30886	25692		Ⅴ層(0.2～1.5)マージ		
	30882	25692				
	30882	25696				

第２表ｌ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－E3－ｱ	30880	25840	65.964	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.2	Ⅰ層から沖縄産陶器製円盤が出土。
	30880	25838				
	30878	25838				
	30878	25840				
16－E4－ｵ	30880	25782	61.266	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.5	
	30880	25780		Ⅱａ層(0.1～0.2)黄		
	30878	25780		Ⅱｂ層(0.05～0.2)暗		
	30878	25782				
16－E4－ﾅ	30852	25808	63.599	Ⅰ層(0.1)	検出せず	
	30852	25806		Ⅴ層(1.4～)マージ		
	30850	25806				
	30850	25808				
16－E5－ﾉ	30852	25752	64.913	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.6	
	30852	25750		Ⅱ層(0.3)黄		
	30850	25750		Ⅴ層(0.05～0.3)マージ		
	30850	25752				
16－E6－ｵ	30880	25722	53.286	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30880	25720		Ⅱ層(0.1～0.2)黄		
	30787	25720		Ⅴ層(0.5～0.6)マージ		
	30787	25722				
16－E7－ﾉ	30856	25696	56.276	Ⅰ層(0.05～0.3)	-0.05～0.9	
	30856	25692		Ⅱa層(0.05～0.2)暗		
	30852	25692		Ⅱb層(0.05～0.2)黄		
	30852	25696		Ⅴ層(0.2～0.5)マージ		
16－E10－ﾀ	30862	25630	54.865	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～1.1	
	30862	25626		Ⅴ層(0.4～0.8)マージ		
	30858	25626				
	30858	25630				
16-F1-ｱ	30850	25900	65.977	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.1～0.3	
	30850	25898				
	30848	25898				
	30848	25900				
16－F2－ｱ	30850	25868	65.884	Ⅰ層(0.7)	-0.7	Ⅰ層から銭貨・貝塚中期土器出土。
	30850	25866				
	30848	25866				
	30848	25868				
16－F3－ｱ	30850	25840	65.453	Ⅰ層(0.2～0.3)	-0.2～0.3	
	30850	25838		Ⅴ層(0.05～)マージ		
	30848	25838				
	30848	25840				
16－F4－ﾈ	30822	25788	61.593	Ⅰ層(0.05～0.2)	-0.8～1.4	
	30822	25786		Ⅱ層(0.5～1.0)黄		
	30820	25786		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30820	25788				
16－F5－ｱ	30850	25780	63.585	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.5	
	30850	25778		Ⅱ層(0.1～0.4)暗		
	30848	25778		Ⅴ層(0.2～)マージ		
	30848	25780				

第２表m　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－F6－ｵ	30850	25722	63.797	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.2	
	30850	25720		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30848	25720				
	30848	25722				
16－F6－ﾅ	30822	25750	57.871	Ⅰ層(0.05)	検出せず	
	30822	25748		Ⅴ層(2.0～)マージ		
	30820	25748				
	30820	25750				
16－F6－ﾉ	30822	25722	62.988	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.4	
	30822	25720		Ⅴ層(0.05～)マージ		
	30820	25720				
	30820	25722				
16－F8－ﾀ	30832	25691	57.602	Ⅰ層(0.05～0.2)	-0.1～0.5	
	30832	25687		Ⅴ層(0.05～0.4)マージ		
	30828	25687				
	30828	25691				
16－F10－ｿ	30838	25606	51.870	Ⅰ層(0.2～0.7)	-0.4～1.2	
	30838	25602		Ⅴ層(0.2～0.7)マージ		
	30834	25602				
	30834	25606				
16－G1－ｱ	30820	25900	64.474	Ⅰ層(0.05)	-0.4～0.6	
	30820	25898		Ⅱa層(0.3)黄		
	30818	25898		Ⅱb層(0.1)暗		
	30818	25900		Ⅴ層(0.1～0.4)マージ		
16－G1－ﾅ	30792	25900	64.653	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30792	25898		Ⅱ層(0.2)黄		
	30790	25898		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30790	25900				
16－G2－ｱ	30820	25870	61.945	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30820	25868		Ⅱ層(0.2)黄		
	30818	25868		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	30818	25870				
16－G3－ｱ	30820	25840	61.185	Ⅰ・Ⅱ層(0.2)暗	検出せず	
	30820	25838		Ⅴ層(1.8～)マージ		
	30818	25838				
	30818	25840				
16－G3－ｵ	30820	25812	61.615	Ⅰ層(0.05)	-1.2～1.4	
	30820	25810		Ⅱ層(0.1)黄		
	30818	25810		Ⅴ層(1.4～)マージ		
	30818	25812				
16－G7－ﾉ	30796	25696	58.638	Ⅰ層(0.1)	検出せず	
	30796	25692		Ⅱ層(0.2～0.4)黄		
	30792	25692		Ⅲ層(0.1～0.4)暗		
	30792	25696		Ⅴ層(0.3～)マージ		
16－G9－ｱ	30820	25660	54.330	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.4	
	30820	25658		Ⅱ層(0.1)黄		
	30818	25658		Ⅴ層(0.2～0.3)マージ		
	30818	25660				

第２表ｎ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－G10－ｱ	30820	25630	51.882	Ⅰ層(0.1)	-0.8～1.4	
	30820	25628		Ⅱ層(0.1～0.6)黄		
	30818	25628		Ⅴ層(0.1～1.2)マージ		
	30818	25630				
16－H2－ｱ	30790	25870	61.677	Ⅰ層(0.05)	-0.6～0.8	
	30790	25868		Ⅱa層(0.2)黄		
	30788	25868		Ⅱb層(0.1)暗		
	30788	25870		Ⅴ層(0.4～)マージ		
16－H3－ｱ	30790	25840	60.118	Ⅰ層(0.3～0.6)	検出せず	
	30790	25838		Ⅱ層(0.2)黄		
	30788	25838		Ⅴ層(0.9～)マージ		
	30788	25840				
16－H3－ｵ	30790	25812	57.996	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.5	
	30790	25810		Ⅱ層(0.4)黄		
	30788	25810		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30788	25812				
16－H5－ｱ	30790	25780	59.850	Ⅰ層(0.05)	検出せず	
	30790	25778		Ⅱa層(0.2～0.4)暗		
	30788	25778		Ⅱb層(0.3～)黄		
	30788	25780		Ⅴ層(0.7～)マージ		
16－H6－ｱ	30790	25750	58.931	Ⅰ層(0.5～)	-0.1～0.5	
	30790	25748		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30788	25748				
	30788	25750				
16－H6－ｸ	30784	25738	59.941	Ⅰ層(0.7～0.9)　Ⅴb層(0.6)マージ	検出せず	
	30784	25734		Ⅱ層(0.2)黄		
	30780	25734		Ⅳ層(0.05)暗		
	30780	25738		Ⅴa層(0.1～0.3)マージ		
16－H7－ｺ	30784	25692.75	59.299	Ⅰ層(0.05～0.2)　Ⅴ層(0.9～)暗	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30784	25688.75		Ⅱa層(0.05～0.2)暗		
	30780	25688.75		Ⅱb層(0.3)黄		
	30780	25692.75		Ⅳ層(0.6～)暗		
16－H9－ｱ	30790	25660	57.677	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.1～0.2	
	30790	25658				
	30788	25658				
	30788	25660				
16－H10－ｱ	30790	25630	53.231	Ⅰ層(0.1)	-0.8～1.4	Ⅱ層から沖縄産陶器・類須恵器・染付出土。
	30790	25628		Ⅱ層(0.2～0.5)黄		
	30788	25628		Ⅴ層(0.5～0.9)マージ		
	30788	25630				
16－Ⅰ1－ｱ	30760	25900	63.219	Ⅰ層(0.1)	-0.3～0.6	
	30760	25898		Ⅱ層(0.4)黄		
	30758	25898		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30758	25900				
16－Ⅰ2－ｱ	30760	25870	61.932	Ⅰ層(0.1)	-0.1～0.3	
	30760	25868		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30758	25868				
	30758	25870				

第２表ｏ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－Ｉ2－ニ	30732	25864	58.338	Ⅰ層(0.05)　Ⅲ・Ⅳ層(0.5～)暗	検出せず	Ⅲ・Ⅳ層は、他地点のⅣ層とは土質・色調が異なり、時期が断定できないため、このように表記している。
	30732	25862		Ⅱ層(0.3～0.5)黄		
	30730	25862		Ⅲa層(0.5～0.8)黄		
	30730	25864		Ⅲb層(0.6)暗		
16－Ｉ3－ア	30760	25840	59.381	Ⅰ層(0.2～0.4)	-0.6～1.1	Ⅱ層からほぼ完形の砥部碗が出土。
	30760	25838		Ⅱ層(0.2～0.6)黄		
	30758	25838		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30758	25840				
16－Ｉ4－ア	30760	25810	56.344	Ⅰ層(0.05)　Ⅴ層(0.4～0.5)マージ	-1.0～1.2	Ⅳａ層から貝塚中期土器出土。
	30760	25808		Ⅱ層(0.3)黄		
	30758	25808		Ⅳa層(0.4)暗		
	30758	25810		Ⅳb層(0.05～0.4)黄		
16－Ｉ4－ナ	30733.5	25810	56.232	Ⅰ層(0.05)	-0.7	
	30733.5	25808		Ⅱ層(0.2)黄		
	30731.5	25808		Ⅴ層(0.4～)マージ		
	30731.5	25810				
16－I5－ア	30760	25780	56.803	Ⅰ層(0.1)	-0.8～1.2	Ⅴ層マージから獣骨(化石化？)出土。
	30760	25778		Ⅱ層(0.4)黄		
	30758	25778		Ⅳ層(0.05～0.2)暗		
	30758	25780		Ⅴ層(0.4～0.8)マージ		
16－Ｉ5－コ	30754	25750	59.336	Ⅰ層(0.1～0.8)	-1.0～1.3	
	30754	25746		Ⅴ層(1.1～)マージ		
	30750	25746				
	30750	25750				
16－Ｉ5－ネ	30733.106	25758.925	59.092	Ⅰ層(0.5～0.8)	-0.5～0.8	
	30733.106	25754.925				
	30729.106	25754.925				
	30729.106	25758.925				
16－Ｉ6－オ	30760	25722.9	60.317	Ⅰ層(0.05)	-0.8～1.2	Ⅱ層から染付・土器出土。
	30760	25720		Ⅱ層(0.5～0.6)黄		
	30758	25720		Ⅴ層(0.6～)マージ		
	30758	25722				
16－Ｉ7－オ	30760	25696	60.233	Ⅱ層(0.3)黄	-1.1～1.3	
	30760	25692		Ⅴ層(0.8～0.9)マージ		
	30756	25692				
	30756	25696				
16－Ｉ9－ア	30760	25659	61.160	Ⅰ層(0.05)	-0.5～0.7	
	30760	25657		Ⅱ層(0.05～0.2)黄		
	30758	25657		Ⅴ層(0.3～0.6)マージ		
	30758	25659				
16－Ｉ9－オ	30758	25632	62.901	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.4	
	30758	25630		Ⅱ層(0.1～0.2)暗		
	30756	25630		Ⅴ層(0.1～0.2)マージ		
	30756	25632				
16－Ｊ2－オ	30730	25842	58.457	Ⅱ層(0.4)黄	-1.6～1.7	Ⅲ・Ⅳ層は、他地点のⅣ層とは土質・色調が異なり、時期が断定できないため、このように表記している。
	30730	25840		Ⅲa層(0.5)黄		
	30728	25840		Ⅲb層(0.4)暗		
	30728	25842		Ⅲ・Ⅳ(0.1～0.3)暗		

第２表ｐ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
16－Ｊ2－ﾉ	30703	25844	60.265	Ⅰ層(1.3)	-1.3	
	30703	25840		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30699	25840				
	30699	25844				
16－Ｊ6－ｵ	30730	25722	63.641	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.5	
	30730	25720		Ⅱ層(0.1)黄		
	30728	25720		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30728	25722				
16－Ｊ6－ﾅ	30702	25750	62.777	Ⅰ層(0.1)	-0.05～0.2	
	30702	25748		Ⅱ層(0.1)暗		
	30700	25748		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30700	25750				
16－Ｊ7－ｵ	30730	25696	62.953	Ⅱ層(0.2～0.3)黄	-1.1～2.0	
	30730	25692		Ⅴ層(0.7～1.8)マージ		
	30726	25692				
	30726	25696				
16－Ｊ9－ｱ	30730	25660	62.240	Ⅰ層(0.05)	-0.1～1.1	
	30730	25658		Ⅱ層(0.2)黄		
	30728	25658		Ⅴ層(0.3～0.9)マージ		
	30728	25660				
16－Ｊ9－ｵ	30728	25632	63.292	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.2	
	30728	25630		Ⅱ層(0.1～0.2)暗		
	30726	25630				
	30726	25632				
17－Ｇ1－ｱ	30820	25600	50.292	Ⅰ層(0.2～0.5)　Ⅴ層(0.8～1.6)マージ	-0.3～1.7	
	30820	25596		Ⅱ層(0.1)黄		
	30816	25596		Ⅲ層(ピット埋土)暗		
	30816	25600		Ⅳ層(不明)暗		
17－Ｇ1－ｺ	30814	25576	49.331	Ⅰ層(0.05～0.3)　Ⅴ層(0.2～)マージ	検出せず	Ⅲ層はⅣ層上面でピットも検出。Ⅳ層から貝塚中期土器・石器出土。Ⅴ層のマージは一部黒ずんだ部分あり。
	30814	25572		Ⅱ層(0.2～0.4)黄		
	30810	25572		Ⅲ層(0.05)暗		
	30810	25576		Ⅳ層(0.05～0.3)暗		
17－Ｇ1－ﾅ	30792	25600	51.741	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.5～0.8	
	30792	25598		Ⅱ層(0.05～0.3)黄		
	30790	25598		Ⅳ層(0.1～0.3)暗		
	30790	25600		Ⅴ層(0.05～0.3)マージ		
17－Ｇ1－ﾉ	30796	25573	48.935	Ⅱ層(0.2～0.4)黄	検出せず	Ⅲ層はⅣ層上面でピットも検出。Ⅳ層から貝塚中期土器出土。Ⅴ層のマージは一部黒ずんだ部分あり。
	30796	25569		Ⅲ層(0.3～)暗		
	30792	25569		Ⅳ層(0.3～)黄		
	30792	25573		Ⅴ層(0.1～)マージ		
17－Ｈ3－ｼ	30778	25534	50.445	Ⅰ層(0.4～0.9)	-1.1	
	30778	25530		Ⅲ層(0.05～0.4)黄		
	30774	25530		Ⅴ層(0.1～0.4)マージ		
	30774	25534				
17－Ｉ1－ｱ	30760	25600	58.333	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.9	
	30760	25598		Ⅴ層(0.2～0.8)マージ		
	30758	25598				
	30758	25600				

第２表ｑ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
17－Ｉ1－オ	30760	25572	53.673	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.3	
	30760	25570		Ⅱ層(0.05～0.3)暗		
	30758	25570		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30758	25572				
17－Ｉ3－ア	30760	25540	53.343	Ⅰ層(0.05)	-1.6	
	30760	25538		Ⅱ層(0.2～0.6)暗		
	30758	25538		Ⅴ層(1.3～)マージ		
	30758	25540				
17－Ｉ3－オ	30760	25514	54.269	Ⅰ層(0.2)	-0.9～1.0	
	30760	25510		Ⅴ層(0.4～0.8)マージ		
	30756	25510				
	30756	25514				
17－Ｉ4－ノ	30734	25484	57.771	Ⅰa層(0.1)	-0.2～0.8	
	30734	25480		Ⅰb層(0.1～0.3)		
	30730	25480		Ⅴ層(0.05～0.4)マージ		
	30730	25484				
17－Ｊ1－ア	30730	25600	62.684	Ⅰ層(0.1)	-0.05～0.2	Ⅱ層から沖縄産陶器製円盤出土。
	30730	25598		Ⅱ層(0.1～0.2)暗		
	30728	25598				
	30728	25600				
17－Ｊ1－オ	30728	25572	59.578	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.3	
	30728	25570		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30726	25570				
	30726	25572				
17－Ｊ2－オ	30730	25542	56.739	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.3	
	30730	25540		Ⅱ層(0.1～0.4)暗		
	30728	25540		Ⅴ層(0.2～)マージ		
	30728	25542				
17－Ｊ2－ナ	30702	25570	65.274	Ⅰ層(0.1)	-0.2	
	30702	25568		Ⅱ層(0.1)暗		
	30700	25568				
	30700	25570				
17－Ｊ2－ノ	30702	25543	60.976	Ⅰ層(0.05～0.2)	-0.05～0.3	
	30702	25541		Ⅱ層(0.05～0.1)暗		
	30700	25541				
	30700	25543				
17－Ｊ3－オ	30730	25512	56.818	Ⅰ層(0.05)	-0.9～1.5	
	30730	25510		Ⅴ層(1.4～)マージ		
	30728	25510				
	30728	25512				
17－Ｊ4－ノ	30702	25482	60.199	Ⅰ層(0.05)	-0.5	
	30702	25480		Ⅱ層(0.05～0.1)黄		
	30700	25480		Ⅴ層(0.3～)マージ		
	30700	25482				
17－Ｊ5－ト	30708.166	25454	56.513	Ⅰ層(0.2～0.7)	-0.8～0.9	
	30708.166	25450		Ⅴ層(0.1～0.7)マージ		
	30704.166	25450				
	30704.166	25454				

第２表ｒ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
24－A6－ｵ	30700	26022	63.007	Ⅰ層(0.05)	-0.5～1.0	
	30700	26020		Ⅱ層(0.1)暗		
	30698	26020		Ⅴ層(0.6～0.8)マージ		
	30698	26022				
24－A7－ﾅ	30676	26020	62.108	Ⅴ層(0.1～0.6)マージ	-0.1～0.6	
	30676	26016				
	30672	26016				
	30672	26020				
24－A8－ｱ	30700	25990	63.877	Ⅰ層(0.4～0.5)	-0.4～0.5	Ⅰ層から多量の貝塚中期土器が出土。
	30700	25988				
	30698	25988				
	30698	25990				
24－A8－ﾅ	30676	25990	60.455	Ⅰ層(0.3～0.8)	-0.3～0.8	
	30676	25986				
	30672	25986				
	30672	25990				
24－A9－ｱ	30700	25960	61.843	Ⅰ層(0.05)	-0.1～1.1	Ⅰ層から沖縄産陶器・染付出土。
	30700	25958		Ⅱ層(0.2～0.4)暗		
	30698	25958		Ⅴ層(0.1～0.6)マージ		
	30698	25960				
24－A9－ｿ	30688	25936	59.440	Ⅰ層(1.2)　IVb層(0.2～0.4)暗	検出せず	Ⅳａ～ｃ層に貝塚中期土器が小片だが大量に出土。
	30688	25932		Ⅱ層(0.3)灰　IVc層(0.4～)黄		
	30684	25932		Ⅲ層(0.1～0.4)黄　Ⅴ層(0.6～)マージ		
	30684	25936		IVa層(0.3)灰		
24－A9－ﾀ	30682	25960	60.014	Ⅰ層(0.1～0.9)	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30682	25956		Ⅳ層(0.05～0.4)暗		
	30678	25956		Ⅴ層(0.4～)マージ		
	30678	25960				
24－A10－ｹ	30694	25912	59.255	Ⅰ層(1.2)	検出せず	24-A9-ソとほぼ同一の層序と思われる。
	30694	25908		Ⅱ層(0.2～0.6)黄		
	30690	25908		Ⅲ層(0.05～0.6)黄		
	30690	25912		Ⅳ層は掘削せず		
25－A1－ｴ	30700	25882	59.955	Ⅰ層(1.8～2.0)	-2.4～2.7	
	30700	25878		Ⅴ層(0.4～1.0)マージ		
	30696	25878				
	30696	25882				
25－A5－ｶ	30700	25780	59.027	Ⅰ層(0.2～0.6)	-0.2～0.6	
	30700	25776				
	30696	25776				
	30696	25780				
25－A6－ｵ	30700	25722	64.095	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.05～0.4	
	30700	25720		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30698	25720				
	30698	25722				
25－A6－ｵ	30700	25722	64.095	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.05～0.4	
	30700	25720		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30698	25720				
	30698	25722				

第２表ｓ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
25－A7－ﾅ	30672	25720	62.637	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.05～0.3	
	30672	25718		Ⅱ層(0.05～0.2)暗		
	30670	25718				
	30670	25720				
25－A8－ｱ	30700	25690	63.981	Ⅰ層(0.1～0.3)	-0.5～0.9	
	30700	25686		Ⅴ層(0.3～0.8)マージ		
	30696	25686				
	30696	25690				
25－A9－ｱ	30700	25660	62.937	Ⅰ層(0.05)	-0.3～0.8	Ⅱ層から沖縄産陶器とともに青磁出土。
	30700	25658		Ⅱ層(0.2～0.3)黄		
	30698	25658		Ⅴ層(0.6～)マージ		
	30698	25660				
25－A10－ｱ	30700	25630	63.148	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.4	
	30700	25628		Ⅴ層(0.05～0.3)マージ		
	30698	25628				
	30698	25630				
25－A10－ﾅ	30674	25630	63.241	Ⅰ層(0.1)	-0.1	
	30674	25626				
	30670	25626				
	30670	25630				
25－B8－ｱ	30670	25690	64.630	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.2	
	30670	25688		Ⅱ層(0.2)暗		
	30668	25688				
	30668	25690				
25－B8－ｵ	30670	25666	64.684	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.6	
	30670	25662		Ⅱ層(0.1)黄		
	30666	25662		Ⅴ層(0.2～0.4)マージ		
	30666	25666				
25－B8－ﾅ	30642	25690	61.600	Ⅰ層(0.4～0.5)	-0.8～1.0	
	30642	25688		Ⅱ層(0.1～0.2)黄		
	30640	25688		Ⅴ層(0.1～0.4)マージ		
	30640	25690				
25－B10－ｴ	30670	25612	63.032	Ⅰ層(0.2)	-0.2～0.4	
	30670	25608		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30666	25608				
	30666	25612				
25－C9－ｱ	30640	25660	62.350	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.4	
	30640	25658		Ⅱ層(0.05～0.1)暗		
	30638	25658		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30638	25660				
25－C9－ｵ	30640	25636	60.921	Ⅰ層(0.2)	-1.2～2.2	
	30640	25632		Ⅱ層(0.1)黄		
	30636	25632		Ⅴ層(1.0～1.9)マージ		
	30636	25636				
25－C10－ｺ	30634	25606	60.613	Ⅰ層(0.1)　　Ⅴb層(0.6～1.3)マージ	-0.8～1.9	
	30634	25602		Ⅱa層(0.2)黄		
	30630	25602		Ⅱb層(0.1)暗		
	30630	25606		Ⅴa層(0.1～0.4)黒ずんだマージ		

第２表ｔ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
26－A1－ｱ	30700	25600	62.650	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.6	
	30700	25598		Ⅱ層(0.1)黄		
	30698	25598		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30698	25600				
26－A2－ﾅ	30672	25570	66.662	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30672	25568		Ⅱ層(0.2)暗		
	30670	25568		Ⅴ層(0.2)マージ		
	30670	25570				
26－A3－ﾅ	30672	25540	62.162	Ⅰ層(0.05)	0～-0.6	
	30672	25538		Ⅱ層(0.1)暗		
	30670	25538		Ⅴ層(0.4)マージ		
	30670	25540				
26－A4－ｱ	30700	25510	60.153	Ⅰ層(0.05)	-0.2～0.6	
	30700	25508		Ⅱ層(0.1～0.6)暗		
	30698	25580		Ⅴ層(0.1～)マージ		
	30698	25510				
26－A4－ﾅ	30672	25510	60.704	Ⅰ層(0.05)	-0.1～0.3	
	30672	25508		Ⅱ層(0.1～0.2)黄		
	30670	25508		Ⅴ層(0.1)マージ		
	30670	25510				
26－B4－ﾅ	30642	25506	57.650	Ⅰ層(0.1)　Ⅲｃ層(0.2～)灰	1.2	Ⅲａ～ｃ層から貝塚後期土器多量出土。この層は斜面に向かって落ち込むように堆積する。
	30642	25504		Ⅱ層(0.3～0.4)黄　Ⅴ層(0.1～)マージ		
	30640	25504		Ⅲａ層(0.2～0.5)暗		
	30640	25506		Ⅲｂ(0.2～)黄		
26－B5－ｱ	30670	25477	57.496	１層(0.05)	-0.05～0.5	
	30670	25475		Ⅱ層(0.05～0.4)		
	30668	25475				
	30668	25477				
26－B6－ｵ	30,669.391	25424	52.954	Ⅰ層(0.1～0.4)	-0.2～1.1	
	30,669.391	25420		Ⅱ層(0.2)黄		
	30,665.391	25420		Ⅴ層(0.1～0.5)マージ		
	30,665.391	25424				
26－B6－ｱ	30670	25450	53.324	Ⅰ層(0.05)	-0.4～1.5	Ⅱｂ層から沖縄産陶器に混じりグスク土器出土。
	30670	25448		Ⅱa層(0.3～0.9)暗		
	30668	25448		Ⅱｂ層(0.3)黄		
	30668	25450		Ⅴ層(0.2～0.3)マージ		
26－C3－ｲ	30638.5	25534	63.200	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.05～0.4	
	30638.5	25532		Ⅱ層(0.05～0.3)暗		
	30636.5	25532				
	30636.5	25534				
26－C3－ﾅ	30612	25540	60.500	Ⅰ層(0.1)	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30612	25538		Ⅱａ・Ⅱｂ層(0.2～0.3)黄		
	30610	25538		Ⅳ層(0.2～0.4)暗		
	30610	25540		Ⅴ層(1.0～)ﾏｰｼﾞ・ｸﾞﾗｲ化		
26－C5－ｲ	30636	25474	60.780	Ⅰ層(0.05～0.1)	0～-0.4	
	30636	25472		Ⅴ層(0.05～0.3)マージ		
	30634	25472				
	30634	25474				

第２表ｕ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
26－C5－ｵ	30640	25452	58.280	Ⅰ層(0.05～0.6)	-0.05～-0.6	
	30640	25450				
	30638	25450				
	30638	25452				
26－C6－ﾅ	30612	25450	62.180	Ⅰ層(0.05～0.1)	-0.7	
	30612	25448		Ⅱ層(0.05～0.3)暗		
	30610	25448		Ⅴ層(0.2～0.4)マージ		
	30610	25450				
26－C7－ｱ	30640	25420	55.300	Ⅰ層(0.2～0.3)	-0.2～-0.8	
	30640	25418		Ⅱ層(0.05～0.2)暗		
	30638	25418		Ⅴ層(0.05～)マージ		
	30638	25420				
26－C7－ﾅ	30612	25420	58.990	Ⅰ層(0.05)	-0.2～-0.6	
	30612	25418		Ⅱ層(0.05～0.1)黄		
	30610	25418		Ⅲ層(0.05～0.2)暗		
	30610	25420		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
26－C7－ﾉ	30614	25392	55.340	Ⅰ層(0.4～)	-0.4～1.0	
	30614	25390		Ⅴ層(0.1～0.3)マージ		
	30612	25390				
	30612	25392				
26－C8－ｱ	30638	25389	52.555	Ⅰ層(0.3～0.8)	-0.3～0.9	
	30638	25385		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30634	25385				
	30634	25389				
26－C9－ﾅ	30611.2	25358	53.548	Ⅰ層(0.05)	-0.1	
	30611.2	25354		Ⅴ層(0.05)マージ		
	30607.2	25354				
	30607.2	25358				
26－D1-ﾉ	30584	25574	60.907	Ⅰ層(0.1～0.3)　Ⅴ層(1.8～)マージ	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30584	25570		Ⅱ層(0.2)暗		
	30580	25570		Ⅲ層(0.05～0.2)灰		
	30580	25574		Ⅳ層(0.05～0.2)黄		
26－D2－ｱ	30610	25570	61.110	Ⅰ層(0.05)　Ⅴa層(2.2～)グライ	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30610	25566		Ⅱ層(0.5)灰　Ⅴb層(0.5～)マージ		
	30606	25566		Ⅲ層(0.1)暗		
	30606	25570		Ⅳ層(0.05～0.2)灰		
26－D4－ｱ	30610	25510	63.060	Ⅰ層(0.05)	-0.05～0.6	
	30610	25508		Ⅱ層(0.05～0.2)暗		
	30608	25508		Ⅴ層(0.1～0.2)マージ		
	30608	25510				
26－D9－ﾄ	30587.301	25336	52.563	Ⅰ層(0.3～0.5)	-0.8～1.3	Ⅰ層から厨子甕片出土。
	30587.301	25332		Ⅴ層(0.4～1.0)マージ		
	30583.301	25332				
	30583.301	25336				
26－D9－ﾅ	30582	25360	54.233	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.5～-1	
	30582	25358		Ⅱ層(0.1～0.3)黄		
	30580	25358		Ⅴ層(0.2～)マージ		
	30580	25360				

第２表ｖ　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
26－E1－ﾆ	30556	25594	61.106	Ⅰ層(0.4)	検出せず	
	30556	25590		Ⅱ層(0.05～0.4)灰		
	30552	25590		Ⅴ層(2.8～)グライ		
	30552	25594				
26－E3－ｱ	30580	25540	61.340	Ⅰ層(0.05)　Ⅳb層(0.4～0.6)暗	検出せず	Ⅳｂ層から石器出土。
	30580	25538		Ⅱ層(0.6～0.7)黄　Ⅴ層(0.2～)マージ		
	30578	25538		Ⅲ層(0.1)暗		
	30578	25540		Ⅳａ層(0.4～0.5)黄		
26－E9－ﾅ	30552	25360	57.889	Ⅰ層(0.2～0.3)	-0.2～-0.6	
	30552	25358		Ⅱ層(0.05～0.3)暗		
	30550	25358		Ⅴ層(0.05～)マージ		
	30550	25360				
26－F1－ｵ	30550	25574	61.084	Ⅰ層(0.05～0.2)　Ⅴ層(1.0～)グライ	検出せず	Ⅳ層から貝塚中期土器出土。
	30550	25570		Ⅱ層(0.4)灰		
	30546	25570		Ⅲ層(0.05～0.6)灰		
	30546	25574		Ⅳ層(0.5～)黄		
26－F3－ｱ	30550	25540	62.110	Ⅰ層(0.05)　Ⅳｂ層(0.2～0.6)黄	1.8	
	30550	25538		Ⅱ層(0.2～0.3)黄　Ⅴ層(1.2～)マージ		
	30548	25538		Ⅲ層(0.1)暗		
	30548	25540		Ⅳａ層(0.1)暗		
26－F9－ｴ	30550	25338	54.030	Ⅰ層(0.05～0.4)	0.1～0.6	
	30550	25336		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30548	25336				
	30548	25338				
26－F9－ﾉ	30522	25332	57.340	Ⅰ層(0.3～0.6)	-0.5～0.9	
	30522	25330		Ⅱ層(0.3)暗		
	30520	25330				
	30520	25332				
26－G2－ｵ	30520	25544	62.506	Ⅰ層(0.2～0.4)	-0.8～1.1	
	30520	25540		Ⅴ層(0.5～0.8)マージ		
	30516	25540				
	30516	25544				
26－H8－ｵ	30490	25365	64.543	Ⅰ層(0.1～0.2)	-0.3～-0.6	
	30490	25363		Ⅱ層(0.2～0.3)暗		
	30488	25363		Ⅴ層(0.05～)マージ		
	30488	25365				
26－H9－ｵ	30490	25332	63.150	Ⅰ層(0.05～0.5)	-0.05～0.7	
	30490	25330		Ⅱ層(0.05～0.2)暗		
	30488	25330				
	30488	25332				
27－F1-ｲ	30550	25294	57.577	Ⅰ層(0.2～)	-0.05～0.2	
	30550	25290				
	30546	25290				
	30546	25294				
27－F1-ｺ	30542	25274	59.149	Ⅰ層(0.2～0.3)	-0.3～0.5	
	30542	25270		Ⅱ層(0.05～0.2)黄		
	30538	25270		Ⅴ層(0.05～0.2)マージ		
	30538	25274				

第２表w　試掘データ（Ⅱ区）

グリッド	X座標	Y座標	標高(m)	層序＜層名(厚さm)土色＞	岩盤検出レベル(地表下-m)	遺物・遺構等
27－F2－ナ	30522	25270	62.660	Ⅰ層(0.05) Ⅱ層(0.05～0.4)暗 Ⅴ層(0.1～)マージ	0～-0.7	
	30522	25268				
	30520	25268				
	30520	25270				
27－G1－ア	30520	25300	61.160	Ⅰ層(0.05) Ⅱ層(0.05～0.1)暗 Ⅴ層(0.05～)マージ	0～-0.2	Ⅰ層から沖縄産陶器に混じり、類須恵器・貝塚後期土器出土。
	30520	25298				
	30518	25298				
	30518	25300				
27－G3－カ	30514	25240	61.929	Ⅰ層(0.5～0.8) Ⅱ層(0.1～0.6)黄 Ⅴ層(0.3～0.8)マージ	-1.3～１.8	
	30514	25236				
	30510	25236				
	30510	25240				

第１・２表　凡例

１．この表は、各グリッドの四方の座標位置、北東隅の標高、層序、岩盤検出レベルおよび遺物・遺構の概略をデータ化したものである。

２．座標は各グリッドは基本的に方形であるので、その四方の値を示した。また、標高は、その北東隅の地表面の値である。

３．層名は第Ⅲ章の記載に従っている。暗は暗褐色系、黄は黄褐色系、灰オリーブは灰と略した。（）内はその層の厚さ。

４．岩盤検出レベルは、地表面から－mで表示した。

５．遺物・遺構の概略は、適宜必要と思われる内容を記した。Ⅰ・Ⅱ層には基本的に19～20世紀の沖縄産陶器やガラス等が出土しているが、割愛した。

第６章　自然科学分析

第１節　平成14年度Ⅰ・Ⅱ区における火山灰および花粉、植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．土層とテフラ

１．はじめに

南西諸島とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、姶良カルデラや硫黄鳥島火山などに由来すると考えられているテフラ（火山，いわゆる火山灰）が認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代の不明な土層が検出された普天間基地内埋蔵文化財分布調査でも、地質調査を行って土層層序の記載を行うとともに、採取された試料を対象に火山ガラス比分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することを試みた。調査分析の対象となった地点は、フテ70-D5-タトレンチ、フテ70-C5-ナトレンチ、フテ62-D8-イトレンチ、フテ62-B5-セトレンチ（北壁)、フテ62-B5-セトレンチ（西壁)、フテ15-F1-オトレンチ、フテ15-D9-アトレンチ（北壁)、フテ15-D9-アトレンチ（遺構１)、フテ15-D9-アトレンチ（北西サブトレンチ）の９地点である。

２．土層の層序

（１）フテ70-D5-タトレンチ

フテ70-D5-タトレンチの南壁では、隆起サンゴ礁の上位に下位より灰褐色土（層厚38cm)、灰褐色土（層厚36cm)、若干色調が暗い灰褐色土（層厚23cm)、褐色粘質土（層厚15cm)、黄褐色砂質土（層厚７cm)、粒径が良く揃った黄色砂層（層厚９cm)、褐色砂層（層厚７cm)、砂混じり褐色土（層厚12cm)、サンゴブロック混じり表土（層厚41cm）が認められる（第23図１)。これらのうち、褐色砂層と砂混じり褐色土については、盛土と考えられている。

（２）フテ70-C5-ナトレンチ

フテ70-C5-ナトレンチでは、下位より褐色土（層厚85cm以上)、灰褐色土（層厚15cm)、褐色土（層厚15cm)、灰褐色砂質土（層厚18cm)、灰色土ブロック混じり褐色土（層厚17cm)、黄白色砂層（層厚64cm）が認められる（第23図２)。これらのうち灰褐色砂質土および灰色土ブロック混じり褐色土については何らかの攪乱を受けた土層、黄白色砂層（層厚64cm）は盛土と考えられている。

（３）フテ62-D8-イトレンチ

フテ62-D8-イトレンチについては、隆起サンゴ礁の上位に、下位より褐色粘質土（層厚８cm，７層)、黄褐色土（層厚９cm)、橙色がかった褐色土（層厚17cm，以上６層)、灰色土（層厚16cm，５層)、砂混じり黄褐色土（層厚13cm，４層)、炭化物を含む砂混じり灰色土（層厚13cm)、灰色砂質土（層厚８cm，以上３層)。炭化物混じり灰色砂質土（層厚21cm，２層)、炭化物混じり灰色砂質土（層厚13cm，１層)、盛土（層厚121cm)、暗灰色表土（層厚６cm）からなる（第23図３)。

（４）フテ62-B5-セトレンチ（北壁)

フテ62-B5-セトレンチ北壁では、隆起サンゴ礁の上位に、褐色粘質土（層厚31cm)、粒径が良く揃った黄色砂層（層厚16cm)、黄褐色砂質土（層厚11cm)、若干灰色がかった褐色土（層厚23cm)、黄色砂質土（層厚12cm)、砂混じりで若干赤みを帯びた褐色土（層厚34cm)、灰色砂質土（層厚12cm)、盛土（層厚108cm)、暗灰色土（層厚５cm）が認められる（第23図４)。発掘調査では、５層と３層から青磁片が検出されている。

（５）フテ62-B5-セトレンチ（西壁）

フテ62-B5-セトレンチ西壁では、下位より赤褐色土（層厚20cm以上)、黄褐色砂質土（層厚24cm）が認められる（第23図５)。

（６）フテ15-F1-オトレンチ

フテ15-F1-オトレンチでは、下位より褐色土（層厚25cm以上)、若干灰色がかった褐色土（層厚20cm)、灰褐色土（層厚33cm)、若干色調が暗い灰色土（層厚５cm)、盛土（層厚103cm）が認められる。ここでは、灰褐色土と若干色調が暗い灰色土から、近世の遺物が検出されている（第23図６)。

（７）フテ15-D9-アトレンチ（北壁）

フテ15-D9-アトレンチ北壁では、下位より灰褐色土（層厚15cm以上)、若干色調が明るい褐色土（層厚16cm)、灰褐色土（層厚27cm)、暗灰褐色土（層厚７cm）が認められる（第23図７)。

（８）フテ15-D9-アトレンチ（竪穴住居跡１）

フテ15-D9-アトレンチにおける竪穴住居跡１の土層は、下位より褐色土（層厚５cm以上，Ⅴｂ層)、暗灰色土（層厚15cm，Ⅳｄ層)、黒灰褐色土（層厚11cm，Ⅳｃ層)、暗灰褐色土（層厚８cm，Ⅳｂ層)、より色調が暗い暗灰褐色土（層厚14cm，Ⅳａ層）が認められる（第23図８)。発掘調査では、Ⅴｂ層上面が床面、またⅣｄ層が貼床構成層の可能性が考えられている。

（９）フテ15-D9-アトレンチ（北西サブトレンチ）

フテ15-D9-アトレンチ（北西サブトレンチ）では、褐色土（層厚８cm以上，Ⅴｂ層）の上位に、黒灰褐色土（層厚６cm）と、暗灰褐色土（層厚27cm）が認められた（第23図９)。

３．火山ガラス比分析

（１）分析試料と分析方法

地質調査の対象とした地点のうち、フテ62-D8-イトレンチ、フテ62-B5-セトレンチ（北壁)、フテ62-B5-セトレンチ（西壁)、フテ15-D9-アトレンチ（北壁)、フテ15-D9-アトレンチ（竪穴住居跡１)、フテ15-D9-アトレンチ（北西サブトレンチ）の６地点において、基本的に厚さ５cmごとに設定採取された試料のうちの45点、さらに発掘調査担当者により採取された試料のうちの11点を対象に火山ガラス比分析を行い、火山ガラス質テフラの降灰層準の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

１）試料10gを秤量。
２）超音波洗浄により泥分を除去。
３）80˚Cで恒温乾燥。
４）分析篩により、1/4-1/8mmの粒子を篩別。
５）偏光顕微鏡下で500粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める。

（２）分析結果

火山ガラス比分析の結果を表１に示す。とくに含まれる火山ガラスの含有率が小さいことが予想されたことから、試料ごとに通常の２倍の500粒子の検鏡を行った。その結果、フテ62-B5-セ（西壁）の試料７において、気泡をもつ無色透明のバブル型ガラス様破片（最大径0.6mm）がごく少量認められた。また検鏡の際に、フテ15-D9-アの試料５で、微細な角閃石（0.3mm）を検出することができた。

４．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させるために、火山ガラス様破片が検出されたフテ62-B5-セ（西壁）の試料７と、細粒の角閃石が認められたフテ15-D9-アの試料５の２試料を対象に、日本列島とその周辺のテフラ・

カタログ作成に利用された温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）によりテフラ粒子の屈折率測定を試みた。

（２）測定結果

フテ62-B5-セ（西壁）の試料７については、火山ガラスなどのテフラ粒子の量が非常に少なく、屈折率の測定が困難であった。一方、フテ15-D9-アの試料５には、緑色や淡褐色の角閃石が少量含まれている。その屈折率（n2）は、1.670-1.690である。

５．考察－指標テフラとの同定

南西諸島のうち、徳之島以北の島々では、テフラが分布していることがよく知られている（石田・中川，1963，中川，1967など）。最近では、徳之島の伊仙町ガラ竿遺跡において、約2.4～2.5万年前＊１に姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田・新井，1976，1992，松本ほか，1987，村山ほか，1993，池田ほか，1995）に由来する火山ガラスが検出されたほか、同町小島永ゴなどの露頭において、ATやその上位の硫黄鳥島火山に由来すると考えられる複数のテフラが発見されている（伊仙町教育委員会・古環境研究所，未公表資料）。このほか、沖永良部島においてもATが検出されているらしい（成尾英仁氏，個人談話）。さらに沖縄本島においても、同定根拠や岩石記載的な特徴については、不明であるが、ATや、その上位にあるとされる宮古島－沖縄火山灰（MO）と呼ばれるテフラの存在が報告されている（成瀬・井上，1990，井上ほか，1993）。後者は、「茶褐色のバブルウォール型ガラス」で特徴づけられるらしい。両者の明瞭な層位関係については把握できなかったものの、本研究所の研究員も沖縄本島北部国頭村および宮古島城辺町において、これらの火山ガラスの存在を最近確認することができた。

さて今回フテ15-D9-アの試料５から検出された角閃石については、量が非常に少ないために、降灰層準について明確に言及することは難しいように思われる。しかしながら、同じような屈折率をもつ角閃石は、伊仙町小島永ゴの露頭で観察されるテフラ層中に含まれている（伊仙町教育委員会・古環境研究所，未公表資料）。ただ、沖縄本島では第三紀層である島尻層群中に凝灰岩の存在が知られており（中川，1983など）、高精度のテフラ同定のためにはより詳しい調査分析を行うことが期待される。今後、よりテフラの保存状態の良い地点において、テフラ層序を確認するとともに、テフラの屈折率測定や、信頼度の高いEPMA（エレクトロンプローブＸ線マイクロアナライザー）による火山ガラスの主成分化学組成分析などを行って、岩石記載的特徴を把握し、指標テフラとの同定を行いたい。

なおATより下位にあり、沖縄本島で検出される可能性のあるテフラとしては、約9.5～11万年前に阿多カルデラから噴出した阿多テフラ（Ata，Ui，1971，Nagaoka，1988，Machida，1999など）が沖縄本島南方で検出されているほか、約９～9.5万年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界葛原テフラ（K-Tz，町田ほか，1983，Nagaoka，1988，Machida，1999など）、約8.4～8.9万年前に阿蘇カルデラから噴出した阿蘇４火山灰（Aso-4，町田ほか，1985，Machida，1999）などが挙げられる。一方、ATより上位のテフラとしては、約6,300年前＊１に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，町田・新井，1978）が考えられる。ATと、K-Ahに同定される可能性のあるテフラ粒子についても、すでに沖縄本島周辺の海底堆積物から検出されている（町田・新井，1992）。さらに台湾の火山や琉球列島および八重山諸島周辺に位置する海底火山に由来するテフラも、各地に降灰している可能性があることから、より詳細なテフラに関する調査分析を今後も期待したい。

６．小結

普天間基地内埋蔵文化財調査に伴い、地質調査を行って土層層序の記載を行うとともに、火山ガラス比分析および屈折率測定を試みた。その結果、ごくわずかながら、角閃石を検出することができた。

成尾英仁鹿児島県立武岡台高校教諭には、奄美諸島におけるテフラの研究の動向について、ご教示いただいた。ここに記して御礼申し上げます。

＊1　放射性炭素（１４C）年代.

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」，　p.138-148.

池田晃子・奥野　充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫（1995）南九州，姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による１４C年代．第四紀研究，34，p.377-379.

井上克弘・佐竹英樹・若松善彦・溝田智俊・日下部　実（1993）南西諸島における赤黄色土壌群母材の広域　風成塵起源－．第四紀研究，32，p.139-155.

石田琢二・中川久夫（1963）徳之島に発見された火山灰について．地質雑，69，p.331.

Machida，H.（1999）Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan: recent progress. Quat. Res. 38，p.194-201.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ－アカホヤ火山灰．第四紀研究，　17，p.143-163.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫・百瀬　貢（1985）阿蘇４火山灰－分布の広域性と後期更新世示標層としての意義－．　火山，30，p.49-70.

町田　洋・新井房夫・長岡信治（1983）広域テフラによる南関東と南九州の後期更新世海成段丘の対比．日本第四紀学会講演要旨集，no.13，p.45-46.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗（1987）姶良Tn火山灰（AT）の１４C年代．第四紀研究，26，p.79-　83.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村　真・安田尚登・平　朝彦（1993）四国沖ピストンコア試料を用いた　AT火山灰噴出年代の再検討－タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の１４C年代．地質雑，99，　p.787-798.

Nagaoka，S.（1988）The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., 23，p.49-122.

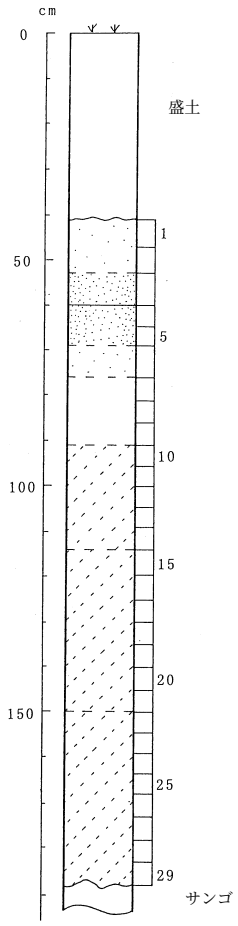
中川久夫（1967）奄美諸島徳之島・沖永良部島・与論島・喜界島の地質（１）．東北大地質古生物研邦報，　no.63，p.1-39.

中川久夫（1983）琉球列島新生代地史の概要．地質学論集，no.22，p.67-79.

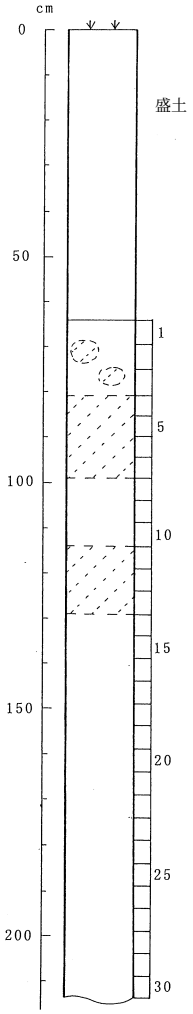
成瀬敏郎・井上克弘（1990）大陸よりの使者－古環境研究所を語る風成塵．サンゴ礁地域研究グループ編　「熱き自然－サンゴ礁の環境誌」，古今書院，p.248-267.

小野晃司・松本征夫・宮久三千年・寺岡易司・神戸信伸（1977）竹田地域の地質．地域地質研究報告（５万　分の１地質図幅），地質調査所，145p.

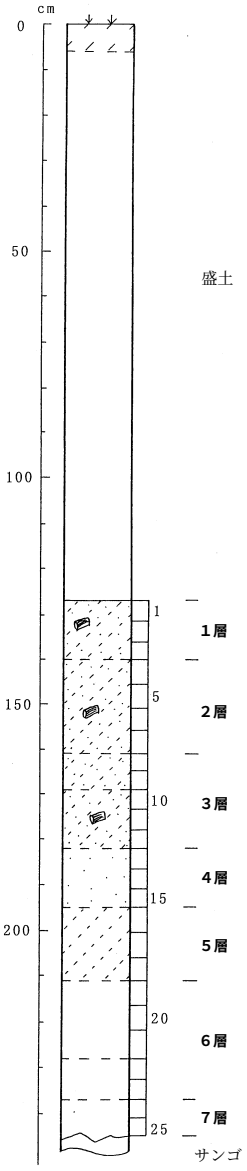
Ui，T.（1971）Genesis of magma and structure of magma chamber of several pyroclastic flows in Japan. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Ser 2，18，p.53-127.



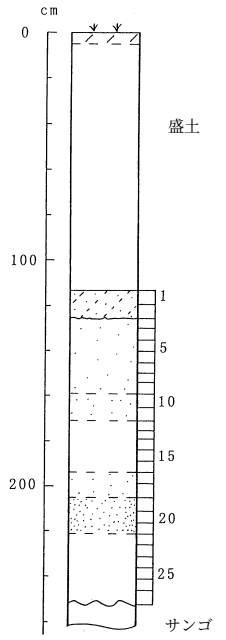
23-1
フテ70-C5-タトレンチ



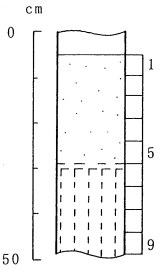
23-2
フテ70-C5-ナトレンチ



23-3
フテ62-D8-イトレンチ

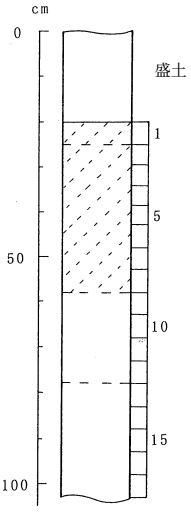


23-4
フテ62-B5-セトレンチ北壁

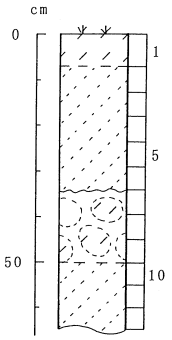


23-5
フテ62-B5-セトレンチ西壁

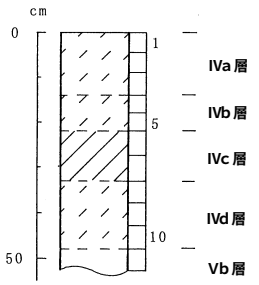
※数字はテフラ分析の試料番号



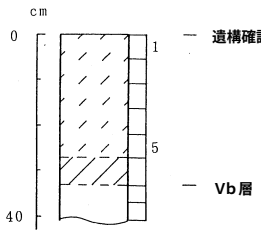
23-6
フテ15-F1-オトレンチ



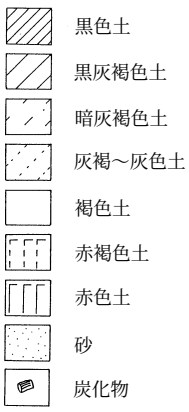
23-7
フテ15-D9-アトレンチ北壁



23-8遺構1覆土



23-9
（サブトレンチ）



第23図　普天間飛行場内（14・15年度Ⅰ区）テフラ分析柱状断面図

Ⅱ．花粉分析

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

２．試料

試料は、72-F2-テ西壁、62-G10-ウ西壁、62-F10-ス北壁、71-E3-ウ東壁、71-B6-サ西壁の５地点について、発掘調査の担当者によって採取された計８点である。試料の詳細を第24図に示す。

３．方法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）５％水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
２）水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
３）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
４）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
５）再び氷酢酸を加えて水洗処理
６）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
７）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

４．結果

（１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉12、樹木花粉と草本花粉を含むもの１、草本花粉14、シダ植物胞子２形態の計29である。分析結果を第３表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（図版３）。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、ハンノキ属、シイ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、サンショウ属、イスノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、タデ属サナエタデ節、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、キツネノマゴ、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

（２）花粉群集の特徴

１）72-F2-テ西壁

Ⅲa層では、草本花粉の占める割合が極めて高い。草本花粉では、ヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科

(イネ属型を含む) が優占し、アブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科などが伴われる。Ⅲb層では、ヨモギ属やイネ科などが検出されたが、いずれも少量である。

２）62-G10-ウ西壁

Ⅲc層では、ヨモギ属やイネ科などが検出されたが、いずれも少量である。なお、シダ植物胞子が比較的多く検出された。

３）62-F10-ス北壁

Ⅲc層では、シダ植物胞子の占める割合が高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科が優占し、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、マツ属複維管束亜属やハンノキ属などが検出された。Ⅲb層では、草本花粉とシダ植物胞子の占める割合が同程度である。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科が優占し、カヤツリグサ科などが伴われる。

４）71-E3-ウ東壁

Ⅱ層下部では、樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む)、カヤツリグサ科が優占、アブラナ科、チドメグサ亜科、キツネノマゴ、タンポポ亜科、ヨモギ属、イボクサなどが伴われる。樹木花粉では、マツ属複維管亜属が優占し、コナラ属アカガシ亜属などが伴われる。Ⅱ層上部でも、おおむね同様の分類群が検出されたが、いずれも少量である。

５）71-B6-サ西壁

Ⅲb層では、草本花粉の占める割合が極めて高い。草本花粉では、ヨモギ属が優占し、イネ科（イネ属型を含む)、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。

５．花粉分析から推定される植生と環境

１）72-F2-テ西壁

Ⅲa層の堆積当時は、ヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科を主としてアブラナ科、チドメグサ亜科、タンポポ亜科なども生育する比較的乾燥した人里の環境であったと推定される。また、イネ属型が認められることから、周辺で稲作が行われていた可能性が示唆される。アブラナ科には多くの栽培植物が含まれており、これらを栽培する畑作が行われていた可能性も示唆される。

Ⅲb層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが、Ⅲa層とおおむね同様であった可能性が考えられる。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

２）62-G10-ウ西壁

Ⅲc層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが、シダ植物やヨモギ属などが生育する比較的乾燥した環境が示唆される。

３）62-F10-ス北壁

Ⅲc層の堆積当時は、シダ植物、ヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科などが生育する比較的乾燥した人里の環境であったと考えられ、遺跡周辺にはマツ属やハンノキ属などの樹木も生育していたと推定される。Ⅲb層では、ヨモギ属、イネ科、チドメグサ亜科、シダ植物などが生育する比較的乾燥した草原的な環境が推定される。

４）71-E3-ウ東壁

Ⅱ層下部の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、チドメグサ亜科、キツネノマゴ、タンポポ亜科、ヨモギ属などが生育する人里の環境であったと考えられ、遺跡周辺にはマツ属などの樹木も生育していたと推定される。イネ属型および水田雑草の性格をもつイボクサが認められることから、周辺で水田稲

作が行われていた可能性が示唆される。アブラナ科には多くの栽培植物が含まれており、これらを栽培する畑作が行われていた可能性も示唆される。

Ⅱ層上部では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが、Ⅱ層下部とおおむね同様であった可能性が考えられる。

5）71-B6-サ西壁

Ⅲb層の堆積当時は、ヨモギ属を主としてカヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、タンポポ亜科、キク亜科なども生育する比較的乾燥した人里の環境であったと推定される。また、イネ属型が認められることから、周辺で稲作が行われていた可能性が示唆される。

文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

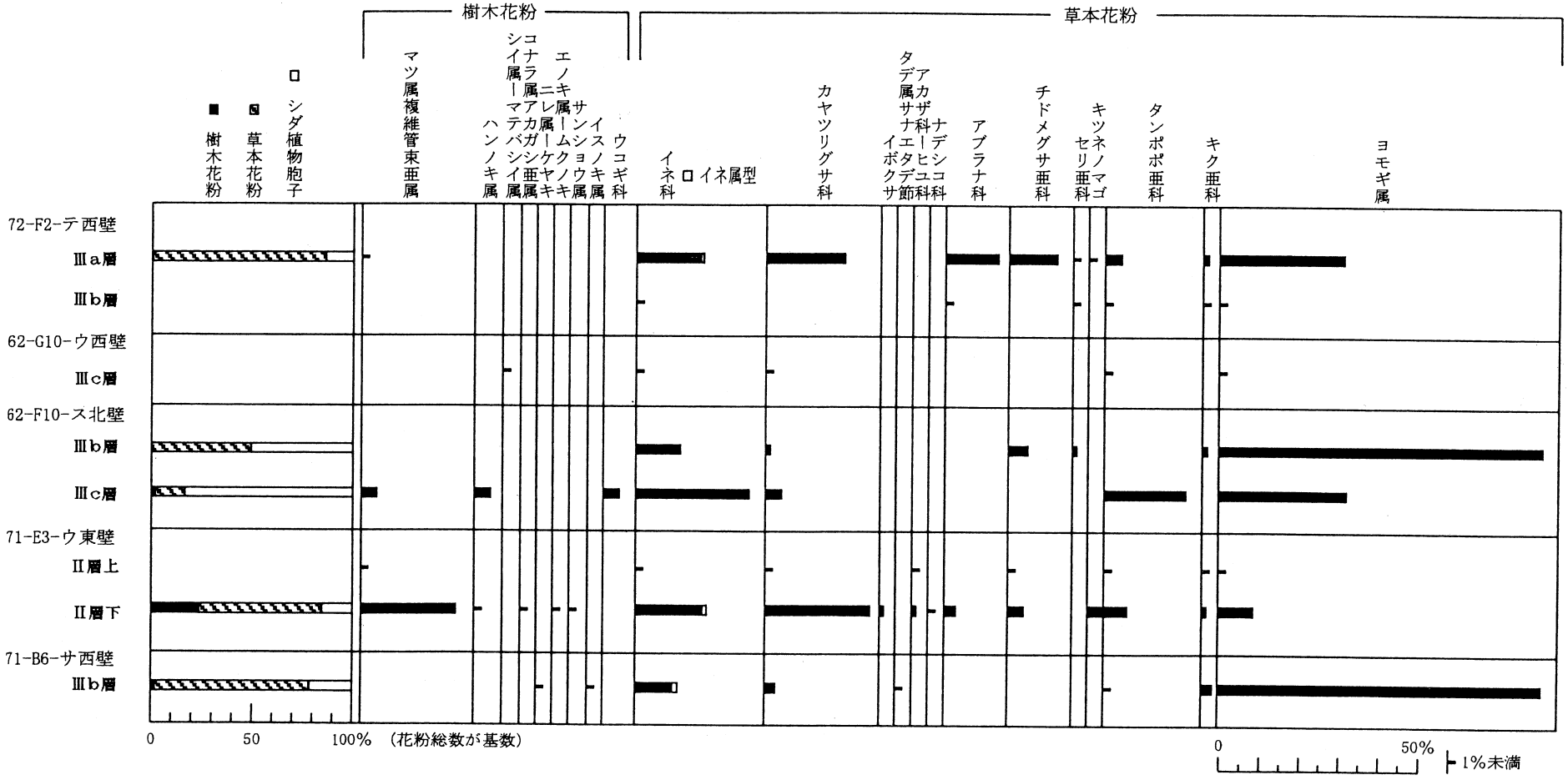
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

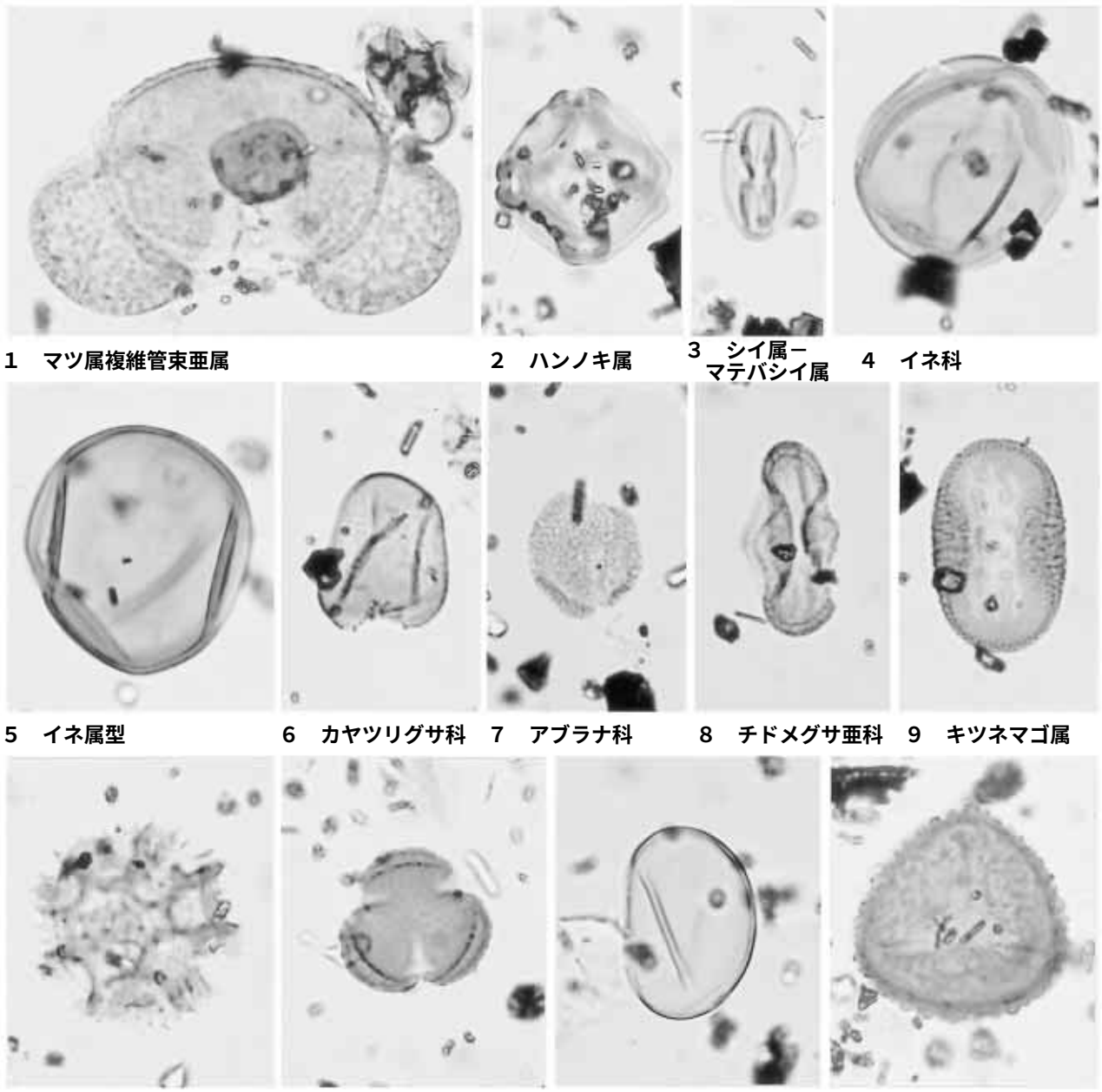
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

第３表　花粉分析結果

分類群		72-F2-テ西壁		62-G10-ウ西壁	62-F10-ス北壁		71-E3-ウ東壁		71-B6-サ西壁
学　名	和　名	IIIa層	IIIb層	IIIc層	IIIb層	IIIc層	II層上	II層下	IIIb層
Arborealpollen	樹木花粉								
Pinussubgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	1				1	13	41	
Alnus	ハンノキ属					1		1	
Castanopsis-Pasania	シイ属-マテバシイ属			1					
Quercussubgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属							1	
Ulmus-Zelkovaserrata	ニレ属-ケヤキ								1
Celtis-Aphanantheaspera	エノキ属-ムクノキ							1	
Zanthoxylum	サンショウ属							1	
Distylium	イスノキ属								1
Arboreal・Nonarborealpollen	樹木・草本花粉								
Araliaceae	ウコギ科					1			
Nonarboreal　pollen	草本花粉								
Gramineae	イネ科	24	4	2	9	7	7	29	14
Oryza type	イネ属型	1					1	2	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	29		1	1	1	11	45	4
Aneilemakeisak	イボクサ							2	
Polygonumsect.Persicaria	タデ属サナエタデ節								1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科						4	2	
Caryophyllaceae	ナデシコ科							1	
Cruciferae	アブラナ科	20	2					5	
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	18			4		1	7	
Apioideae	セリ亜科	1	1		1				
Justicia Procumbens	キツネノマゴ	1						6	
Lactucoideae	タンポポ亜科	6	1	3		5	4	10	1
Asteroideae	キク亜科	2	1		1		1	2	4
Artemisia	ヨモギ属	47	16	7	65	8	4	15	120
Fern spore	シダ植物胞子								
Monolatetypesspore	単条溝胞子	16	8	85	69	109	2	9	30
Trilatetypespore	三条溝胞子	8	3	12	14	11	22	23	11
Arborealpollen	樹木花粉	1	0	1	0	2	13	45	2
Arboreal ・Nonarborealpollen	樹木・草本花粉	0	0	0	0	1	0	0	0
Nonarborealpollen	草本花粉	149	25	13	81	21	33	126	146
Totalpollen	花粉総数	150	25	14	81	24	46	171	148
Unknownpollen	未同定花粉	8	0	1	2	1	6	11	2
Fernspore	シダ植物胞子	24	11	97	83	120	24	32	41
Heluminth　eggs	寄生虫卵	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)



第24図　花粉ダイアグラム



図版３　花粉・胞子

Ⅲ．植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984)。

２．試料

試料は、72-F2-テ西壁、62-G10-ウ西壁、62-F10-ス北壁、71-E3-ウ東壁、71-B6-サ西壁の５地点から採取された計８点である。試料の詳細を第25図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20μm以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10－５g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属（ヨシ）の換算係数は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

（１）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第４表および第25図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（図版４）。

〔イネ科〕
ヨシ属、ダンチク属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）、ウシクサ族Ｂ（大型）

〔イネ科－タケ亜科〕
メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、未分類等

〔イネ科－その他〕
表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕
ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）、マンサク科（イスノキ属）、その他

（２）植物珪酸体の検出状況

１）72-F2-テ西壁

Ⅲa層では、ススキ属型が比較的多く検出され、ウシクサ族Ａなども検出された。Ⅲb層ではウシクサ族Ａなどが検出されたが、いずれも少量である。

２）62-G10-ウ西壁

Ⅲc層では、ススキ属型が比較的多く検出され、ヨシ属、ダンチク属、ウシクサ族Ａなども検出された。また、ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）も検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。

３）62-F10-ス北壁

Ⅲb層とⅢc層では、ススキ属型やウシクサ族Ａなどが検出されたが、いずれも少量である。

４）71-E3-ウ東壁

Ⅱ層上部とⅡ層下部では、ススキ属型やウシクサ族Ａなどが検出されたが、いずれも少量である。

５）71-B6-サ西壁

Ⅲb層では、ススキ属型が多く検出され、ウシクサ族Ａやメダケ節型なども検出された。

５．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

（１）72-F2-テ西壁

ⅢaⅢ層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属などが生育する草原的な環境であったと考えられ、照葉樹林はほとんど見られなかったと推定される。なお、今回の結果では花粉分析で検出されたイネ属型（イネ）が認められないが、これは植物珪酸体が花粉よりも現地性が高く、周辺地域の植生が反映されていないためと考えられる。ⅢbⅢ層の堆積当時は、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。

（２）62-G10-ウ西壁

ⅢcⅢ層の堆積当時は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはススキ属やチガヤ属、ダンチク属などが生育する草原的なところも分布していたと推定される。また、遺跡周辺にはシイ類、カシ類、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

（３）62-F10-ス北壁

ⅢbⅢ層およびⅢcⅢ層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属は少量見られるものの、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと推定される。なお、花粉分析ではイネ科が比較的多く認められることから、風化作用などによって植物珪酸体が分解消失したことも想定される。

（４）71-E3-ウ東壁

Ⅱ層上部およびⅡ層下部の堆積当時は、ススキ属などは少量見られるものの、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと推定される。なお、花粉分析ではイネ科が比較的多く認められることから、風化作用などによって植物珪酸体が分解消失したことも想定される。

（５）71-B6-サ西壁

ⅢbⅢ層の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属などが生育する草原的な環境であったと考えられ、リュウキュウチクなどのタケ亜科植物も見られたと推定される。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38(2)，p.109-123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

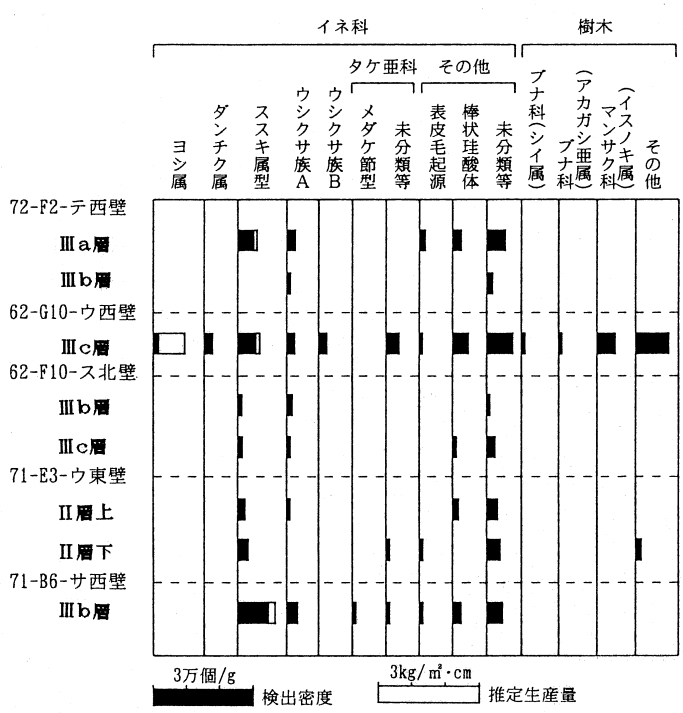
第４表　植物珪酸体分析結果

検出密度(単位：×100個/g)

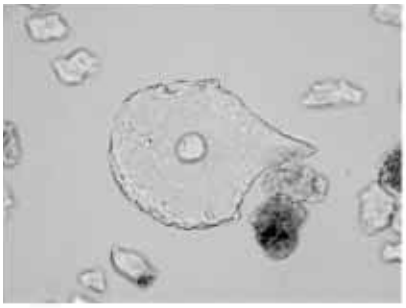
地点・試料		62－F10－ス北壁		62－G10－ウ西壁	71－B6－サ西壁	71－E3－ウ東壁		72－F2－テ西壁	
分類群	学名	IIIb層	IIIc層	IIIc層	IIIb層	II層上部	II層下部	IIIa層	IIIb層
イネ科	*Gramineae(Grasses)*								
ヨシ属	*Phragmites(reed)*			15					
ダンチク属	*Arundo*			22					
ススキ属型	*Miscanthustype*	7	8	52	91	15	23	45	
ウシクサ族A	*AndropogoneaeAtype*	14	8	22	30	7		23	8
ウシクサ族B	*AndropogoneaeBtype*			22					
タケ亜科	*Bambusoideae(Bamboo)*								
メダケ節型	*Pleioblastussect.Medake*				8				
未分類等	*Others*			37	8		8		
その他のイネ科	*Others*								
表皮毛起源	*Huskhairorigin*			7	8		8	15	
棒状珪酸体	*Rod - shaped*		8	45	23	15		23	
未分類等	*Others*	7	23	75	45	30	38	53	15
樹木起源	*Arboreal*								
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*			7					
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercussubgen.Cyclobalanopsis*			7					
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*			52					
その他	*Others*			97			15		
植物珪酸体総数	*Total*	28	47	460	213	67	92	159	23

おもな分類群の推定生産量(単位：kg/㎡・cm)

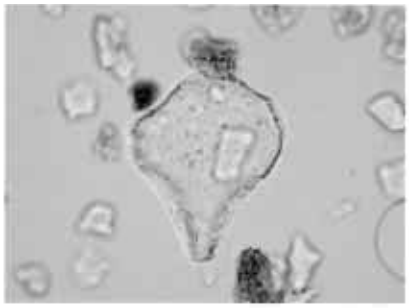
ヨシ属	*Phragmites(reed)*			0.94					
ススキ属型	*Miscanthustype*	0.09	0.09	0.65	1.13	0.19	0.28	0.56	
メダケ節型	*Pleioblastussect.Medake*				0.09				



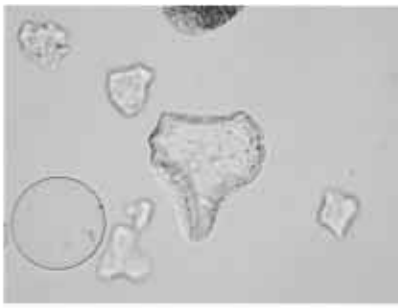
第25図　植物珪酸体分析結果



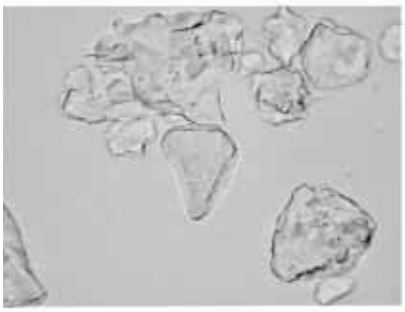
ヨシ属
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**



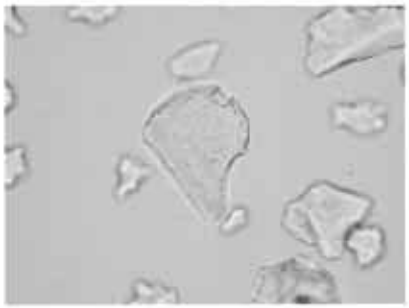
ダンチク属
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**



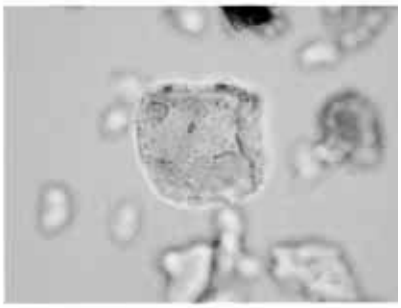
ダンチク属
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**



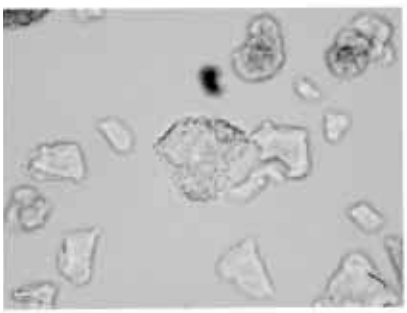
ススキ属型
71－B6－**サ西壁　Ⅲ層**



ススキ属型
72－F2－**テ西壁　Ⅲ層**



イネ科（その他）
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**



タケ亜科
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**

棒状珪酸体
72－F2－**テ西壁　Ⅲ層**

マンサク科（イスノキ属）
62－G10－**ウ西壁　Ⅲf層－⑤**

図版４　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

50μm

第２節　15－Ｄ９－ア検出遺構における放射性炭素年代測定・炭化材同定・植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

普天間基地内の北西端部付近に位置する伊佐上原遺跡群では、これまでの発掘調査により、室川上層式や宇佐浜式など本土における縄文時代後期後半～晩期前半とされる時期の遺物や遺構が検出されている。今回の試掘調査では、フテ15-D9-アにおいて竪穴遺構が検出され、住居跡の可能性も含めて、その性格が課題とされた。

竪穴遺構の覆土は、灰褐色を呈するシルトであるが、炭化物や赤褐色の焼土粒と考えられる砕屑物を比較的多く含み、土器片などの遺物も出土している。現地調査において、これらの状況が確認されたことから、覆土中には遺構の機能時あるいは廃棄後それほど時間を経ていない時期の周囲の環境に関わる情報が含まれていると考えた。本報告では、覆土から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代に関する資料を得るとともに、炭化材の樹種同定と、覆土の植物珪酸体分析を行い、当時の古植生について検討する。

Ⅰ．層序

（１）地形および土層について

遺跡の位置する普天間基地は、沖縄本島中南部でも比較的広い規模を示す、琉球石灰岩からなる段丘の上面に構築されたものである。琉球石灰岩からなる段丘は、更新世に形成されたものであり、大きくは40～60万年前の上位段丘、20万年前の中位段丘、12万年前の低位段丘に区分されている（木庭，1990)。さらに、上原(2000）は、宜野湾市域に分布する中位段丘と低位段丘について、標高90m以上の中位段丘上位面、同50～90mの中位段丘下位面、同30～40mの低位段丘上位面、同30～10mの低位段丘下位面に細分した。市域では中位段丘下位面が最も広く分布し、普天間基地も全てこの段丘上に構築されている。遺跡の位置は、中位段丘低位面の平坦面上にあるが、その北側には段丘崖があり、崖下には伊佐の市街が載る狭小な低位段丘上位面がある。

今回の試掘調査により確認された土層は、基本的には20万年前以降に石灰岩上面に形成された土壌層ということになる。島尻マージと呼ばれている南西諸島における石灰岩段丘上の土壌層は、最近では、偏西風により大陸からもたらされた風成塵（いわゆる黄砂）を起源とするという研究例が多く示されており（成瀬，2001)、累積性の土壌である側面も持っているようである。ただし、段丘上の土壌層の中に20万年間の累積が全て保存されているとは考えられず、おそらく数万年間ぐらいのものと考えられるが、確認された例はなく、詳細は明らかにされていない。

（２）調査区の層序

ａ）基本土層

上述のように普天間基地内における土層も、石灰岩段丘上の土壌層であるから、累積性土壌の側面を持ち、色調や粒度などにより層位的な細分が可能である。当社では、これまでの普天間基地内の東半における土壌層の調査から、上位より10層に分けた基本層序を設定している。しかしながら、今回の調査は普天間基地内の西半にあたり、東半と統一した層序を使用するには、未だ十分な比較検討が行えていない。そこで、県立埋蔵文化財センターが本報告書第Ⅲ・Ⅴ章で使用している層序に準拠する。

Ⅰ層：厚さ7cm程度の現表土。

Ⅱa層：厚さ約20cm程度、暗灰褐色を呈し、石灰岩礫を多く含む旧耕作土層。炭化粒や焼土粒なども認められる。

Ⅱb層：厚さ約10cm程度のⅡa層よりも若干色調が明るい暗灰褐色土層。石灰岩礫、炭化粒、焼土粒などの状況はⅡa層とほぼ同様である。

Ⅴa層：厚さ約10cm程度の灰褐色土層。上位のⅡb層の色調に比べるとかなり褐色味が強く、下位のマージへの漸移層とみることができる。ただ、石灰岩礫は包含されないが、焼土粒および炭化粒が認められることから、人為による撹乱の可能性がある。今回検出された竪穴遺構の掘り込み面は、Ⅴa層上部にあると考えられる。なお、前述のように、竪穴遺構の年代は、出土遺物からは縄文時代後期～晩期とされていることから、Ⅴa層はこの時期以前の人為による撹乱層ということになる。縄文時代における人為撹乱土とは、具体的にどのような人為であったのか、Ⅴa層が調査区内で広く認められることも考慮すると、今後、重要な

課題となる可能性がある。

Ⅴb・d層：厚さ約20cm程度の褐色土、いわゆるマージである。石灰岩の直上の土層であり、粘土質である。

Ⅵ層（岩盤）：段丘を構成する琉球石灰岩である。

b）竪穴遺構覆土

竪穴遺構の覆土については主に色調から分層されている。現地での土層断面観察により、覆土は基本土層のⅡ層に由来すると考えられる。すなわち、暗灰褐色を呈し、炭化粒や焼土粒および土器片を含んでいる。また、基本土層のⅡ層上半部に比較的多く含まれていた石灰岩礫はほとんど認められない。竪穴遺構の覆土の層名は、現場担当者の見解に従い、Ⅳ層としている。

Ⅳa・i層：検出された竪穴遺構の最上位の覆土層。基本土層のⅤa層に比べてやや暗い色調を呈する。

Ⅳb・c・d・e層：Ⅳa・i層の下位に堆積する覆土層。Ⅳa・i層よりさらに暗い色調を呈し、Ⅳc層が最も暗い。する。Ⅳc層からは千枚岩製の石斧が出土しており、覆土層の主体をなす。Ⅳd・e層は、遺構床面直上の覆土層である。

Ⅳj層：竪穴遺構の壁面の外側に認められた層位。竪穴遺構とは別の遺構の覆土であると考えられる。Ⅳj層からは、竪穴遺構出土土器よりも古手と考えられる土器が出土している。

Ⅴc層：本層も竪穴遺構の外側に認識された層位であり、別遺構の覆土である可能性がある。

c）試料の採取

基本土層については、観察した東壁断面において、現表土からⅥ層直上まで層位方向に20cmの長さの柱状試料３本と同７cmの柱状試料１本の計４本の試料を採取した。上位より柱状試料１～４とする。

覆土については、遺構内に設定されたサブトレンチのうち、南西サブトレンチ断面においてⅣa～iの各層につき、それぞれ１点ずつの層位試料（試料番号１～４）とⅣj層から試料番号７を採取し、北西サブトレンチ断面においてⅣc層とⅤc層の各層位からそれぞれ試料番号５、６を採取した。

Ⅱ．炭化材の年代と樹種

１．試料

試料は、南西区画Ⅳb・Ⅳc層から出土した炭化材６点（WC1～6)、Ⅳa層上面から出土した炭化材15点(WC7～21)、Ⅳa層から出土した炭化材１点（WC28)、Ⅳc層から出土した炭化材６点（WC22,23,29～32)、Ⅳe層から出土した炭化材２点（WC24,25)、Ⅳj層から出土した炭化材２点（WC26,27）の合計32点である。

放射性炭素年代測定は、Ⅳc層の炭化材２点（WC22,23）を合わせた１点と、Ⅳj層の炭化材２点(WC26,27）を合わせた１点の合計２点について行う。樹種同定は、年代測定を行うWC22の１点と、年代測定を行わない28点の炭化材の中から保存状態の比較的良好な４点（WC7,21,30,31）について行う。

２．方法

（１）放射性炭素年代測定

試料が少量のため、測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を用いた。

（２）樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

３．結果

放射性炭素年代測定および樹種同定結果を表１に示す。炭化材の年代（同位体補正年代）は、Ⅳc層とⅣj層の試料ともに約3100年前前後の近い値を示した。また、各試料の暦年較正を行った年代を表２に示す。Ⅳc層の試料は概ね3300～3200calBPであり、Ⅳj層の試料は概ね3400～3300calBPとなる。

炭化材の樹種は、年代測定を行ったⅣc層のWC22が広葉樹のヤマグワに同定された。その他の炭化材につ

いては、WC21が針葉樹、WC7,30,31が広葉樹であるが、いずれも小片で保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。ヤマグワの主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ヤマグワ（Morus australis Poiret）　　クワ科

環孔性のある散孔材で、道管は比較的大径、単独または２～３個が複合して疎らに散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。また、年輪界に近い小径の道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、１～６細胞幅、１～50細胞高。

４．考察

（１）年代について

前述のように、竪穴遺構から出土した土器の型式は、カヤウチバンタ式が主体とされている。沖縄諸島における土器型式に伴う放射性炭素年代の測定例は、未だ十分に整理されておらず、公表されたものでは、高宮（1994）などに僅かに認められるのみである。そこに示された編年表では、カヤウチバンタ式は前Ⅳ期から前Ⅴ期にまたがる土器形式で、その年代位置は未だ統一した見解を見ていない。前Ⅳ期の型式については、3400～3600年前（おそらく未較正値）の放射性炭素年代値が示されている。Ⅳc層の炭化材から得られた年代は、前Ⅳ期の年代よりも新しく、前Ⅴ期に近い年代と考えられる。

なお、竪穴遺構に切られている遺構の覆土の可能性があるとされたⅣj層中の炭化材の放射性炭素年代は、Ⅳc層中の炭化材より約80年古く、暦年較正値では約100年古い。これらの結果は切り合い関係の覆土断面観察と矛盾せず調和していると見られる。しかし、非常に接近した年代ともとれるので、今後は既存の14Ｃ年代値の集成が望まれる。

（２）炭化材の樹種について

炭化材の樹種は、Ⅱe層の１点がヤマグワに同定された以外は、種類不明であった。ヤマグワは、北海道から沖縄の広い範囲に生育する落葉広葉樹であり、沖縄県内では林縁部などの明るい場所に生育している。今回の結果から、本遺跡周辺に生育していたことが推定される。これらの炭化材は、いずれも火を受けていることは明らかであり、何らかの人間活動に伴って利用された可能性がある。

伊是名島の伊是名貝塚では、住居構築材等と考えられる炭化材にヤマグワ、スダジイ、マツ属複維管束亜属等が確認されている（高橋，2001）。本遺跡でも周辺に生育していたヤマグワなどの木材を構築材として利用した可能性がある。今後さらに資料を蓄積して木材利用に関する検討を行いたい。

Ⅲ．植物珪酸体分析

１．試料

試料は、竪穴遺構内に堆積したⅣc層の土壌試料（試料番号３）と竪穴遺構が掘り込まれたⅣj層の土壌試料（試料番号７）の合計２点である。

２．分析方法

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となるが、植物遺体や植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1993）。今回調査したⅣc層試料では植物の灰が見られず、土壌と混在している可能性があったことから、下記の方法で珪化組織片の抽出を試みた。

湿重５ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

３．結果

各試料からは、炭化物粒子と鉱物粒子が認められるが、植物珪酸体は全く検出されなかった。

４．考察

いずれの試料からも植物珪酸体は全く検出されなかったため、周辺植生や遺構内に存在した植物等に関する検討は困難である。

植物珪酸体が全く検出されなかったことについては、遺構内および周辺にイネ科植物が全く存在しなかったかあるいは土壌中の経年変化により分解・消失してしまったかのいずれかの可能性がある。今回の分析では、植物珪酸体を形成するイネ科以外の植物や樹木に由来する植物珪酸体も全く認められない。仮に植物珪酸体が検出されないことが、遺跡周辺にその由来となった植物が全くなかったということを示唆するのであれば、今回の場合は、イネ科植物だけではなく、植物珪酸体を形成する他の植物が全く存在していなかったことになるが、そのような状況は考えにくい。

一方、宜野湾市内では、伊佐前原第一・第二遺跡でも植物珪酸体分析が行われているが、検出個数が少なく、また検出された個体も保存状態が悪いことから、風化などの作用で分解・消失した可能性が指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1998)。この結果は、本遺跡とも類似している。これらのことから、本遺跡についても、本来はイネ科植物も周辺に生育または存在していたが、埋積後に植物珪酸体が分解した可能性がある。

Ⅳ．まとめ

今回の分析により、放射性炭素年代による竪穴遺構の年代は、およそ3100年前（未較正値）ほどになる可能性があることがわかった。この年代は、カヤウチバンタ式などの遺構から出土した土器型式の年代観と矛盾することはないが、今後、土器型式の年代観がより詳細になれば、再評価の必要もあるといえる。

一方、竪穴遺構の覆土中の炭化材や植物珪酸体から、植生を中心とした当時の環境に関する情報を得ようとしたが、いずれも得られた情報はわずかであった。これは、石灰岩段丘上という高燥な条件下では有機物無機物を問わず、物質が残りにくいことによるものであるが、今後も、段丘上の古環境推定については、分析方法の検討も含めて、類例を蓄積していく必要がある。

引用文献

木庭元晴（1990）琉球列島第四紀のサンゴ礁形成と島弧変動．サンゴ礁地域研究グループ編　日本のサンゴ礁地域１　熱い自然－サンゴ礁の環境誌，p.155-175，古今書院.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

成瀬敏郎（2001）石灰岩上の土壌．町田　洋・太田陽子・河名俊男・森脇　広・長岡信治編　日本の地形７　九州・南西諸島，p.285-286，東京大学出版会.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）自然科学分析からみた人々の生活（1）．慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論」，p.347-370，慶應義塾.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1998）伊佐前原第一遺跡における古環境復元．「宜野湾市文化財調査報告書第28集　伊佐前原第一・第二遺跡キャンプ瑞慶覧基地内の陸軍貯油施設送油管整備工事に係る緊急発掘調査報告書」，p.127-141，沖縄県宜野湾市教育委員会.

高橋　敦（2001）伊是名貝塚の炭化材分析　－貝塚時代の木材利用－．伊是名貝塚学術調査団編「伊是名貝塚　－沖縄県伊是名貝塚の調査と研究－」，p.323-327，勉誠出版.

高宮廣衛（1994）南島文化概論．縄文文化の研究６　続縄文・南島文化，p.168-179，雄山閣.

上原冨二男（2000）宜野湾市の地形・地質・水．宜野湾市史　第９巻　資料編８　自然，p.55-124.

第５表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

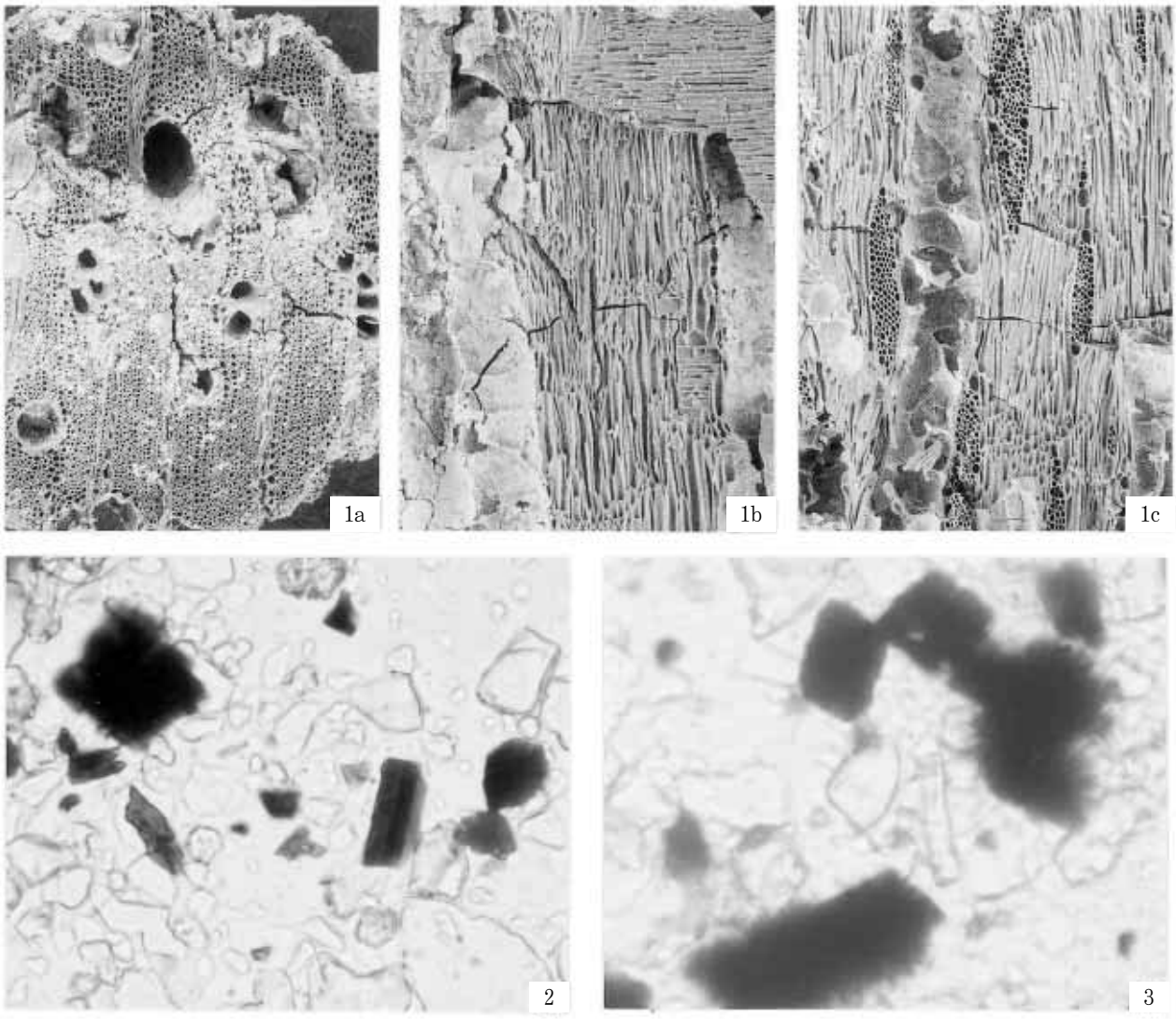
層位	番号	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
Ⅳa層上面	WC 7	広葉樹	－	－	－	－
	WC21	針葉樹	－	－	－	－
Ⅳc層	WC22,23	ヤマグワ	3050±50	-19.24	2950±50	IAAA-30331
	WC30	広葉樹				
	WC31	広葉樹				
Ⅳj層	WC26,27	未同定	3130±50	-22.46	3080±50	IAAA-30332

１）年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
２）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
３）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第６表　暦年較正結果

層位	番号	補正年代(BP)	暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
IVc層	WC22,23	3050±50	cal BC 1,391 - cal BC 1,328	cal BP 3,341 - 3,278	0.476	IAAA-30331
			cal BC 1,324 - cal BC 1,260	cal BP 3,274 - 3,210	0.483	
			cal BC 1,228 - cal BC 1,222	cal BP 3,178 - 3,172	0.041	
IVj層	WC26,27	3130±50	cal BC 1,490 - cal BC 1,480	cal BP 3,440 - 3,430	0.054	
			cal BC 1,450 - cal BC 1,371	cal BP 3,400 - 3,321	0.736	
			cal BC 1,357 - cal BC 1,352	cal BP 3,307 - 3,302	0.021	
			cal BC 1,341 - cal BC 1,317	cal BP 3,291 - 3,267	0.189	IAAA-30332

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用計算には表に示した丸める前の値を使用している。
付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。



1．ヤマグワ（IVc層；WC22）　a：木口，b：柾目，c：板目
2．植物珪酸体プレパラートの状況（試料番号３）
3．植物珪酸体プレパラートの状況（試料番号７）

200μm：1a
200μm：1b,c
50μm：2,3

図版５　炭化材・植物珪体プレパラートの状況

第７章　結語

平成14・15年度に渡って行ってきた普天間飛行場内の埋蔵文化財分布調査の概略を述べてきた。

今回の調査は、普天間飛行場内の南東端と北西端において、370ヶ所の試掘調査を実施した。これにより、今回の範囲の遺構・遺物包含層等の埋蔵文化財分布状況がかなり明らかにできた。しかしながら、今回の調査は、即日現状復旧という厳しい条件の中で行ったため、１ヶ所の調査面積は非常に限られており、全ての遺構・堆積層の性格・時期等を確定することは困難であった。各遺跡の詳細は、今後実施する予定であるより大規模な範囲確認調査により明らかにしていくつもりであるが、その調査に向けての課題をまとめることで結語に代えたい。

基本層序については、今回の調査において、時期ごとに大きく４つで捉えた。Ⅰ層が基地造成後、Ⅱ層が戦前以前、Ⅲ層が近世～グスク時代、Ⅳ層が貝塚時代中期の４つである。この層の時期であるが、Ⅱ区においては、特にⅣ層が貝塚時代中期の遺物包含層および遺構であることが、その土器が出土することから明らかにできた。また、Ⅲ層に関しても出土遺物自体は少ないが、数ヶ所でグスク時代と考えられる柱穴群が確認できた。一方、Ⅰ区については、時期が確定できる層は数えるほど少なく、明確な遺構もほとんど検出しなかった。ただ、後述するように、Ⅱ層よりも古いと考えざるをえない層があり、これらをⅢ層と捉えた。このように、全ての地点において土器・陶磁器等の遺物によって抑えられたものではなく、遺物が出土する地点の層序を基準として推測したものである。よって、今後の調査により各地点の確実な時期を把握していく必要がある。

Ⅰ区においては、柱穴・石積等の集落に関わる遺構、明確な遺物包含層等の検出は確認できなかった。ただ、層序から近世以前と思われるⅢ層があり、62－Ｆ10－スのように18世紀代の染付が出土する層よりもさらに下層に約１ｍほどの厚い堆積があるので、グスク時代までは遡る可能性もある。このⅢ層は、暗褐色系の土層が多く、炭・焼土の混入が見られることから、何らかの人為的な堆積と思われる。この層の性格であるが、谷状の地形に堆積することが多いこと、戦前までこの一帯は広く畑地であったことなどから、耕作土の可能性を想定したい。それを裏付けるために、花粉および植物珪酸体の分析（第Ⅵ章第1節参照）を行った。その結果、花粉に関してはイネ属やアブラナ科等の栽培植物のものが検出できたが、より現地性が高い植物珪酸体では、イネ属のものは検出できなかった。この地区のⅢ層については、今後の調査により詳細な検討が必要と思われる。

一方、この地区の北側では基地造成に伴い接取された宜野湾古村落があり、その痕跡が検出されることが期待された。しかしながら、一部で戦前の建物の基礎と思われるコンクリートが見つかったのみで、さらに近世に遡る明確な痕跡は確認できなかった。ただ、数片であるが18世紀代の染付が検出されているので、この村落自体は18世紀までには遡るものと思われる。

Ⅱ区においては、これまで宜野湾市教育委員会による調査により、ある程度推測されていた遺跡の範囲・性格がより明らかにできた。第Ⅴ章では、遺構・遺物包含層が確認できたブロックごとにみてきたので、ここでは、時期ごとにその分布状況をまとめておく。

Ⅳ層とした貝塚時代中期の分布であるが、８つのブロックで見られた。これを周知の遺跡の範囲も考慮してその様相を概略する。

ブロック１は調査区東端で少量の土器を包含する層があり、周知の喜友名前原第三遺跡に隣接する。この喜友名前原第三遺跡は、グスク時代と思われるピット群が主に検出されており、この遺跡の範疇で捉えてよいかは今後の検討の必要がある。

ブロック２・３は、調査区北端で竪穴住居跡、多量の土器・石器が出土する遺物包含層を検出しており、周知の伊佐上原遺跡群の実態がより明らかになった。この立地は、丘陵先端部にあたり、海が望める位置である。ブロック２は、標高60ｍの地点で、遺構・包含層の範囲は東西に約200ｍの平坦面に広がっており、出土土器は宇佐浜式が主体である。一方、ブロック３は標高68ｍの地点で、この約100ｍ北側に位置し、径約30ｍ程度の平坦面に、カヤウチバンタ式を主体とする竪穴住居跡を検出した。このことから、この遺跡はブロック２の比較的広い平坦面がその中心であり、ブロック３はやや離れた地点的な遺跡と考えられる。今後の調査により、詳細な時期ごとの遺構の分布を把握できよう。

ブロック５は調査区南東で多量の宇佐浜式を中心とした土器が出土する遺物包含層、竪穴住居跡の可能性がある遺構を検出しており、喜友名前原第二遺跡の具体的な様相が把握できた。標高58～65ｍの地点で、先のブロック２・３と低い丘陵により隔てられているので、海が望めない位置である。遺構・遺物包含層の内容、その立地からは、先のブロック２・３と同様の集落遺跡の可能性が高いと思われる。

ブロック７は調査区中央で比較的薄い遺物包含層が検出され、先述した喜友名前原第二遺跡と、後述するブロック８・９の大山岳之佐久原第一遺跡との中間の位置に当たる。すなわち、この２遺跡が別ではなく、同一もしくは関連する可能性がある。標高は56～59ｍの地点で、やや奥まった場所であるので、海は望めない。いずれにせよ、今後の調査により、その範囲をさらに検討していく必要がある。

ブロック８・９は調査区北西部で薄い遺物包含層が検出され、大山岳之佐久原第一遺跡に相当する。この範囲では、平成４年度に宜野湾市教育委員会が緊急調査を行っており、今回もこの成果と同様のものと考えられる。ブロック８は標高52ｍの地点で、東西の約100ｍほどの平坦面にあたり、ブロック９はここから約100ｍ離れた標高48～50ｍの地点のやや落ち込んだ迫地にあたり、地形的にやや異なっている。

ブロック10は調査区南西部で、わずかな土器しかない出土しない層が見つかっており、大山宇久保原第二遺跡に当たる。この層は他のブロックと異なり、その色調は黄褐色系が多いこと、またグライ化の影響が見られること、谷状の湿地的な地形にあたる。つまり、この範囲自体はおそらく集落域ではなく、この住居域は一段と高くなった南側だと考えられる。標高は60～62ｍである。

以上のように、貝塚時代中期の様相を見てきたが、かなりの広範囲に当該時期の遺構・遺物包含層が分布していることが明らかになった。各ブロックには、さらに細かい時期差があるかどうかは、今後の本格的な調査を期待したい。

今回の調査区ではあまり明確ではなかったが、貝塚時代後期の遺物包含層としては、ブロック10の26－B4－ナで検出した。その堆積は上方から流れ込んできたようで、また色調は黄褐色系が基本であるので自然堆積層と考えられる。破片ではあるが、数十片の土器が得られた。標高は60ｍで、この時期においては、非常に高い地点である。

Ⅲ層としたグスク時代の遺構及び遺物包含層の分布であるが、明確な遺構が確認できたブロックについて述べる。ブロック２は、グスク土器が出土する遺物包含層と、柱穴群が見られる。陶磁器はほとんどなく、類須恵器が少量見られるのみで、比較的時期が古い集落跡の可能性がある。ブロック４は調査区中央南東寄りで、多くの柱穴群を検出し、複数の掘建柱建物群が存在していたと思われる。遺物は柱穴からわずかなグスク土器の破片が見られるのみであった。この成果については、次回の概要で詳細に記述する。ブロック８・９ではⅣ層の上に、数基のピットが見られた。ブロック２・４と比べて具体的な様相は分らないが、同様な集落跡である可能性もある。

一方、Ⅰ区で見たように、耕作土と考えられる土層は、やはり谷状の地形であるブロック５・10で確認している。この層の堆積は、グライ化しており、色調も灰オリーブ系の地点が多い。Ⅰ区と同様に谷部の湿地的な環境での耕作地と考えたい。

Ⅱ層である近世以降であるが、耕作土から18～20世紀初頭の陶磁器類の出土が見られる。量的には19～20世紀のものがはるかに多いが、この場所の耕作は18世紀の染付が数点あることから、その上限は18世紀には遡れる。この耕作土は、その地山であるマージ層に起因する極細砂～シルトで、石灰岩小礫、炭が多く混じっており、地形も踏まえると畑に伴うものであろう。Ⅰ区の谷部での土とは異なる。

また、この地域にはこの時期の古墓や古道、様々な石積みも多く残されている。古墓については、基本的には全て空墓である。この古墓および洞窟等の分布については、次回の報告書により詳細に記述する。

これまで、平成14･15年度に実施した普天間飛行場内の試掘調査の成果をまとめてきたわけであるが、やはり調査面積が限られているため、具体的な遺跡の性格については今後の範囲確認調査により、明らかにしていかなければならないであろう。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第24集

基地内文化財Ⅲ

―基地内埋蔵文化財分布調査概要（平成14・15年度）―

発 行 年　2004年（平成16）３月26日
発　　行　沖縄県立埋蔵文化財センター
編　　集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　中頭郡西原町字上原193番地の7
TEL 098（835）8751・8752
印　　刷　株式会社　東洋企画印刷
〒900-0024　那覇市古波蔵4-1-1
TEL 098（831）7404

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2004　Printed in japan
許可無く本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。